

第八十六條 生徒及証人其住所ヲ轉スルハ明細ニ之ヲ認メ速ニ届出ヅベシ

第八十七條 入學中ハ歸郷ヲ許サス

但休業中及自己並父母病氣ノ節ハ此限ニ非ス

第八十八條 疾病事故ニヨリテ退校スル者ハ再入學ヲ許ス若シ怠惰過失ニヨリ放校ノ者ハ再入學ヲ許サス

第八十九條 生徒ニ示スヘキ事ハ之ヲ校内揭示場ニ掲グヘシ

但揭示後三日ヲ過タルハ生徒一般熟知シタルモノト見做スヘシ

第九十條 校則ヲ犯シ私見ヲ逞フシ他人ヲ煽動シ校長以下ノ職員ニ抗シ怠惰或ハ放肆ニシテ教師ノ訓誡ニ從ハサル者ハ其輕重ニヨリ校長之ヲ處罰ス

生徒罰則

第一項 罰ヲ分チ三種トス

一 禁足

二 留置

三 退學

第二項 禁足ハ一日以上一週間以内外出ヲ禁スルモノトシ寄宿生徒ニ之ヲ科ス

第三項 留置ハ一日以上一週間以内毎日停業ノ後二時間宛講堂ニ留置キ業ヲ課スルモノトシ通學生徒ニ之ヲ科ス

第四項 退學ハ寄宿生徒通學生徒ニ通シテ之ヲ科ス

第五項 處罰スヘキ所爲アルモノハ先ツ其始末書ヲ徵シ然ル後之ヲ處分スヘシ

其二 入舍生徒

第九十一條 生徒各舍ニ在リテ寄宿舍取締ノ令ヲ受ケ舍則ヲ遵守シ課業ヲ精勵スルハ勿論行狀言語ヲ慎ミ互ニ信義ヲ以テ交ルヘシ

第九十二條 課業及ヒ起居食事等都テ擊拆ノ報知ニ隨フヘシ

第九十三條 晨起入寢食事及ヒ散步時間ハ日ノ長短ニ因リテ定ルモノトス

第九十四條 外出中ハ殊更風儀ヲ正シシテ不行狀ノ舉動アルヘカラス

第九十五條 散步時間ノ外不得止用向アレハ其旨ヲ取締ニ告ケ外出ノ證書ヲ得之ヲ門監ニ渡シ外出スヘシ尤モ歸舍ノ節ハ保證人證書ヲ持參スヘシ

第九十六條 休業日ハ當日晨起ヨリ日没マテ外出ヲ許ス尤モ外泊スルヲ許サス

但金澤區内ノ者ハ前日課業終リテ出舍シ當日門限マテニ歸舍スヘシ尤モ歸舍ノ節ハ父兄若シハ保證人證書ヲ持參スヘシ

第九十七條 外出中門限ニ後ニ歸舍スル者ハ通門ヲ許サス

但臨時病氣等ニテ證人證書ヲ携ヘ來ルモノハ此限ニ非ス

第九十八條 入寢後他室ニ入ルヲ許サス

第九十九條 病氣ニテ缺課スル者ハ其由ヲ該室舍長ニ告ケ届書ニ捺印ヲ受ケ寄宿舍取締ニ差出スヘシ

第一百條 傳染病又ハ重病ニ罹ルモノハ醫員ノ診斷ニ依リ下宿或ハ歸郷ヲ命ズルヲアルヘシ

但二週間毎ニ醫按書ヲ以テ其景況ヲ届出ツヘシ

第一百一條 冬夏休業ノ外ハ私ヲ便宜ヲ以テ下宿スルヲ許サス

但不得止事故アルカ又ハ病氣等ニテ下宿ヲ願フモノハ事實ヲ詳ニシテ許可スヘシ

第一百二條 父母病氣等ニテ歸省ヲ願フモノハ保證人ノ證書ヲ差出スヘシ

但歸郷ハ往返滞在共三十日ヲ限トス若不得止事件コレアリ此期ヲ超ユルハ逗留願書ヲ出スヘシ

第一百三條 來訪者アルハ應接所ニ於テ面會スヘシ決シテ舍内ニ誘引スヘカラス

○三學

但病氣ニテ應接所ニ出ル能ハサル者ハ其旨ヲ取締ニ告ケ承諾ノ后之ヲ室内ニ招クヘ
 第百四條 燈具並ニ火鉢等ハ意ヲ加ヘ鄭重ニ取扱フヘシ且外出ノ節ハ別シテ火鉢ニ注意
 シ不取締ノ事アルヘカラス
 第百五條 食料ハ月々無滞償却スヘシ
 第百六條 入舎ヲ願フ者ハ身元引受證人ト共ニ事務局ヘ出頭シ左ノ證書ヲ差出スヘシ
 但本人ハ名簿ニ差出スヘシ
 證書式

何府何郡何町何番地住 誰子弟

族籍

何之誰

入舎仕候上ハ御規則爲相守候ハ勿論諸費等相滞不申様可爲致候萬一相滞候ハ必ス五
 日以内ニ拙者共ヨリ代納可致候依テ身元引受人ニ相立申處如件

年月日

身元引受人 何之誰印

族籍

何之誰印

石川縣甲種醫學學校長何某殿

禁條

第百七條 校内ノ樹木ヲ伐折スル事
 第百八條 借用ノ書籍ヲ粗暴ニ取扱フ事

一三學

第百九條 飲酒放歌吟詩雜戲ヲ爲ス事
 第百十條 事ニ託シ犬呼シテ他ノ勉強ヲ妨ル事
 第百十一條 稗史小説及ヒ玩具ヲ室内ニ入ル事
 但盆裁草木類ノ健康ニ利益アルモノハ此限ニ非ス
 第百十二條 金錢衣服ノ貸借ヲ爲ス事
 第百十三條 廊下等都テ校内ヲ疾走スル事
 第百十四條 點燈后發聲音讀スル事
 第百十五條 傘履物ヲ室内ニ持來ル事
 右諸則之條々並ニ禁條堅可相守候若違犯ノ者アレハ輕重ニ依リ相當ノ罰ヲ命スヘシ
 年 月 日 石川縣甲種醫學學校

第五章 圖書及器械室并圖書借覽
 第百十六條 圖書及器械ハ特ニ其掛ヲ置キ之ヲ取扱ハシムヘシ
 第百十七條 圖書ハ本校職員ニ非レハ貸付セサルヘシ
 但備付壹部ノ圖書ハ仮令本校職員ト雖モ教授上止ナキ場合ニ非サレハ貸付セサルモ
 ノトス
 第百十八條 圖書借受人ハ貸受證書ヲ掛員ヘ差出スヘシ
 但一時ノ借覽ハ本文ノ限ニ非ト雖モ即日必ス返納スヘシ
 第百十九條 生徒圖書ヲ展覽スルルハ必ス展覽室ニ於テスヘシ
 但本校ヨリ貸付スルモノハ此限ニテラス
 第百二十條 圖書ノ展覽時限ハ始業時刻一時前終業時刻ヲ限トス
 第百二十一條 生徒圖書ヲ展覽セント欲スルルハ展覽簿ニ書名番號月日姓名ヲ自記シ捺
 印ノ上之ヲ掛員ニ差出スヘシ

二三學

第二百二十二條 生徒展覽室ニ於テハ沈靜ヲ主トシ雜話音讀亂坐等ナスヘカラス
 第二百二十三條 器械ハ本校職員ト雖貸付セサルヘシ
 但授業上必要ノ器械ハ本文ノ限ニアラス
 第二百二十四條 圖書ヲ汚染或ハ破損シ及ヒ器械ヲ破損スルハ其旨速ニ掛員へ届出ツル

但損害ノ粗漏不注意ニ起因スルモノハ第七十六條ニ據テ處置スヘシ
 石川縣甲種醫學學校規則附錄
 教授ノ要旨

本校ノ教科ハ尋常醫學ニシテ即チ醫學ノ正則ヲ踐ンテ大成セシ學士ヲ教官ニ撰任シ別冊改正ノ規則ニ準シテ以テ實際熟達ノ醫生ヲ陶冶スルニ在リ而シテ論理ハ守テ正躰ヲ旨トシ實際ノ診療施術ニ便益アルヲ主トシ其教科書ハ本邦ノ著譯書ヲ撰用シ尙ホ歐米新撰ノ書ニ就キ斟酌シ其要領ヲ摘ミ或ハ「メモランド」ヲ作り圖式ノ如キハ可成的書軸ヲ製シ以テ示教ノ際生徒ニ解シ易カラシムルヲ要シ「プロパティ」ハ時々製造シ以テ授業ノ便ニ供ス而シテ其教授ノ方法ハ各科ニ就テ授業ノ主旨ト其方法ノ概略ヲ示スヘシ左ノ如シ

物理學
 物理學ハ醫學諸科ノ基礎タルカ故ニ主トシテ醫學上必要ノ部分ニ就テ之ヲ詳論シ且可成的器械ヲ裝置シ物理ノ實用ヲ示シ以テ生徒ヲシテ了解記憶ニ便ナラシム授業ハ第一年前後兩半期ニ於テシ前半期 百五十分ニハ總論。物性、平均、單複性、器械、運動、液體及氣體論。波動論。音、光及熱論ヲ講シ後半期 五十六分ニハ磁石論。電氣論及ヒ氣象學ヲ講授ス其教科書ハ飯森挺造物理學ヲ用ヒ而シテ參考書ハ左ノ如シ

「ミユルソル」氏物理書
 「コツペ」氏物理書
 「ガノット」氏物理書
 「ハンデンベルフ」氏物理書
 「デシヤチル」氏物理書
 物理全誌

「リツテル」氏物理日記
 「ステウ」氏物理書
 「クニツケンボス」氏物理書
 「ヨハマシ」氏物理書

化學

化學ハ物理學ト相併行シテ醫學ノ基本ヲリ之ヲ教授スルニハ總論ヨリ無機有機兩體離合ノ變化ニ於ケル定則ヲ論シ實物ヲ示シ成可的實際ノ試驗ヲ施シ化合分析技術ノ方法ヲ教示シ以テ組織生理病理藥劑學等ノ諸科ヲ修ムルノ基本ヲラシム而シテ授業ハ第一年前後兩半期ニ於テシ前半期 百一十分ニハ無機化學總論。酸、鹽基及鹽三類ノ通性論。非金屬各論。金屬總論及各論。分析實地演習ヲ授ケ後半期 百十七分ニハ有機化學總論。脂肪體各論。含水

炭素、脂肪質、新陳代謝成績體、芳香體總論及各論。鞣酸類、糖原質、樹脂、色素質、苦味質、揮發油、胆汁質、「アルカロイド」蛋白質論ス其教科書ハ丹羽敬三下山順一郎纂譯ノ無機化學及ヒ有機化學ヲ用ヒ參考書ハ左ノ如シ

「ロスコー」氏化學書
 「ミユルソル」氏化學書
 新式化學

二三學

四三學

化學日記
化學真理
醫用化學

「ロスコ」及「氏化學書」
「オレマン」

植物學及動物學

植物學及動物學ハ、醫家須要ノ學ニシテ醫學ノ預科ニ屬スルモノナリ故ニ此學亦醫學ノ初ニ當テ講授ヲ要ス之ヲ授ルニ簡明ナ主トシ專ラ醫學上緊要ノ部分ヲ以テシ且乾腊植物、植物園ノ植物、剝製動物等ニ就テ可成の實物ヲ示シ若シ欠品アルハ圖書ヲ示シ生徒ヲシテ會得シ易カラシム授業ハ、第一年前後兩半期ニ於テシ前半期七十四ニ植物外鏡學、植物解剖學及生理學ノ要領及ヒ植物分類法ヲ授ケ次テ醫學上緊要ナル植物ヲ各論ス後半期五十九ニ於テハ動物解剖學生理學ノ大要ヲ説キ次テ自然分類ニ從ヒ諸動物ヲ類別シ醫學上緊要ナル動物ヲ詳論ス其用書ハ植物學ハ松原新之助藥用植物篇ニ據リ動物學ハ「スロイス」氏講義動物學ニ據リ講授ス其參考書ハ左ノ如シ

「シルリング」氏博物書ノ植物篇

「ペンケル」氏藥用植物學

本冊網目

宇田川氏植物學啓原

草木圖說

大井之洞動物學ノモラソド

「トロー」氏動物學

「シルリング」氏博物學動物篇

解剖學

解剖學ハ醫學全科ノ基礎タル最モ貴要ノ一科ニシテ其關係重且大ナリ故ニ此學モ亦醫學諸科ノ初ニ講授セシコトヲ要ス之ヲ教授スルニハ記載解剖學ノ論理ヲ説キ且其學說ヲ詳明セシカ爲メ骨格「フンパラー」人工體或ハ圖譜ヲ示シ死體アルハ別ニ時間ヲ設ケ生徒ヲ實地演習ヲナサシム授業ハ、第一年前後兩半期ニ於テシ前半期百十一ニ於テ總論、骨論、關節及韌帶論ヲ授ケ後半期二百三十二ニ於テハ筋、內臟、五器官、尿管及神經論ヲ教授ス講本ハ田口和美解剖攪要ヲ用シ參考書ハ「ヒルドル」氏解剖畫「ハイツマン」氏解剖圖書及「グレイ」氏解剖圖ヲ用フ

局所解剖學ハ此學期ニ於テ授業セスト雖外科總論及各論ヲ教授スルニ方リテ其適應ノ部分ニ就キ之ヲ詳論シ傍ラ増大ノ圖書ヲ示シテ其論理ヲ證明ス

組織學

組織學ハ身體ヲ構成スル所ノ組織形成分ヲ顯微鏡ニ據リテ論究スル學ニシテ醫學上緊要ノ一科ナリ此學ハ專ラ論理ヲ説キ且一々顯微鏡ヲ用シ論理ニ適當ノ「フンパラー」ヲ示シ或ハ圖書ヲ用シテ其學說ヲ證明スルハ、第二年前半期ニ於テハ此期中百十一時間ヲ以テ細胞論、組織總論及各論ヲ教授シ別ニ五十六時間以上ヲ設ケ生徒ヲシテ顯微鏡法ヲ實地ニ演習セシム講本ハ田口和美組織攪要ニ據リ參考書ハ「チーケル」氏組織學「フライ」氏組織學ヲ用ユ

生理學及胎生學

生理學及胎生學ハ人體生育ニ於ケル常態ノ理則ヲ論究スルノ學ニシテ之ニ據テ以テ後來

五三學

六三學

生活變態ノ病理ニ通スルノ識量ヲ増スモノナリ之ヲ生理總論生理各論及胎生學ノ三大目ニ區別シ第二年前半期二百四十ニ於テ之ヲ教授ス而シテ總論ニ於テハ生活力、動植物ノ區別及人體ノ化學的成分ヲ説キ各論ニ於テハ血液、淋巴、乳糜、榮養、分泌、新陳代謝、呼吸、體溫、筋、神經、神經中樞器、五官等ノ諸目ヲ論シ胎生學ニ於テハ生殖機能及胎兒發育論ヲ説キ然シテ此ノ科ヲ講述セルニ方テ可成の生活動物ニ就キ生理的試驗ヲ實地ニ施シ或ハ圖書及ヒ他ノ模造裝置ヲ以テ機械的ノ作用ヲ證明シ或ハ生理的化學製品ヲ示シ或ハ顯微鏡力ニ藉テ生徒ノ了解ニ使ス教科書ハ「ナイゲル」氏生理學「メモランド」ニ據ル參考書ハ「オットフンケ」氏生理學「ヘルマン」氏生理學「キョルリケル」氏胎生學大井玄洞「メモランド」等ヲ用ユ

藥物學及處方學

藥物學及處方學ハ百八十時間ヲ以テ第二年後半期中ニ講授ス之ヲ授ルニハ總テ簡明ヲ主トシ藥物ヲ化學的ニ分類シ每分類ノ初頭ニハ性質効用ヲ通論シ要用ナル各品ノ條下ニ實物ヲ示シ其異ナル所ノ効用、主治、禁忌、用量、中毒療法ノ項目ヲ説キ稀ニ用フル藥品ハ其名稱ノミヲ示シ或ハ之ヲ省察ス其動物試驗ノ如キハ緊要ノ者ノミヲ舉ク其日常使用スル藥品ハ製劑及處方ヲ併示ス教科書ハ「ノートナーク」氏及ヒ「ロスバツフ」氏著鈴木孝之助譯補ノ詳約藥物學ヲ用キ「フリーゼマン」氏藥劑學「ハレゲル」氏獨逸局方註解「ウー」及ヒ「ベーク」氏合衆國調藥書「リンゲル」氏藥性論和蘭藥鏡等ヲ參考書トス處方學ハ「フリーゼマン」氏藥劑書ニ據リ處方記載法配合禁忌及丸、散、水劑等トナスヘキ定則ヲ教授ス參考書ニハ「クルツエツク」氏處方學「ヴァルケンブルグ」氏配劑學及ヒ林紀處方學ヲ用ユ

診斷學

診斷學ハ身體ノ諸病殊ニ內部ニ於ケル疾病ノ所在及其病性如何ヲ鑑別スルノ法ヲ究明スルノ學ニシテ治療學中重要ナル一分科ナリ此學ハ第三年前半期七十四ニ於テ教授ス其論理ノミナラス健者或ハ患者ニ就テ實地演習セシム教科書ハ「グットマン」氏胸傷器檢査法ヲ抄譯スル者ヲ用ヒ參考書ニハ「ゲルハルト」氏打聽診論「ニーマイエル」氏打聽診論「ニーマイエル」氏理學的診斷學問支卿診斷提徑長谷川泰診斷要訣ヲ用ユ

內科學

內科學ハ疾病治法ノ一大科ニ屬スル者ニシテ之ヲ通論各論ノ二種トス內科通論ハ第二年後半期百十七ニ於テ疾病總論及ヒ原因總論ニ次テ血行、榮養、血液調和異常ヲ説キ內科各論ノ基礎ヲナスヲ以テ主トス而シテ獨リ論理ノミナラス疾病的「プレバライト」及ヒ圖書ヲ示シ教科書ニハ三宅秀病理總論ヲ用ユ

內科各論ハ第三年前後半期ト第四年前半期トノ三期三百三十九時間ニ於テ身體諸系各器ニ發

スル諸病ノ重要ナル者ニ就テ其本性、原因、症狀、經過、治法、預後等ヲ教授ス其教科書ハ今姑ク「ニーマイエル」氏內科各論ヲ抄譯シテ之ニ充ツ其參考書ハ「ロキタンスキー」氏病理解剖學「ウー」及ヒ「ワグネル」氏病理總論「ヴィルヒョー」氏細胞病理學「ハルトベン」氏病理總論「レベルト」氏病理總論「コンハイム」氏病理總論「ヴェーベル」氏病理解剖總論「ケールフェルデル」氏病理解剖圖譜「クレンツェ」氏病體解剖圖譜「シノンツ」氏內科各論「レベルト」氏治療書三宅秀病理各論桑田衡平譯華氏內科摘要「エルメンソス」氏原病通論及ヒ各論等トス

外科學

七三學

八三學

外科學モ疾病治法ノ一大科ニシテ外科的ニ關スル諸病ノ理則及ヒ其療法ヲ論究スルノ學ナリ之ヲ通論及ヒ各論ノ二トス

通論ノ授業ハ第二年后半期百七十ニ於テ外傷、炎性、諸病、贅生物、先天畸形等ノ原因病理及ヒ治法ノ通則ヲ論シ其適應ノ部分ニ就キ器械、繃帶及局所解剖學ヲ併論シ且ツ一々器械若クハ圖畫ヲ示シカメテ生徒ヲシテ了解シ易カラシム今姑ク佐藤進ノ外科通論ヲ用ヒ之ヲ析衷シテ教科書トス

外科各論ハ第三年前后兩半期ト第四年前半期トノ三期二百八十ニ於テ頭部、面部、頸部、胸部、陰部、脊柱、四肢等ニ發スル外科的諸病ニ就テ其原因、症狀、經過、治法等ノ論理ヲ教授シ加之適應ノ部分ニ就テ手術法及局所解剖學ヲ併論シ併テ器械、繃帶、圖畫、骨格等ヲ示シテ其理由ヲ説明シ且ツ之ヲ病症ニ就テ實際ニ徴知セシム講本ハ「キョーニヒ」氏ノ順序ニ據リ口述シ生徒ヲシテ筆記セシム其外科總論暨ヒ各論ニ要スル參考書ハ左ノ如シ

「ビュロート」氏外科的病理及療法總論
「ハイツマン」氏外科器械、繃帶及手術學約說
「ハイツマン」氏外科病理及療法約說
「シュルツ」氏外科總論及各論
「ローゼル」氏解剖的解剖學
「ビータ」氏解剖的解剖學
「ハークン」氏耳科學
「バルデントベン」氏外科學及手術學
「ノキドヨルフェル」氏軍陳外科書

九三學

「ダロス」氏外科書
「リンハルド」氏外科手術學
「ギユンテ」氏失血的手術論
「エリキセン」氏外科書
「ツエスチル」氏外科器械及繃帶學
「グルト」氏手術學
「ライテル」氏外科器械圖譜

皮膚病及煤毒論 五十六ニ於テ之ニ屬スル諸般ノ疾病ニ就キ原因、病理、症狀、治法ノ論理ヲ教授シ且ツ圖畫ヲ示シ尙ホ病床ニ就キ之ヲ實驗セシム教科書ハ未ダ頁書ニ乏シキヲ以テ「シュルツ」氏講本ヲ添削シ而シテ參考書ニハ「ノキマン」氏皮膚病論「ツアイスル」氏煤毒性病理「ニーマイエル」氏皮膚病論及煤毒篇「ウイルソン」氏着色皮膚病圖譜「ヘルバ」氏着色皮膚病圖譜等ヲ用ユ

眼科學 眼科學ハ視官諸病ノ理及治法ヲ究明スルノ學ニシテ輒近ニ至テ完全ノ一科ヲナセルモノナリ此學ノ授業ハ第三年前后兩半期百十五ニ於テ眼部檢查法、眼炎ノ治法、沈論、結膜、角膜、虹彩、毛様体脈絡膜、網膜、視神經視器官能、硝子体、水晶体等ノ諸病、光線屈折異常、調節機變常及ヒ眼筋、眼瞼淚器、眼窩諸病ノ原因、病理、經過、鑑別及ヒ治法ヲ教授シ可成的圖畫及ヒ器械ヲ示シ且ツ論理ヲ實驗セシム教科書ハ東京大學醫學部教授「シュルツ」氏講本ニ據リ參考書ニハ「マイエル」氏眼科學「マウアインゲル」氏眼科各論「ステルヴァイグ」氏

○四學

オン、カリオン「氏眼科書」ヘッケル「氏眼目病理的局處解剖圖譜」エーゲル「氏檢眼鏡論醫科全書眼科篇」柳樹譯纂眼科書ノ書ヲ用ユ

婦人病論

婦人病論ハ婦人生殖器諸患ノ病理及治法ヲ講究スルノ學ナリ授業ハ第三年後半期ニ於テ五十九時間ヲ以テス初ニ婦人診察法ヲ論シ次テ外陰部、膣、子宮、靱帶、喇叭管、卵巢等各部ニ發スル疾病ノ原因、症狀、鑑別、豫后、治法等ヲ説キ外陰部、膣及子宮ノ先天畸形ヲ併論シ傍テ器械及圖畫ヲ示シ且ツ病床ニ就キ論理ヲ實驗セシム教科書ハ「ベルツ」氏婦人病論「講本」ヲ補譯セル者ヲ用ヒ參考書ニハ「シユロイデル」氏婦人病論「トーマス」氏婦人病論山崎元修婦人病論「ハイゲル」氏婦人科圖式「マルナン」氏婦人科及産科圖式「シロイデル」氏産科書ヲ用ユ

産科學及實地演習

産科學ハ妊娠ニ係ル諸般ノ事ヲ究明スル學ナリ第四年前半期五十六ニ於テ始メニ骨盤論ヲ説キ次ニ妊娠分娩及ヒ産褥等ノ生理、病理及ヒ治法ヲ授ケ其妊娠經過ノ説明ニハ紙型人工胎ヲ以テシ胎孕模型ニ就テ器械ノ使用法、胎兒位置ノ鑑識等ヲ演習セシム教科書ハ「ベルツ」氏産科學講本ヲ補譯シテ之ヲ用ヒ「クレイト」氏及「ヴィンケル」氏産婆術書「ヒューテル」氏産科手術學「リース」氏分娩機論「マルナン」氏婦人科及産科圖式等ヲ以テ參考書ニ充ツ

内科臨床講義

内科臨床講義ハ内科論理ヲ修ムル生徒ヲ患者診治ノ實地ニ臨マシメ其論理ヲ實際ニ徴シ且診察技術ヲ煉磨セシムルモノナリ授業ハ第三年前後兩半期ト第四年前後兩半期トノ四期三百廿六ニ於テ金澤病院外來及入院患者ニ就テ鑑識、病因、豫后、治法等ヲ教示シ或ハ時間以上

各生徒ヲテ自ラ診治ノ意見ヲ述ヘシメ加之患者ノ分泌及排泄物ノ化機及ヒ顯微鏡的検査病床治驗録記載等ヲ分擔セシム

婦人病臨床講義

婦人病臨床講義ハ今姑ク内科病床ニ附屬セシメ而シテ其手術ニ係ル者ハ外科病床ニ送附ス

産科臨床講義

産科臨床講義ハ院中該室ノ設ナキヲ以テ産科的患者アルニ方リ内科病床ニ於テ之ヲ講ス

外科臨床講義

外科臨床講義ハ其主旨及方法内科ニ於ケルト全シ乃チ第三年後半期ト第四年前後兩半期トノ三期二百八十九ニ於テ金澤病院外來及入院患者ニ就テ鑑識、原因、豫后治法手術法式ノ撰擇手術豫備、後療法等ヲ説明シ又生徒ヲシテ自カラ豫診シテ前記ノ諸件ヲ述ヘシメ或ハ助手トナシ或ハ傍觀セシム其他病床治驗録記載及ヒ病的變狀ニ係ル諸検査ヲナサシムルコト内科臨床講義ノ條下ニ記載スルカ如シ

眼科臨床講義

眼科臨床講義ハ第四年前後兩半期九十四時ニ於テ眼科論理ヲ修ムル生徒ニ金澤病院外來入院患者ニ就テ實地演習セシムルノ法總テ外科ニ於ルカ如シ且視官機能及ヒ眼底診査法、眼鏡撰擇法、檢眼鏡使用法等ヲ實修セシム

衛生學

衛生學ハ其係ル尤モ貴重且重ナリ即チ衆庶ノ健康ヲ規圖シ且之ヲ保持スルノ方法ヲ究明スルノ學ナリ今本校此科ヲ設ク授業ハ第四年後半期五十九ニ於テ健全學公衆衛生學警察衛生學

一四學

三四學

生學等ノ要旨ヲ各論シ專ラ公衆衛生學及ヒ警察衛生學實際ニ關スル緊切ノ綱領ト其利害ノ關涉ヲ示ス教科書ハ「クラウス」氏及「ビフレル」氏衛生學ニ據リ參考書ニハ「パツペンハイム」氏衛生警察學「オエステルレン」氏衛生學「フリユツゲ」氏衛生學衛生汎論衛生概論本朝衛生學等ヲ用ユ

裁判醫學

裁判醫學ハ尋常醫學ノ講力ニ基キ醫學ヲ法律上ニ適用スル方法ヲ講究スル一學科タリ或ハ之ニ由テ法律ノ制定ヲ補助シ或ハ之ニ由テ裁判上ノ審理ヲ補助スル等其關係極メテ重且大ナリ是レ本校此科ヲ設クル所以ナリ授業ハ第四年後半期 五十九ニ於テ先ツ裁判醫學的檢査法ノ通規ヲ説キ次テ裁判上ニ係ル精神的、生殖器的、傷殺的、保生物品欠乏ニ起因スル死傷的、中毒性死傷的、初生兒死傷的、醫療施行的等七件ノ檢査ニ於ケル要領ヲ簡明ニ講授ス教科書ハ幸ニ本校ニ於テ明治八年蘭人「ドクトルホルマン」氏ヲシテ中醫學ヲ講セシメシ其稿本及ヒ又曾テ漢國人「ドクトルローレンツ」氏ヲシテ裁判醫學ヲ講セシメシ其稿本トヲ添削シ之ニ據ル參考書ハ「ブラチル」氏裁判醫學「ドイニツツ」氏辯認醫學「シナイテル」氏裁判的化學「クラウス」及ヒ「ビフレル」氏裁判醫學「ハウスカ」氏裁判醫學「ホフマン」氏裁判醫學「テイロル」氏裁判醫學「ヘルマン」氏試驗的中毒學本邦刑法治罪法等ヲ用ユ

○甲三十六番

四月十五日附

今般文部省ヨリ商業學校通則左ノ通達相成候條此旨布達候事

商業學校通則

第一章 總則
第一條 商業學校ハ此通則ニ遵ヒ商ノ學業ヲ教授スル所トス

第二條 商業學校ハ之ヲ分テ第一第二ノ二種トス第一種ハ主トシテ那ラ善ク商業ヲ營ムヘキ者ヲ養成スル爲メ上款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス第二種ハ主トシテ善ク商業ヲ處理スヘキ者ヲ養成スル爲メ下款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス
第三條 商業學校ニ於テハ商業諸般ノ取引事務ヲ演習スルニ足ルヘキ商業實習室ノ準備アルヲ要ス

上款

第二章 學科目

第四條 第一種商業學校ノ學科ハ左ニ掲クル諸目トス

修身

讀書

習字

算術

簿記

商業書信

商業地理

商品

商業經濟 商業實習

但土地ノ情況ニ由リ本文某科目ノ程度ヲ斟酌シ若シハ斟酌セズンテ特ニ銀行、爲替、運輸、保險、會社、圖書、物理等ノ某科目ヲ置キ又英、佛、獨、支那、朝鮮等ノ某語ヲ置クコトヲ得

第三章 修業年限、口數及時數

第五條 第一種商業學校ノ修業年限ハ二箇年トス

但此年限ヲ一年以內増加スルコトヲ得

第六條 第一種商業學校ノ授業日數ハ少クトモ毎年三十二週ヲ下ルヘカラス

第七條 第一種商業學校ノ授業時間ハ每週三十時ヲ以テ度トス

第四章 入學生徒ノ資格

第八條 第一種商業學校ニ入學スル生徒ハ品行善良體質強健ニシテ年齡十三年以上トス

第九條 第一種商業學校ニ入學スル生徒ハ小學中等科卒業ノ學力ヲ有スル者若クハ少クトモ左ニ掲クル科目ニ就テ小學中等科ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

四四學

讀書

第五條 習字 算術

第十條 第一種商業學校ノ教員中少クトモ一名ハ文部卿ノ認可ヲ經タル者ヲ以テ之ニ充テ主トシテ重要ノ學科目ヲ擔任セシムヘシ

下款

第六章 學科目

第十一條 第二種商業學校ノ學科ハ左ニ掲クル諸目トス

- 修身 和漢文 習字 算術、代數 簿記 商業書信
- 商業地理 圖畫 商品 商業經濟 商業史 商事法規
- 商業實習 英語

但土地ノ情況ニ由リ本文某科目ノ程度ヲ斟酌シ若クハ斟酌セズシテ特ニ銀行、爲替、運輸、保險、會社法、海上法、契約法、關稅、統計、物理、化學、博物、幾何、機械、工藝誌等ノ某科目ヲ置キ又本文英語ノ外若クハ英語ニ代ヘテ佛、獨、支那、朝鮮等ノ某語ヲ置クコトヲ得

第七章 修業年限、日數及時數

第十二條 第二種商業學校ノ修業年限ハ三箇年トス

但此年限ヲ一年以内増加スルコトヲ得

第十三條 第二種商業學校ノ授業日數及授業時間ハ第六條及第七條ニ準ス

第十四條 第二種商業學校ニ入學スル生徒ハ品行善良體質強健ニシテ年齡十六年以上トス

第十五條 第二種商業學校ニ入學スル生徒ハ初等中學校卒業ノ學力ヲ有スル者若クハ少

クトモ左ニ掲クル科目ニ就テ初等中學校ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
和漢文 算術、代數 地理 物理

第九章 教員ノ資格、員數

第十六條 第二種商業學校ノ教員中少クトモ二名ハ第十條ニ準ス

○甲三十七番 四月十五日附

今般文部省ヨリ中學校通則左ノ通達相成候條此言布達候事

中學校通則

第一條 中學校ハ此通則ニ遵ヒテ之ヲ設置シ中人以上ノ業務ニ就ク者若クハ高等ノ學校ニ入ル者ノ爲メニ忠孝彝倫ノ道ヲ本トシテ高等ノ普通學科ヲ授クヘキモノトス

第二條 中學校ノ教員ハ文部省明治十四年七月二十八號達中學校教則大綱ニ據ルヘキモノトス

第三條 中學校長ハ品行端正ニシテ學校管理ノ任ニ堪フヘキ學力才幹アル者ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトス

第四條 中學校教員中少クトモ三人ハ中醫師範學科ノ卒業證書又ハ大學科ノ卒業證書ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトス

但本文ノ證書ヲ有セスト雖モ府知事縣令ニ於テ相當ノ資格アリト認ムル者ハ文部卿ノ許可ヲ經テ之ニ代フルコトヲ得且高等中學校ヲ置カスシテ農業工業商業等ノ專修科ヲ置キ又ハ初等中學校ノニ置クモノハ文部卿ノ許可ヲ經テ本文ノ制限ヲ斟酌スルコトヲ得

第五條 中學校ハ修身其他諸科ノ教授上必須ノ圖書及博物、物理、化學等ノ器械標本類ヲ備フヘキモノトス

五四學

六四學

第六條 中學校ハ生徒ヲ教授スルニ足ルヘキ教場物理化學ノ試驗室、體操場及生徒ノ扣所、職員ノ詰所等ヲ設クヘキモノトス

第七條 中學校ノ經費下シテ供給スヘキ金額ハ前條々ノ準備ヲ辨スルニ足ルヘキモノトス

第八條 中學校設置廢止等ノ手續其府縣立ニ係ルモノハ文部省明治十四年一月第四號達府縣立學校等設置廢止規則ニ據ルヘク其町村立私立ニ係ルモノハ該府縣ノ町村立私立學校等設置廢止規則ニ據ルヘキモノトス

○甲二十八番

四月十五日附

文部省ヨリ農學校通則左ノ通達相成候條此旨布達候事

農學校通則

第一章 總則

第一條 農學校ハ此通則ニ遵ヒ農ノ學業ヲ教授スル所トス

第二條 農學校ハ之ヲ分テ第一第二ノ二種トス第一種ハ主トシテ躬ヲ善ク農業ヲ操ルヘキ者ヲ養成スル爲メ上款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス第二種ハ主トシテ善ク農業ヲ處理スヘキ者ヲ養成スル爲メ下款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス

第三條 農學校ニ於テハ殊ニ本邦ノ農事ニ就キ第一種ハ主トシテ實業ヲ授ケ第二種ハ學理ト實業ト去並ヒ授クルヲ要ス且實驗ノ用ニ供スルニ足ルヘキ田圃等ノ準備アルヲ要ス

上款

第二章 學科目 第一種農學校ノ學科目ハ左ニ掲グル諸目トス

修身

算術幾何

物理

化學

動植物

耕種

養畜

農業經濟

農業簿記

但土地ノ情況ニ由リ本文某科目ノ程度ヲ斟酌シ若クハ斟酌セズシテ特ニ園藝、森林、開墾、養蠶、養魚、桑、茶、綿、麻、楮、藍、漆、櫨、甘蔗、藍粟、葡萄、烟草等ノ耕種法、製茶法、製糖法、農産物貯法、肥料製造法等ノ某科目ヲ置クコトヲ得

第三章 修業年限日數及時數

第五條 第一種農學校ノ修業年限ハ二箇年トス但此年限チ一年以内増加スルコトヲ得

第六條 第一種農學校ノ授業日數ハ少クシテモ毎年三十二週ヲ下ルヘカラス

第七條 第一種農學校ノ授業時間ハ每週講學十二時實習三十時ヲ以テ度トス但每週講學及實習時間ハ修業年限ニ通シ相斟酌シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第四章 入學生徒ノ資格

第八條 第一種農學校ニ入學スル生徒ハ品行善良體質強健ニシテ年齡十五年以上トス

第九條 第一種農學校ニ入學スル生徒ハ小學中等科卒業ノ學力ヲ有スル者若クハ少シトモ左ニ掲ル科目ニ就テ小學中等科ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

讀書

算術

第十條 第一種農學校ノ教員中少クシテモ一名ハ文部卿ノ認可ヲ經タル者ヲ以テ之ニ充テ

主トシテ重要ノ學科目ヲ擔任セシムヘシ

下款

第十一條 第二種農學校ノ學科目ハ左ニ掲グル諸目トス

第六章 學科目

第一種農學校ノ學科目ハ左ニ掲グル諸目トス

學四學

八四學

修身 物理學 植物學 農用工學 農業經濟

代數、幾何、三角法 圖畫 動物學 農用化學 養畜 農事法規

但土地ノ情況ニ由リ本文某科目ノ程度ヲ斟酌シ若クハ斟酌セズシテ特ニ園藝、森林、開墾、獸醫、昆蟲學等ノ某科目ヲ置キ又養蠶、養魚、桑、茶、綿、麻、楮、藍、漆、蠟、糖、甘藷、蘆粟、葡萄、烟草等ノ耕種法製茶法、製糖法、農產物貯法、肥料製造法等ノ某科目ヲ置クコトヲ得

第七章 修業年限、日數及時數

第十二條 第二種農學校ノ修業年限ハ三箇年トス
但此年限ヲ一年以内増加スルコトヲ得

第十三條 第二種農學校ノ授業日數ハ第六條ニ準ス

第十四條 第二種農學校ノ授業時間ハ每週講學及實習各十八時ヲ以テ度トス
但每週講學及實習時間ハ修業年限ニ通シ相斟酌シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第八章 入學生徒ノ資格

第十五條 第二種農學校ニ入學スル生徒ハ品行善良體質強健ニシテ年齡十六年以上トス

第十六條 第二種農學校ニ入學スル生徒ハ初等中學校卒業ノ學力ヲ有スル者若クハ少クトモ左ニ掲クル科目ニ就テ初等中學校ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

和漢文 算術幾何 地理

物理 第九章 教員ノ資格、員數

光四學

第十七條 第二種農學校ノ教員中少クトモ二名ハ第十條ニ準ス

○甲五十八番 五月三十一日附
金澤區五番學區仙石町ニ於テ一小學校羽咋郡一番學區麥生村并四番學區地頭町村ニ於テ各更ニ一小學校指示候條此旨布達候事

○甲六十一番 六月七日附
管内町村立私立小學校定期試業期左ノ通り相定メ候條來ル明治十八年十月迄ニ實施候條可致此旨布達候事

一 町村立私立小學校ノ定期試業ハ一般ニ毎年四月十月ノ兩期トス
但近接ノ小學校ハ豫テ組合ヲ定メ中央便宜ノ小學校ニ各校生徒ヲ集合シテ試業ヲ施スコトアルヘシ尤モ其組合ヲ定ムルニ當リテハ縣令ヘ開申スヘシ

一 土地ノ情況ニ因リ試業期月ヲ四月十月ノ兩期ニ定メ難キ地方ニ於テハ其情由ヲ具シ豫テ經伺ス可キモノトス

○甲六十五番 六月十日附
本縣撰舉師範生徒募集規則別冊之通相定候條此旨布達候事

(別冊)

石川縣撰舉師範生徒募集規則

第一條 撰舉師範生徒ハ小學校中學校教員ノ善良ナル者ヲ養成シ以テ普通教育ノ改良ヲ圖ラシメシテ爲メ生徒ヲ撰舉シテ地方稅若クハ地方稅支出區町村留學生補助費若クハ區町村協議費ヲ給シ文部省直轄東京師範學校ニ入學セシムルモノトス
但時宜ニ依リ地方稅支出區町村留學生補助費若クハ區町村協議費ヨリ學費ノ幾分ヲ給スルコトアルベシ

○五學

- 第二條 生徒ノ員數入學期限試驗期日等ハ其期ニ先チ縣令ヨリ告示スルモノトス
- 但地方稅支出區町村留學生補助費若クハ區町村協議費ヨリ支給スルモノハ郡區長又ハ戶長ニ於テ豫メ其計畫ヲナスモノトス
- 第三條 生徒ハ縣内ニ住居ヲ定メ且左ノ各款ニ該當スル者タルヘシ
 - 一 年齡十七年以上三十二年以下ノ者
 - 一 但入學後一ケ年以内ニ徵兵ノ事故ナキ者
 - 一 身體強健ニシテ在學中家事ニ係累ナキ者
 - 一 志望縣内ニ於テ小學校若クハ中學校ノ教員ニ從事セント欲スル者
 - 一 品行端正ナル者
- 一 學力小學師範學科ヲ修メント欲スル者ハ小學高等科卒業以上ノ者若クハ之ニ適應スヘキ學力ヲ有スル者
- 一 中學師範學科ヲ修メント欲スル者ハ初等中學科卒業以上ノ者若クハ之ニ適應スヘキ學力ヲ有スル者
- 第四條 入學セント欲スル者ハ郡區役所ヲ經テ第十三條第一號書式ノ願書正副二通ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添エ差出ヘシ
- 第五條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ本縣在住ノ戶主ニシテ身元引受人トナルニ足ル資格ヲ有スル者ヲ証人トシ郡區役所ヲ經テ第十三條第三號書式ノ誓書ヲ差出ヘシ
- 但地方稅支出留學生補助費又ハ區町村ノ協議費ニ係ルモノハ其支給法ニ據リ第十三條第三號書式ニ準テ郡區長若クハ戶長學務委員ニ差出ヘシ
- 第六條 生徒ハ總テ該校内ニ寄宿シ諸規則ヲ遵守スヘシ
- 第七條 生徒ノ學費ハ一人一ケ月凡ソ金六圓ヲ支給スルモノトス但時宜ニ依リ官費ヲ給セラルトアルヘシ此場合ニ於テハ留學費ヲ支給セサルモノトス

一五學

- 第八條 生徒往返ノ旅費ハ臨時取定メ支給スルモノトス
- 第九條 生徒卒業ノ上在學年月ノ間本縣内小學校若クハ中學校ノ教員ニ從事スヘシ
- 第十條 生徒在學中事故アリ退學スル者若クハ品行不正等ニ因リ退學ヲ命セラレタル者ハ豫テ給與セシ學資并旅費共一時ニ償還スヘシ尤官費生徒ハ其規則ニ據ルヘシ
- 但地方稅支出區町村留學生補助費又ハ區町村ノ協議費ニ係ル者ハ其支給法ニ據リ償還スヘシ
- 第十一條 生徒卒業ノ後教員ニ從事スヘキ年限中自己ノ都合ヲ以テ辭職スル者若クハ教員品行檢定規則ニ觸レ其職ヲ解罷セラレタル者ハ殘餘ノ年月ニ相當セル學資金額ヲ割算シ一時ニ償還スヘシ尤官費生徒ハ其規則ニ據ルヘシ
- 但書第十條但書ニ同シ
- 第十二條 第十條第十一條ノ場合ニ於テ本人ヨリ辨償スルヲ得サルハ證人ヨリ辨償スルモノトス
- 第十三條 願書等書式左ノ如シ

第一號 文部省直轄東京師範學校入學試驗願

某儀

今般地小學校 教員志願ニ付地方稅支出何郡區留學生補助費給與ヲ仰ギ文部省直轄東京
中學校 何郡區町村協議費
 師範學校へ入學仕度候間學業御試驗被成下度依テ別紙履歷書相添此段奉願候也
 石川縣何郡何町村何番地或ハ誰方同居

年號 月 日

縣令 宛

右ハ願意相違無之且本縣撰舉師範生徒募集規則第三條ニ抵觸スル廉無之候依テ與印仕候也

士族 或ハ誰何男女弟姉妹

氏 名 印

石川縣何郡何番學區學務委員

氏 名 印

石川縣何郡外何ヶ村戸長

氏 名 印

第二號 用紙美濃紙

履歷書

何年何月小學高等科或ハ初等中學校或ハ何師範學校何等師範學科卒業何年何月何學校教員奉職解職及賞罰等但卒業證書辭令書賞狀等ノ寫ヲ添フヘシ右之通相違無之候也

石川縣何郡何町何番地或ハ誰方同居

士族 或ハ誰何男女弟姉妹

明治何年何月何日

生所

氏

名 印 何年何月生

第三號 用紙證券界紙

誓書

某 儀

今般文部省直轄東京師範學校ニ入學御許可相成修業中學資トシテ地方稅ヲ以テ一ヶ月金何圓宛及往返旅費金何圓御支給可有之ニ就テハ他日成業ノ上本縣撰舉師範生徒規則第九條ノ趣ニ遵ヒ本縣中學校ニ教員ノ職ヲ奉スヘキハ勿論万一同規則第十條第十一條ノ場合ニ立至候節ハ豫テ御給與ノ金額ハ速ニ償還可致候依テ誓書如件

石川縣何郡何町何番地或ハ誰方同居

士族 或ハ誰何男女弟姉妹

氏 名 印

右某父兄又ハ後見人(父兄又ハ後見人アルモノニ限ル)

氏 名 印

前書ノ趣相違無之候ニ付拙者證人ニ相立本人身上ニ起リタル事件ハ一切引受可申且償還金相滞候節ハ石川縣撰舉師範生徒募集規則第十二條ノ趣ニ因リ拙者ヨリ辨償可致候也

石川縣何郡何町何番地或ハ誰方同居

四五學

縣令宛
右證人向某原籍前書之通相違無之候也

士族
平民

證人 氏名 印

石川縣何郡何町外何ヶ町戸長

氏名 印

○甲六十八番

六月十八日附

小學教員檢定期月等左之通相定候條此旨布達候事

但本年ニ限り夏期檢定要受者ハ來ル八月十五日迄ニ出願シ九月二十日ヨリ檢定スルモ
ノトス

小學教員檢定ハ毎年二回トシ春季ハ二月十七日ヨリ夏季ハ七月二十日ヨリ石川縣師範學
校ニ於テ之ヲ施行ス故ニ檢定要受者ハ春季檢定ハ一月十五日迄夏季檢定ハ六月十五日迄
ニ出願スルモノトス

○甲六十九番

六月十八日附

本縣學事通則第三十三條左之通修正シ本年夏期檢定ヨリ實施候條此旨布達候事

但從來附與セシ乙號教員免許狀ハ裏面ニ記載スル年限中其効力ヲ有スル義ト心得ヘシ
第三十三條 學科ハ每等一時ニ檢定スルヲ旨趣トスト雖其中等科及高等科ニ於テハ脩身
讀書、算術、習字、教育法ノ五科 女子ハ裁縫ノ 科ヲ加フ 科合試シ及第ノ者ハ所長ニ從ヒ地理ニ歷

史ヲ合セ博物ニ生理ヲ合セ物理ニ化學ヲ合セ經濟圖書ハ單ニ檢定スルヲアルベシ

○乙四番

二月十五日附

但女子ニ限り裁縫ノ一科ヲ檢定スルヲアルベシ
明治十五年七月乙七番ヲ以テ布達置候教員免許狀所有者有効年限中改氏改名其他死亡届
出候節ハ所有ノ免許狀寫相添可届出此旨免許狀所有ノ者ハ布達候事
(公報第貳拾壹號ニ載ス)

○告廿四番

一月十八日附

海軍機關學校生徒募集ノ件(兵事ノ部ヲ參觀スヘシ)

○告廿五番

一月十八日附

海軍兵學校生徒募集ノ件(兵事ノ部ヲ參觀スヘシ)

○告五十七番

二月四日附

客年丙百廿八番ヲ以東京大學并豫備門退學生與田義人外百四十七名文部省直轄官立學校
及公立私立ノ學校へ入學禁止之儀相違置候處右之内別記六十名ハ謹慎悔悟之狀相顯シ殊
ニ酌量スヘキ情實ヲ以今般特ニ解禁相成候條此旨告示候事
東京大學退學生
法學部

鳥取縣士族

長崎縣士族

與田 義人

莊 清 次 郎

新潟縣士族

愛知縣平民

太 田 保

都築 初 五 郎

長崎縣士族

梶 山 源 吾

五五學

學事

山形縣士族 理學部
 田島巳之太郎
 石川縣士族
 小幡文三郎
 三重縣士族
 石川直記
 文學部
 愛知縣士族
 坂倉銀之助
 鹿島縣士族
 三原經國
 愛知縣士族
 德永滿之
 古典講習科
 島根縣平民
 松本愛重
 岐阜縣士族
 戶澤盛定
 茨城縣平民
 太田幸吉
 岐阜縣平民
 龜山玄明

東京府平民
 土井助三郎
 高知縣士族
 和田義陸

福岡縣平民
 添田壽一
 鹿島縣士族
 長崎縣士族
 長崎剛十郎
 長崎縣士族
 稻垣滿次郎

東京府平民
 關根正直
 宮城縣平民
 佐藤定介
 東京府士族
 若松釜三郎

學事

石川縣士族 撰科
 齊藤德五郎
 東京大學豫備門本寮退學生
 東京府士族
 大星八十八郎
 宮崎縣士族
 能勢陳安
 愛知縣士族
 畔柳富五郎
 愛知縣平民
 城野春太郎
 兵庫縣士族
 三上參次
 鳥取縣士族
 田中靜治
 大坂府平民
 澤邊昌磨
 岐阜縣士族
 常松英吉
 福島縣士族
 遠藤剛太郎
 大分縣士族

岡山縣士族
 有森新吉
 岡山縣平民
 平田讓衛
 岡山縣士族
 薄貞吉
 大坂府平民
 有賀長文
 愛知縣士族
 廣瀨吉郎
 埼玉縣士族
 杉浦吉太郎
 茨城縣士族
 朝比奈知泉
 廣島縣士族
 西尾虎太郎
 新潟縣士族
 廣川新太郎
 岐阜縣士族
 渡邊董之助
 大分縣士族

律田 俊郎
山口縣士族
戶倉 馬三
大坂府平民
松岡 万次郎
福井縣平民
柳 祐久
慶島縣士族
吉井 友兄
長野縣士族
原 龜太郎
山口縣士族
柴田 家門
福岡縣士族
野田 十代次
群馬縣士族
佐野 友三郎

加納 哲次郎
東京府平民
瀧澤 清介
三重縣士族
高槻 純之助
兵庫縣士族
服部 漸
島根縣士族
山根 銀之助
福岡縣士族
黑岩 倉太郎
新潟縣士族
田中 勇四郎
愛媛縣士族
野田 藤馬

○告六十五番

二月十三日附

○告九十二番

二月廿七日附

(公報第拾七號ニ載ス)

本縣農業講習所ニ於テ來ル三月三十日限自費生徒貳拾名入學ヲ計ス志願ノ者ハ明治十五年甲百十六番布達ニ準據シ同所ニ可願出此旨告示候事

○告百五番

三月三日附

石川縣教育會規則第二條會員々數左ノ通改定候條爲心得此旨告示候事

- 一 學務擔任郡區書記 九人
- 一 縣立學校長及農業講習所長 四人
- 一 町村立小學校教員 九人
- 一 學務委員 九人

○告百十二番

三月八日附

高等科

金澤區茶木町八拾貳番地士族 石橋 磯吉
留學生
鹿島郡府中村ス五十番地平民 本月十八年
鹿島郡 森 龍次郎
留學生
金澤區御步町四番町十一番地士族 本月十八年八月
留學生 石橋 喜太郎
金澤區 本月十八年一月
能美郡白峰村口三番地平民 織田 岸松
留學生

學事

三百三十二

全

金澤區上松原町四十一番地士族
留學生 出口外余吉
本月十八年三月

女子高等科

金澤區彦三四番丁十二番地同居士族
留學生 寺西拾兔
本月十六年七月

全

金澤區油車町四十五番地士族
留學生 澤田里
本月十七年二月

全

金澤區川端町九十五番地士族
留學生 堀内仲
本月十六年十一月

全

金澤區山ノ上町四十五番地士族
福原松
本月十九年三月

中學科

江沼郡大聖寺弓町千五百七十二番地士族
留學生 宮部金三郎
本月十八年

學事

三百三十三

全

石川郡明島村ヨ十三番地平民
留學生 西田成美
本月十八年六月

全

河北郡川尻村七十二番地平民
留學生 村田米次郎
本月十八年二月

女子中等科

金澤區彦三二番町三十六番地士族
留學生 澤田代々
本月十七年十一月

全

江沼郡大聖寺麻呂一番地士族
留學生 中島孝
本月十五年三月

右記名之者去ル二月廿七日日本縣師範學校ニ於テ高等科或ハ中等科卒業候條此旨告示候事
○告白三十四番 三月十九日附
客年東京大學并豫備門退學生ノ内別記十九名ノ者謹慎悔悟ノ狀相顯ノ且ツ酌量スヘキ情
實ヲ以テ今般特ニ解禁相成候條此旨告示候事
東京大學退學生
理學部

岡山縣士族

静岡縣士族

學事

澤 井 廉
 東京府士族 早乙女清久
 古典講習科
 新潟縣平民 萩野 由之
 愛媛縣士族 井上政次郎
 茨城縣士族 西村 金平
 石川縣士族 山 田 巽
 東京大學豫備門本變退學生
 佐賀縣士族 神崎 東藏
 宮崎縣士族 齋藤 重高
 高知縣士族 木村 彌太
 宮城縣平民 本多 莊次郎
 埼玉縣士族

松島 鈕四郎
 熊本縣士族 池邊 義象
 長崎縣士族 江上 榮三郎
 愛知縣士族 高木 六郎
 岐阜縣平民 渡邊 千代三郎
 長野縣平民 西澤 正太郎
 廣島縣士族 岸本 雄之進
 兵庫縣平民 奥平 萬五郎

○告白六十二番

山口 義勝

四月九日附

今般石川縣甲種醫學學校ニ於テ本科學生五十名豫科學生五十名及製藥學生三十名入學ヲ許ス志願ノ者ハ來ル五月五日迄ニ同校へ出願スヘシ此旨告示候事

○告白六十三番

四月十日附

石川縣小學校教員免許狀交付ノ人名表

(公報第五拾壹號)

○告白二百八番

五月二日附

石川縣師範學校ヨリ書籍器械貸與規則別紙之通リ伺出認可ヲ與ヘ候條此旨告示候事

(別紙)

石川縣師範學校書籍器械貸與規則

第一條 本校備置ノ書籍器械中差向キ不用ノ分ハ願ニヨリ貸與スルモノトス

但他府縣人ヘハ貸與セス(本縣寄留ノ者ハ此限ニアラス)

第二條 書籍器械ヲ借用セント欲スル者ハ第八條書式ニ據リ願書ヲ郡區役所ヲ經テ差出スモノトス

第三條 貸與ノ許可ヲ得ハ第九條書式ノ如ク保證人兩名ノ捺印アル證書取附ケ貸渡スモノトス

第四條 貸與期限ハ往復日數ヲ除キ三ヶ月ヲ限トス猶追借ヲ欲スル者ハ更ニ願出ツルモノトス

第五條 貸與品借用ノ節ハ期限以內ト雖還納セシム此場合ニ於テハ報道ヲ受ケタル日ヨ

學事

四六學

リ五日以内ニ還納ノ手續ヲナスモノトス
 第六條 貸與品受納ノ際要スル運搬費荷造費悉皆借用人ニ於テ支辨スルモノトス
 第七條 貸與品ハ最鄭重ニシテ疎暴ノ取扱ヲナスヘカラス若シ紛失汚穢毀損セシムルハ
 事故ノ何タルヲ問ハズ代品又ハ相當ノ代價ヲ以テ辨償セシムルモノトス
 但水火等非常ノ災ニ罹ル者ハ其事實ヲ糾シ其筋經伺ノ上處分スルコトアルヘシ
 第八條 願書式左ノ如シ
 用紙中折系紙正副 何品借用願

一 何品

何部

右御校備置ノ何品借用仕度候尤御貸與ノ上ハ御校書籍器械貸與規則ノ條目確ク遵守可
 仕候間御許容被成下度此段願上候也

年月日

石川縣何郡何町何番地又ハ同居トカ
 士族
 平民

姓 名 印

前書之通相違無之候也
 石川縣師範學校校長姓名殿

右戸長

姓 名 印

第九條 借用書式左ノ如シ

用紙證券界紙

借用證

借用品數口ナラハ中折系紙ニ證券印紙ヲ貼用スヘシ

一 何品

何部

右御校備置ノ何品借用候處相違無之候然ル上ハ御校書籍器械貸與規則各條目確ク遵守
 可仕候依テ爲後證如件

年月日

石川縣何郡何町何番地又ハ同居トカ
 士族
 平民

姓 名 印

石川縣師範學校校長姓名殿
 前書之通相違無之候萬一本入ニ於テ御規則ヲ遵守セサルノ所行有之ニ於テハ屹度私共
 引受其責任ヲ尽シ可申爲其加印致シ候也

石川縣何郡何町何番地又ハ同居トカ
 保證人

姓 名 印

同

姓 名 印

同

姓 名 印

借用人所在戸長

姓 名 印

保證人所在戸長

姓 名 印

同

姓 名 印

五六學

六六學

第十條 書籍器械中差向キ不用ノ分ハ時々本校ヨリ報告スルモノトス

○告二百廿六番 五月十四日附

今般東京大學豫備門ニ於テ英語學專修課へ初等或ハ高等中學科卒業ノ者募集相成候條右志願ノ者ハ來ル三十一日限リ本廳へ可申出此旨告示候事

○告二百五十五番 五月三十日附

客年東京大學并豫備門ニ於テ退學生ノ内別記柿崎欽吾外六十七名ハ謹慎悔悟ノ狀相顯レ候ニ付今般特ニ解禁相成候條此旨告示候事

東京大學退學生

法學部

東京府士族柿崎欽吾 岡山縣士族平沼騏一郎 三重縣平民日曾益 千葉縣平民平山銓太郎 岡山縣士族鈴木加一 愛知縣平民柳橋愛七 鳥取縣士族入江金治 德島縣士族青木八重八 千葉縣士族吉田佐吉

理學部

鳥根縣士族山口鏡之助 愛知縣士族堀鉞之丞 東京府平民牧野清利 東京府士族市野金一郎 神奈川縣士族大谷津直磨 靜岡縣士族山崎鉦次郎 愛媛縣士族大平松次郎 岡山縣士族渡邊隆 埼玉縣士族下山秀久 山形縣士族鈴木千代吉 東京府士族谷村太刀馬 鳥取縣士族小林柏次郎 新潟縣士族近藤虎五郎 廣島縣士族廣田理太郎 東京府士族秋山鋼太郎 愛知縣平民柴田初次郎 鹿兒島縣士族山田直矢 福井縣平民山田文太郎 愛知縣士族渡邊芳太郎 鹿兒島縣士族長崎豐十郎 靜岡縣士族神保小虎 愛知縣平民岸金三郎 山口縣平民原田貞介 東京府士族堀崎三郎 靜岡縣士族額川豐

文學部

東京府士族大庭寬一 長野縣士族戸澤鼎 山形縣士族小幡三郎 靜岡縣士族成田鍊吉

古典講習科

茨城縣士族雨宮干信 愛知縣平民三浦純雄 東京府士族服部元彦 三重縣士族小串隆大坂府士族橋本光秋 愛媛縣士族内山直枝 埼玉縣平民石田道三郎 埼玉縣士族伊藤平章 岐阜縣平民坂井房之

東京府大學豫備門本學退學生

長野縣士族小松謙次郎 三重縣平民岡崎源之助 愛知縣士族左右田新三郎 新潟縣平民高倉作太郎 東京府士族木村駿吉 鳥根縣士族志立鎮次郎 福岡縣士族稻次亥三郎 愛知縣平民加藤禮次郎 熊本縣士族嘉悅博矩 福岡縣士族三池貞一郎 秋田縣士族山口祐之助 新潟縣平民佐藤虎之助 秋田縣士族中田錦吉 廣島縣平民橋高脩吉 山口縣士族中井喜太郎 鳥取縣平民竹内熊二 滋賀縣士族 最前誠太郎 石黒誠二郎 鳥取縣士族藤田虎力 鹿兒島縣士族松方幸次郎 鹿兒島縣平民是枝軍六 東京府士族 最前信光 松田光信

○告二百六十八番 六月十日附

今般教育通信方法別冊之通り相定ノ來ル七月一日ヨリ施行候條此旨告示候事

(別冊)

一 教育通信委員ハ教育上ノ學識經驗アル善良ノ教育者ニシテ通信委員希望ノ者ヲ撰ミ縣令之ヲ命スルモノトス
一 通信委員ハ其通信ヲ要スト認ムル事項若クハ論說等ヲ郡區役所へ報告マ郡區役所ハ之ヲ縣廳へ出スモノトス
但郡區役所ニ於テモ教育上施行セシ要件及郡區內教育ノ概況ヲ時々縣廳ニ報告ス

七六學

- 一 縣廳ニ於テハ通信委員若クハ郡區役所ヨリノ報道ヲ調査シ有益ト認ムルキハ之ヲ印刷ニ付シ郡區役所各學區縣立學校等ニ報告スルモノトス
- 一 通信委員ヨリ報告スル所ノ事項若クハ論說ヲ縣廳ニ於テ調査シ文部省ニ送致スルアルヘシ
- 一 教育通信ノ概項左ノ如シ
 - 一 德育、知育及体育ニ關スルコト
 - 一 教授ノ方法ニ關スルコト
 - 一 專門教育ニ關スルコト
 - 一 農業教育ニ關スルコト
 - 一 商業教育ニ關スルコト
 - 一 職工教育ニ關スルコト
 - 一 學校ノ管理法ニ關スルコト
 - 一 學校ノ維持法ニ關スルコト
 - 一 學校ノ建築法等ニ關スルコト
 - 一 學校ノ器械等ニ關スルコト
 - 一 巡回授業ニ關スルコト
 - 一 家庭教育ニ關スルコト
 - 一 貧民嚮啞等ノ教育ニ關スルコト
 - 一 幼稚園書籍館等ニ關スルコト
 - 一 學事ニ關スル統計ニ關スルコト
 - 一 學事ニ關スル町村會情況ノコト

- 一 學校ノ衛生上ニ關スルコト
- 一 其他教育上必要ト認メタル事ハ之ヲ記載スルモノトス
- 告二百七十一番 六月十四日附
今般東京師範學校ニ於テ初等中學師範生徒募集相成候條入學志願ノ者ハ本年甲六十五番布達本縣撰舉師範生徒募集規則ニ基キ來ル七月限リ可願出此旨告示候事
- 告二百七十九番 六月十八日附
今般本縣專門學校ニ於テ豫備科第八級三拾名并ニ補缺員トシテ法學科第四級貳拾名豫備科第七級拾名入學ヲ許ス志願者ハ來ル七月十五日迄ニ同校ニ出願スヘシ此旨告示候事
- 告二百八十三番 六月十八日附
今般本縣師範學校ニ於テ高等及中等師範生徒男三拾名女貳拾名入學ヲ許ス志願ノ者ハ來ル七月十五日迄ニ同校ニ出願スヘシ此旨告示候事
- 告二百九十番 六月廿五日附
今般町村立小學校儲設目的表別冊ノ通相定候條此旨告示候事
- (別冊)
町村立小學校儲設目的表例言
第一條 儲設目的表ハ管内町村立小學校各等科ノ資格ニヨリ教員及書籍器械費營繕費諸雜費等ノ準備ヲ示スモノナリ
第二條 教員及書籍器械等ノ準備ハ生徒ノ多寡組數ノ多少ニ依テ増減アルハ勿論ト雖該表ハ各等科共ニ一期一組宛ト積リタルモノナリ

○七學

第三條 該表ハ初等中等高等ノ三科ヲ備具スル學校ト假定シ其目的ヲ示スモノニシテ初等若シクハ初中等若シクハ中高等若シクハ高等ノ學校ハ右ニ比準スルモノナレハ別ニ之ヲ掲ケス

第四條 該表教員數ノ欄内ニ優劣ヲ示スモノハ各等科共ニ甲ヲ以テ適當ノ準備ヲ有スル學校トスルモ土地ノ貧富ニヨリ學費辨給ノ難易ナキ能ハス是優劣ヲ示ス所以ナリ而シテ初等中等ノ最下即己高等ノ最下即丁ヨリ下ルヘカヲサレモトス又書籍器械等ハ優劣ヲ示サハルモノハ學校ノ費用ハ多クハ教員俸給ニシテ教科用書籍器械ノ如キハ土地ノ貧富ニヨリ著キ等差ナキヲ以テナリ但分校モ本文ニ準スルモノトス

第五條 一二科若シクハ數科教授免許狀ヲ有スル準訓導ヲ集メテ授業セシムルハ固ヨリ妨ナシト雖各等科共ニ正格ノ訓導一名以上ハ必之ヲ置クモノトス

第六條 各等科共ニ乙以下准訓導授業生ヲ訓導ト并用スルハ己ムヲ得サルニ出ルト雖モ其等科ノ生徒ヲ教授スルニ足ルキ學力ヲ有スルハ勿論タルヘシ

第七條 校長ニシテ訓導ヲ兼務スルモノハ各等科共ニ訓導ノ數ニ算入スヘク訓導ノ資格ヲ有セズシテ授業ニ從事スルモノハ准訓導又ハ授業生ノ數ニ算入ズルモノトス

第八條 該表教員數ハ一期即一組ノ生徒ニハ必一名ノ教員ヲ置クノ割合ナルモ同期生徒ニシテ組ヲ異ニスルカ又ハ學科ノ都合ニヨリ合級授業ヲ施シ得ルキハ准訓導授業生ハ一時定員ヨリ減スルモ妨ケナシトス

但一教員一組受持ハ生徒四十名ヲ最多數トシ合同教授ハ組數ハ四組人員ハ三十名ヲ最多數トシ尤二組合同セシムル四十名ニ及フモ妨ケナシ

第九條 各等科共書籍ハ教則ニ在ル所ノ圖書及參考書類器械ハ教授ニ要スル所ノ標品及理化學器械其他椅子卓子黑板算盤并校内ニ必需ノ雜品書籍ハ校舍ノ修理又ハ校舍ノ借

揚料雜費ハ小遣給料紙筆墨炭油費等ヲ指スモノナリ
町村立小學校備設目的表

一七學

中等科	等位			優	初等科						優	等位		
	甲	乙	丙		甲	乙	丙	丁	戊	己				
六	六	五	四	二	六	五	四	三	二	一	五	六	二	書籍器械費營繕及諸雜費

高等科	等位	丁	丙	乙	甲	優 員 數	生徒組數	カニ足ルノ準備		
		一	二	三	四				一	二
高等科	劣	丁	丙	乙	甲	高 等 科 導 員 數	授 業 生	及諸雜費		

○丙十八番

三月十七日附

郡區役所、戶長役場

小林政策編	小學指教圖教授本	出版人東京府	北澤伊八
水野龜橋編	小學指教圖教授法	全	水野龜橋
大關重志編	小學指教圖讀本	全	內田彌兵衛
鈴木貞次編	小學指教本(指教圖ノ部)	全	原亮三郎

鈴木貞次編	小學指教本(博物部)	出版人東京府	山家伊吉
村瀬之直編	小學指教圖教授本	全	山中市兵衛
山川九郎編	小學指教圖便覽	全	山川九一郎
內藤彦一編	色圖問答	全	內藤彦一
山本明全編	小學指教圖問答書	全	竹内輝吉
中島恭平編	小學指教圖詳解	全	濱村勘太郎
山上幾久編	小學指教圖客解	全	平田彌平治
馬屋由郎編	方今小學入門便覽	全	岡安慶介
長屋由郎編	小學指教圖教授書	全	岡安慶介
田中棟太郎編	小學指教圖入門便覽	全	內藤傳右工門
美山式著	初等小學入門便覽	全	和歌山縣
田中啓次郎編	初等小學指教圖便覽	全	德島縣
右ハ明治十二年文部省第二號布達ニ背違シ同省編纂ノ原旨ヲ失ヒ妄リニ注解等ヲ加ヘタルモノニテ教育ノ弊害ヲ生スヘキ恐有之候ニ付發行不相成旨達相成候趣其筋ヨリ通達相			

四七學

成候就テハ各學校ニ於テ右等ノ書不相用様學務委員校長教員へ達スヘシ此旨相達候事
○丙二十番 三月三十一日附 郡區役所、戸長役場

明治十六年丙百番及丙百十九番達テ廢シ更ニ小學校調査方離形別紙之通改定候條自今學務課吏員學況視察トシテ巡回若クハ出張ノ際調査ヲ要スル節ハ右離形ニ照準精密掲記シ該官へ可差出様學務委員小學校長教員へ達スヘシ此旨相達候事
但時宜ニ依リ離形中ノ數項ヲ指テ調査スルコトアルヘシ

明治何年何月何日調査

△印ハ朱書

△此年月日ハ學務課吏員巡視當日ノ年月日ヲ記入スヘシ

一 郡區名學區番號學校名稱并地名

何國何郡何番學區何町何番地

何小學校

△學校ノ下ニ其等位ヲ記入スヘシ

一 學校創立年月日及創立後學校沿革

△創立後學校沿革ノ概略ヲ記載スヘシ

一 學校敷地 △(借地)ノモノハ(借地)ノ二字ヲ記載スヘシ

△借地ハ人民一己ノ所有ト從前ノ校下共有若クハ學校所在町村ノ共有トナ區別記載スヘシ

廣袤 東西何間南北何間坪數何程

地所 高燥又ハ卑濕

場所 靜閑又ハ熱鬧 △(借家)ノモノハ(借家)ノ二字ヲ記載スルコト借地ニ同シ(新築)ニ係ルモノハ校舎

五七學

舍ノ下ニ何年何月日建築ト記載スヘシ

構造 平屋又ハ二階造

方位 東南ニ面ス又ハ南ニ面ストカ

建坪總數 何拾何坪

教場數 何箇 總坪何程

但男女區別又ハ混同

教員等事務所 有無 坪數何程

教員寄寓所 有無 坪數何程

生徒扣所 有無 坪數何程

小便詰所 有無 坪數何程

屋根 瓦葺或ハ板葺若クハ草葺トカ

窓 硝子又ハ紙張

便所 何箇所

裁縫所 有無 坪數何程

体操場 有無 坪數何程

遊園 有無 坪數何程

一 校長教員等氏名并俸額

△卒業證書等ヲ有シ未タ拜命セサル者モ相當ノ位置ニ記載スヘシ

月俸何程

住所族籍

卒業證書又ハ免許狀種類若クハ無

校長氏名

年 齡

學事

全上 何等訓導氏名
 卒業證書又ハ免許狀種類 全上
 免許狀種類 全上
 授業生等氏名 全上

一學区内町村戸數等
 △本表ハ一學区内二校以上アル向ノ毎校記載方ヲ示スモノナリ
 △校數ハ本校分校巡回授業所ヲ區別記入スヘシ
 △學校迄ノ距離ハ毎町村ノ最遠端ヨリ計算記入スヘシ且高等又ハ中等生徒ニシテ他學區町村ヨリ通學スルモノアルハ町村名ノ欄ニ於テ何番學區何町村ト記シ距離ノ欄ニ於テ該町村ヨリ本校マテノ距離ヲ記入スヘシ
 △戸數ハ同居ヲ區別記入スヘシ
 △學齡外就學ハ學齡超過ノモノヲ記入スヘシ
 △課外員數ハ巡回當時ノ數ヲ記入スヘシ

學事

學區	町村數		校數	戸數		地價	人口		學齡就學	學齡外	不就學
	町數	村數		校數	戸數		男	女			
東	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
西	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
南	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
北	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
合計	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

六八學

シ戸長學務委員選舉ヲ以テ開申スヘシ此旨相達候事
但シ職務アルモノハ其職名ヲモ記載スヘシ

○丙二十七番

四月十四日附

郡區役所、戸長役場

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不尠候條右幼兒
ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候様取計フヘシ此旨相達候事

○丙廿八番

四月十五日附

郡區役所、戸長役場

昨年十二月丙百廿九番ヲ以テ町村會若クハ聯合町村會ニ於テ評決シタル學事ニ係ル屆書
ハ二通差出スヘキ旨相達置候處爾來右ニ準據セサルモノ往々有之不都合候條今後一層注
意可致此旨相達候事

○丙三十一番

四月二十一日附

郡區役所、戸長役場

一 中島 操編

改正 增補小學教授書

出版人 栃木縣平民

小林八郎

一 白石時康編

小學教授本

出版人 宮城縣平民

伊勢安右衛門

一 木村敏編

小學始教

全

全

一 新井小八郎編

小生徒教授法

出版人 兵庫縣平民

伊藤和七郎

一 長瀬寛二編

初等入門教授解

出版人 岐阜縣平民

水谷善七

一 赤松莞爾編

小學初等入門

全

三浦源助

右ハ明治十二年文部省第二號布達ニ背達シ同省編纂ノ原旨ヲ失ヒ安リニ注解等ヲ加ヘテ
ルモノニテ教育ノ弊害ヲ生スヘキ恐有之ニ付發行不相成旨達相成候趣其筋ヨリ通達相成
候條公立學校ニ於テ右等ノ書籍不相成旨達相成候條校長教員ニ達スヘシ此旨相達候事
○丙四十番 五月廿一日附 郡區役所、戸長役場

一 稻垣千穎撰小學讀本 四五貳册 明治十六年七月出版 文學社
出版所 東京日本橋區本町四丁目十番地

右ハ明治十二年文部省第二號布達ニ背達シ同省編纂ノ原旨ヲ失ヒタルモノニテ教育ノ弊
害ヲ生スヘキ恐有之候ニ付發行禁止相成候旨其筋ヨリ通達相成候條校長教員ニ達スヘシ此旨相達候事
於テ右之書不相成旨達相成候條校長教員ニ達スヘシ此旨相達候事
○丙四十三番 五月二十六日附 郡區役所、戸長役場

小學督業職務規程別冊之通相定メ進テ本職員設置候處師範學校教員ヲシテ便宜兼掌セシ
メ候條部內學務委員小學校長教員ニモ夫々達スヘシ此旨相達候事
(別紙)

小學督業職務規程
第一條 小學督業ハ小學校ノ業務ヲ監督指示シ學校内部ノ改良進歩ヲ計畫スルモノトス
第二條 小學督業ノ監督スヘキ事件ハ左ノ如シ
一 學校風儀ノ良否
二 授業ノ巧拙
三 管理ノ可否
四 生徒學業ノ進否

第三條 小學督業ノ視察スヘキ事件ハ左ノ如シ

七八學

學事

一 校長教員授業生ノ勤怠
 二 諸表簿等ノ整否
 三 圖書器械ノ整否
 四 校舍ノ廣狹及其構造ノ可否
 五 体操場及遊園ノ適否
 第四條 小學督業ハ時々小學校教員ノ集會等ニ臨席シ其巡回セシ各小學校ノ實況ヲ談話シ或ハ集會員ノ質問ニ答フルモノトス
 但事務操合セ小學各等科卒業試業ニ臨席スルコアルヘシ
 第五條 小學督業ハ郡區長ニ協議ノ上小學校教員授業生ヲ便宜ノ地ニ招集シ教授ノ方法等ヲ指教スルコアルヘシ
 但本文ノ場合ニ在リテ要スル所ノ費用ハ其關係アル學區ニ於テ適宜支辨スルモノトス
 第六條 小學督業ハ一巡回了ル毎ニ巡回功程書ヲ作り師範學校長ヲ經テ開申スルモノトス
 第七條 小學督業ハ前條々ニ掲グル事件ノ外都テ教育上諸般ノ事ニ注意シ其利害得失ニ就キ意見アルハ郡區長ニ協議シ若クハ縣令ニ具申シ若クハ學務課ニ協議スルモノトス

○丙四十六番 五月三十日附
 郡區役所、戶長役場、學務委員事務所、町村衛生委員事務所
 自今本縣丙番達ニ係ル事件ニシテ學務委員又ハ町村衛生委員ノ職務ニ直接關係アルモノニ限リ戶長役場ノ次ニ併記相達シ且部數左ノ割合ヲ以テ配付候條此旨相達候事
 學務委員事務所 每學區 一部

學事

○丙五十四番 六月十八日附
 郡區役所、戶長役場、學務委員事務所
 町村衛生委員事務所 每戶長役場 一部

一 文學社 編輯 新小學入門 出版人東京府 文學社
 一 鈴木貞 新小學教授本 全 全 內田芳兵衛
 一 次郎編

右ハ明治十六年文部省第二號布達ニ背違シ同省編纂ノ原旨ヲ失ヒ妄リニ注解等ヲ加ヘタルモノニテ教育ノ弊害ヲ生スヘキ恐有之候ニ付發行不相成旨達相成候趣其筋ヨリ通達相成候就テハ各學校ニ於テ右等ノ書不相用標校長教員ニ達スヘシ此旨相達候事

○丙五十七番 六月廿七日附
 郡區役所、戶長役場、學務委員事務所
 戶長及ヒ府縣立町村立學校職員席次之義ニ付左ノ通公達相成候條町村立學校々長教員ハ郡區役所ヨリ示達致スヘシ此旨相達候事
 第四十九號 官省院廳府縣

戶長及ヒ府縣立町村立學校職員ノ席次ハ其官等ニ依リ同等官及ヒ其官等相當ノ俸給ヲ受クル無等判任官ノ下席トス
 但戶長ト學校職員ト同等ナル時ハ戶長ヲ以テ上席トス
 右相達候事
 明治十六年十一月八日 太政大臣三條實美

○衛生之部

○甲三十九番

四月廿一日附

明治十五年十一月甲百五十一番布達町村衛生委員撰舉法第二條左之通更正ス

右布達候事

第二條 衛生委員ハ事務取扱手續ニ因リ專ラ擔當町村内衛生上ニ從事スヘキヲ以テ一町村或ハ數町村ヲ便宜聯合シ人員ヲ定ムルハ其町村ノ協議ニ因ル者トス

○甲五十五番

五月廿八日附

明治十四年十月甲百五十五番布達貧病者救療手續來ル六月三十日限廢止候條此旨布達候事

○告六番

一月十日附

縣下傳染病ニ罹ルモノ十六年第五十二回調ノ件

(公報第四號)

○告十一番

一月十一日附

縣下傳染病ニ罹ルモノ第一回調ノ件

(公報第五號)

○告廿二番

一月十七日附

縣下傳染病ニ罹ルモノ第二回調ノ件

(公報第八號)

○告卅一番

一月廿四日附

縣下傳染病ニ罹ルモノ第三回調ノ件

(公報第拾壹號)

○告四十四番

一月廿九日附

一衛

衛生

二衛

- 告六十一番 二月六日附 (公報第拾四號)
- 告六十七番 二月十三日附 (公報第拾八號)
- 告八十三番 二月十九日附 (公報第貳拾號)
- 告九十七番 二月廿七日附 (公報第貳拾四號)
- 告百九番 三月五日附 (公報第貳拾八號)
- 告百廿一番 三月十三日附 (公報第叁拾貳號)
- 告百卅一番 三月十八日附 (公報第叁拾七號)
- 告百五十四番 四月二日附 (公報第叁拾九號)
- 告百六十八番 四月十二日附 (公報第肆拾七號)

三衛

- 告百七十八番 四月十六日附 (公報第伍拾五號)
- 告百九十番 四月廿三日附 (公報第陸拾號)
- 告二百四番 五月一日附 (公報第陸拾五號)
- 告二百廿八番 五月十四日附 (公報第柒拾三號)
- 告二百廿九番 五月十四日附 (公報第柒拾三號)
- 告二百四十四番 五月廿三日附 (公報第柒拾八號)
- 告二百五十二番 五月廿八日附 (公報第捌拾壹號)
- 告二百六十五番 六月六日附 (公報第捌拾六號)
- 告二百七十五番 六月十四日附 (公報第玖拾三號)
- 告二百八十四番 六月二十日附 (公報第玖拾三號)

四衛

虎列刺病豫防ノ義ハ逐次論達セシヲ以テ人各能ク熟知スル處ナルモ兎角平素ニ在テハ其念ナク注意ノ行届カサルヨリ不時ニ病毒ヲ惹起シ之ヨリ相流傳シテ遂ニ蔓延ノ地トナリシコトハ多年其例少ナシトモ己ニ本年ノ如キモ東京大坂ノ府下ニ於テ其萌芽ヲ生シ尙本縣ニ在テモ頃日珠洲郡嶋島村ニ於テ該病ニ罹リ死亡セシ者アリ抑モ該病症タル多クハ氣候炎熱ノ時ニ於テ發生スルモノニシテ今ヤ既ニ其期節ニ向ヘルカ故ニ此際宜シク豫防セスノハ他日十二年ノ如キ慘狀ヲ見ルニ至ランモ亦タ知ル可カラズ之ヲ以テ戸長衛生委員ハ勿論各自ニ一層注意スヘシ此旨告示候事

○告二百八十七番 六月二十日附

縣下傳染病ニ罹ルモノ第廿三回調ノ件

(公報第九拾六號)

○告二百九十三番 六月廿五日附

縣下傳染病ニ罹ルモノ第廿四回調ノ件

(公報第九拾八號)

○丙四十五番 五月廿九日附

本年甲五十六番ヲ以テ出產婚姻死亡届規則布達候ニ付テハ右取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

一 八民ヨリ出產婚姻死亡届書ヲ差出シタルトキハ戸長ニ於テ先ツ戸籍ノ調査ヲ了シ速ニ衛生委員ニ回移スヘシ

一 衛生委員ニ於テハ前項各届書ニ就キ第一號ヨリ第三號ニ至ル書式ニ照準シタル每一ケ月ノ調書ヲ製シ翌月十日限り郡區役所ヘ差出スヘシ但本項調書ハ別ニ副本一通ヲ作り届書ト共ニ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ

一 衛生委員ニ於テハ第四號書式ノ調書ヲ毎年十二月卅一日ノ現數ニ就キ調査シ翌年一月十五日マテニ郡區役所ヘ差出スヘシ

十五日マテニ郡區役所ヘ差出スヘシ

第一號 用紙中折紙

何國何郡(區)何町(村)出產調 明治何年何月

出產月日	產數	出產死產ノ別	男女ノ別	別
何月何日	初(一)(二)(三)產等	生	男(女)	公(私)生
何月何日	初(一)(二)(三)產等	死	男(女)	公(私)生
何月何日	初(一)(二)(三)產等	生產ニテ子(ニツ子)	一八男(二八男) 一八女(一八女)	公(私)生
何月何日	初(一)(二)(三)產等	死產ニテ子	八男 八女	公(私)生

衛生委員 何 某印
戸長 何 某印

第二號 用紙中折紙

何國何郡(區)何町(村)結婚調 明治何年何月

男ノ年齢 女ノ年齢 初縁再縁ノ別

五衛

一 出産月日ハ同日ニ二人以上ノ出産アルモ合記セス一人毎ニ記載スルモノトス
 一 二子三子及四子等生産死産男女相混シタル者ハ其數ヲ詳細ニ記入スヘシ
 一 結婚調ハ男女ヲ論セス其入籍シタル方ノ住地ニ就テ算スルモノトス
 一 坪數ハ耕地、山林、原野、池沼、河川、道路等官民有ノ別ナク凡ソ一町村ノ境内ニ孕ラ
 メル者ヲ總テ算入スヘシ
 一 現在夫婦ハ夫妻ヲ合シテ一ト算スヘシ但妻アリテ尙ホ妾ヲ蓄フル者又ハ妻ナクシテ妾
 アル者モ總テ之ヲ一夫婦ニ算スヘシ
 ○丙四十六番 五月三十日附
 學務委員衛生委員ノ職務ニ關係アル丙番達部數ノ割合(學事ノ部ヲ參觀スヘシ)

○會計之部

○甲四十六番 五月十三日附

明治十七年度公儲金徴収ノ件(會議ノ部ヲ參觀スヘシ)

○甲四十八番 五月十九日附

備荒儲蓄法施行取扱手續中改正及第五章附則改正ノ件(會議ノ部ヲ參觀スヘシ)

○甲五十三番 五月廿八日附

十七年度地方稅収支豫算書(租稅ノ部ヲ參觀スヘシ)

○告八十八番 二月廿二日附

十五年度備荒儲蓄金出納精算別紙之通ニ候條此旨告示候事

(別紙)

明治十五年度備荒儲蓄金出納精算書
一金拾五万千六百貳拾三圓六拾三錢八厘

収入高

金七万三千六百拾八圓貳拾三錢五厘

前年度ヨリ越高

内

金貳万七千八百三拾貳圓七拾五錢五厘

現金

金四万五千七百八拾五圓四拾八錢

公債證書

金三万五千七百四拾五圓八拾七錢壹厘

公儲金

金三万五千五百六拾三圓

配付金

金四千四百五拾壹圓八拾錢

公債證書利子

會計

二會

金貳千貳百四拾四圓六拾九錢九厘
 金三錢三厘
 一金三萬四千八百拾九圓拾七錢五厘
 內譯
 金貳萬貳千四百拾五圓七拾壹錢壹厘
 內
 金貳千八百九拾六圓壹錢七厘
 金壹萬千貳百九拾圓七拾壹錢
 金七千五百五拾九圓七錢壹厘
 金千六拾九圓九拾壹錢三厘
 金五百六拾七圓五錢壹厘
 內
 金百貳拾六圓九拾五錢壹厘
 金三百九拾貳圓拾錢
 金四拾八圓
 金五百九拾壹圓九拾七錢四厘
 內
 金五百五拾壹圓五拾貳錢四厘
 金貳拾九圓五拾錢
 金拾圓九拾五錢
 金五拾八圓五拾五錢三厘
 內

預金
 雜利子
 支出高
 火災救助
 食料
 小屋掛料
 農具料
 種穀料
 風災救助
 食料
 小屋掛料
 農具料
 水災救助
 食料
 小屋掛料
 種穀料
 雪災救助

三百六十四

三會

金九圓三拾五錢三厘
 金三拾六圓
 金拾三圓貳拾錢
 金三拾四圓七拾貳錢
 內
 金拾三圓
 金拾八圓九拾貳錢
 金貳圓八拾錢
 金九拾八錢五厘
 金壹萬千九百九圓七拾貳錢
 金拾五圓六拾七錢九厘
 金貳拾四圓七拾八錢貳厘
 一金拾貳萬七千九百拾四圓拾八錢三厘
 內譯
 金六萬六千七百九拾貳圓九拾四錢九厘
 內
 金三萬七千八百八拾四圓七拾五錢八厘
 金貳萬九千七百八圓拾九錢壹厘
 金六萬千貳拾壹圓貳拾三錢四厘
 內
 金三萬三千九百三拾四圓貳拾貳錢五厘
 金貳萬七千八百八拾七圓九厘

食料
 小屋掛料
 農具料
 震災救助
 小屋掛料
 農具料
 種穀料
 地租補助
 公債證書買入代
 運送費
 雜出
 殘額
 富山縣~分割高
 現金
 公債證書
 十六年度~越高
 現金
 公債證書

三百六十五

四會

此額面三万八千六拾五圓

○告百十八番

三月十一日附

郡區長委任條件中へ公徴金怠納者處分方追加ノ件(雜部ヲ參觀スヘシ)

○告百八十八番

四月廿三日附

來ル五月渡金祿公債利金別紙割合之通可及交付候條該證書所持之者ハ其渡シケ所へ請取
方可申出此旨告示候事

但利札并領受證携帶ノ義ハ從前之通

(別紙)

金祿公債苗字稱呼イロハ寄ヲ以交附日割并渡シ場所左ノ通

金澤區

債主

三千四百五十二人

此日割

五月一日

至自

九百八十二人

同 二日

至自

九百十六人

同 三日

至自

九百七人

同 五日

至自

六百四十七人

石川郡

債主

百十二人

河北郡

全

百二十三人

此日割

五會

五月五日

但以上一區二郡ハ本廳渡

江沼郡

債主

二百三十八人

此日割

五月七日

但大聖寺ニテ掛官出張先渡

能美郡

債主

二十七人

羽咋郡

同

七人

鹿島郡

同

十四人

鳳至郡

同

三人

珠洲郡

同

一人

但以上五郡ハ該郡役所渡

○告百九十二番

四月廿九日附

來ル五月渡金祿公債利金交附ニ付告百八十八番ヲ以テ告示日割之内江沼郡分五月七日ヲ
五月一日ト更正ス此旨告示候事

○丙四十八番

六月四日附

區町村費豫算議案書式(會議ノ部ヲ參觀スヘシ)

○戸籍之部

○甲十九番

二月廿五日附

從來住所氏名ヲ詳カニセサル者ノ子女ヲ貰受ケ又ハ他人ニ媒介スル者有之趣之處右ハ戸籍上紊亂ノ基ニシテ百緒之不都合ヲ釀成スル必然ニ候條自今其父母ノ住所氏名ヲ詳知シ正當入籍ノ手續ヲ爲スニアラサレハ貰受ケ又ハ媒介スル義相成ラヌ且養育料又ハ世話料等ヲ取受ケ媒介ヲ爲シ或ハ貰受ケタルモノハ其父母ノ住所氏名并ニ子女ノ氏名年齢ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ此旨布達候事

但雇人請宿營業者ニシテ其媒介ヲ爲シ又ハ貰受ケタル節ハ養育料又ハ世話料等ヲ取受ケタルト否トニ拘ラス雇人請宿取締規則第八條ノ手續ヲ爲シ其旨所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

○甲五十六番

五月二十九日附

出產婚姻死亡届規則左ノ通制定シ本年七月一日ヨリ施行ス

但明治十三年甲二百十四番布達同年甲二百十五番布達同年甲百三十五番布達及同年甲九十四番布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

右布達候事

出產婚姻死亡届規則

- 第一條 出產ハ戸主ニ於テ第一號書式ノ届書ヲ作り戸長役場ヘ届出スヘシ
- 第二條 結婚シタルトキハ其入籍シタル方ノ戸主ニ於テ第二號書式ノ届書ヲ作り戸長役場ヘ届出スヘシ但送入籍ノ手續ハ是迄ノ通り
- 第三條 死亡者アルトキハ戸主又ハ相繼人若クハ親族ニ於テ治療醫師ト共ニ第三號書式ノ届書ヲ作り戸長役場ヘ届出スヘシ但死亡者單身ナルトキハ親族又ハ隣保ノ者ニ於テ本條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 醫師ノ治療ヲ受ケシテ死亡シタル者アルトキハ醫師ヲ延キ診案ヲ求メ第三號

一戸

戸籍

書式ノ届書ヲ作り戸長役場へ届出スヘシ但醫師不在等ニシテ診察ヲ求ムルヲ能ハサルトキハ親族又ハ隣保ノ者二名以上ノ證人ヲ得テ第三號書式ノ届書ヲ作り所轄警察署又ハ分署及戸長役場へ届出スヘシ

第五條 變死人ハ其筋官吏ノ檢視ヲ終ヘ其檢視ニ立會タル醫師ニ就キテ第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 出産婚姻死亡届書ハ遲クモ七日以内ニ差出スヘシ若シ遠隔ノ地他郡區ニ滞在中ノモノハ戸主或ハ宿主ヨリ同日限内ニ該地ヲ差出シ尙其地ノ戸長役場へ届出スヘシ但止ムテ得サル事故アリテ期限内届出ノ手續ヲ爲シ能ハサルトキハ其事由書ヲ差出スヘシ

第七條 他管人ニ係ル前條ノ届方ハ宿主ニ於テ七日以内ニ戸長役場へ届出スヘシ但第四條第五條ノ場合ニ於テモ宿主ヨリ其手續ヲナスヘシ

第一號用紙中折紙半截

夫ノ姓名	何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)士族(平民)又ハ何某長次男父兄弟等	何某	何年何ヶ月	長次男(次(三)男(女)等)
所ノ姓名	何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)士族(平民)又ハ何某長次男父兄弟等	何某	何年何ヶ月	(私生ノ分)
年	何年何ヶ月	何某	何年何ヶ月	ハ單ニ男女ノ別ヲ記載スヘシ
産婦ノ姓名	右妻(妾)當時何郡(區)何町(村)何番地(寄留)滞在(私生ノ分)何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)士族(平民)何某長次女姉妹等ハ記載スヘシ	何某	何年何ヶ月	及生ノ別ヲ記載スヘシ
氏名	何某	何某	何年何ヶ月	兒ノ名
年	何年何ヶ月	何某	何年何ヶ月	誰

出産年月日	明治何年何月何日	産數	初(一)(二)(三)産等	生死別	生(死)産	公私別	公(私)生
明治何年何月何日	何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)滞在(族籍)何某	何某	何某	何某	何某	何某	何某

一 妾服ノ子ハ公生トス

一 二タ子三ツ子及四ツ子等ノ出産ハ一紙ニ其種別ヲナシテ生死産ノ欄内ニ列記スヘシ

一 届書ヲ出ス期限マテニ生兒ノ名ヲ命セサルトキハ該欄内ニ初生兒ト記シ置キ他日命名シタルトキ速ニ届出スヘシ

一 死産ハ妊娠後四ヶ月以上ニシテ死胎分娩ノ者ヲ云フ但出産後一旦呼吸シテ死亡セシ者ハ生産トス

第二號 用紙全上

夫ノ姓名	何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)士族(平民)又ハ何某長次男父兄弟等	何某	何年何ヶ月
在ノ地	何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)滞在	何某	何年何ヶ月
夫婦現	結婚届	何某	何年何ヶ月
婦ノ姓名	何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)士族(平民)何某長次女姉妹等	何某	何年何ヶ月
初再縁ノ別	初縁	再縁以上	再縁以上

四戸

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)(滞在)族籍
 明治何年何月何日 戸主(宿主) 何 某 印
 第三號 用紙全上

死亡届

死者住 所氏名	何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)(滞在) 士族(平民)(又ハ何某父母兄弟姊妹妻子等) 何 某
職業	何々々業 年 齡 何年何ヶ月
死亡年 月日	明治何年何月何日 婚姻上 既婚有(無)配偶(未婚)
病類	第何類何々病
病名	何々病

一職業ハ總テ其本人執ル所ノ現業ヲ記スヘシ例之ハ農ニシテ自ラ勞役セサル者ハ(農主)
 ト自ラ耕作スル者ハ(農夫)ト記シ又婦女老幼等ニシテ職業ナキ者ハ戸主何職業無職家

解釋

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)(滞在)族籍
 明治何年何月何日 戸主(相續人)(親族)(隣保)(宿主) 某 印
 何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)(滞在)族籍
 醫師 某 印

五戸

族ト記スヘシ
 商工ハ單ニ商或ハ工ト記セスシテ何商何職工ト明記スヘシ若シ二業以上ヲ營ム者ハ其
 主タル職業ヲ記スヘシ
 一年齡ハ總テ何年幾月ト記シ一ケ年未滿ノ者ハ何ヶ月ト記シ一ケ月ニ滿タサル者ハ一ケ
 月未滿ト記スヘシ若シ年齡詳カナラサル者ハ其大畧ヲ記スヘシ

一婚姻上關係ハ男女ヲ論セス十二年以上ノ者ハ之ヲ記入スヘシ現在配偶者アル者ハ「既
 婚有配偶」ト記シ曾テ婚嫁シタルトアルモ現在配偶者ナキ者ハ「既婚無配偶」ト記シ未
 タ曾テ一回モ婚嫁セサル者ハ未婚ト記スヘシ
 一初生兒ノ未タ命名セサル者ハ氏名ノ位置ヘ「初生兒」ト記スヘシ
 一醫師不在等ニシテ檢案ヲ求ムルコト能ハサルトキ親族又ハ隣保ノ証人ハ醫師氏名ノ欄内
 へ列記連署スヘシ
 一前項ノ場合ニ於テ病類病名不明ナルトキハ死ニ至ルノ症候經過等探知シ得ル所ヲ記載
 スヘシ

○告二百一十一番 五月六日附

郡區長委任條件中ハ士族五十歲未滿ノ者隱居ノ事追加ノ件(雜部ヲ參觀スヘシ)

○告二百五十六番 五月三十一日附

郡區長委任條件中修正追加第六十八婦女子相續ノ事(雜部ヲ參觀スヘシ)

○丙二番 一月九日附

郡區役所、戸長役場
 眞宗大谷派末寺檀家ノ者甲乙轉檀ノ義ニ付テハ其手續等曾テ該管長ヨリ内務省へ願濟ノ
 上該末寺中へ夫々通達相成居候處中ニハ十一年三月内務省乙第二十號達ヲ口實トシテ本

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地任(寄留)(滞在)族籍
 明治何年何月何日 戸主(宿主)何 某 印
 第三號 用紙全上

死者住氏名	何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地任(寄留)(滞在)族籍(平民)(又ハ何某父母兄弟姊妹妻子等)	何	某
職 業	何々々 業	年 齡	何年何ヶ月
死 亡 年 月 日	明治何年何月何日	婚 姻 上	既婚有(無)配偶(未婚)
病 類	第何類何々病	關 係	
病 名	何々病	何 府(縣)何 郡(區)何 町(村)何 番地任(寄留)(滞在)族籍	某 印

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地任(寄留)(滞在)族籍
 明治何年何月何日 戸主(相續人)(親族)(隣保)(宿主) 何 某 印
 何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地任(寄留)(滞在)族籍 何 某 印
 醫 師

一 職業ハ總テ其本人執ル所ノ現業ヲ記スヘシ例之ハ農ニシテ自ラ勞役セサル者ハ(農主)自ラ耕作スル者ハ(農夫)ト記シ又婦女老幼等ニシテ職業ナキ者ハ戸主何職業無職家ト記ス

族ト記スヘシ
 商工ハ單ニ商或ハ工ト記セスシテ何商何職工ト明記スヘシ若シ二業以上ヲ營ム者ハ其主タル職業ヲ記スヘシ
 一 年齢ハ總テ何年幾月ト記シ一ケ年未滿ノ者ハ何ヶ月ト記シ一ケ月ニ滿タサル者ハ一ケ月未滿ト記スヘシ若シ年齢詳カナラサル者ハ其大畧ヲ記スヘシ
 一 婚姻上關係ハ男女ヲ論ゼス十二年以上ノ者ハ之ヲ記入スヘシ現在配偶者アル者ハ「既婚有配偶」ト記シ曾テ婚嫁シタルコトアルモ現在配偶者ナキ者ハ「既婚無配偶」ト記シ未ダ曾テ一回モ婚嫁セサル者ハ未婚ト記スヘシ
 一 初生兒ノ未ダ命名セサル者ハ氏名ノ位置ヘ「初生兒」ト記スヘシ
 一 醫師不在等ニシテ檢案ヲ求ムルコト能ハサルトキ親族又ハ隣保ノ証人ハ醫師氏名ノ欄内ヘ列記連署スヘシ
 一 前項ノ場合ニ於テ病類病名不明ナルトキハ死ニ至ルノ症候經過等探知シ得ル所ヲ記載スヘシ

○告二百一十一番 五月六日附
 郡區長委任條件中ハ士族五十歲未滿ノ者隱居ノ事追加ノ件(雜部ヲ參觀スヘシ)
 ○告二百五十六番 五月三十一日附
 郡區長委任條件中修正追加第六十八婦女子相續ノ事(雜部ヲ參觀スヘシ)
 ○丙二番 一月九日附
 眞宗大谷派末寺檀家ノ者甲乙轉檀ノ義ニ付テハ其手續等曾テ該管長ヨリ内務省ハ願濟ノ上該末寺中へ夫々通達相成居候處中ヨリ二十年三月内務省乙第二十號達ヲ口實トシテ本

六戸

文ノ手續ヲ爲サズ直ニ轉權ノ義戸長役場へ届出候ヨリ甲乙寺檀家去就ノ紛議ヲ生シ取締
方差支不効ニ付爾後同派内ニ於テ轉權ノ向ハ甲乙寺ヨリ先ツ本山へ爲申立双方ノ情實篤
ト取調向分ノ指揮可致ニ付右指令所持ノ向ニ限リ轉權ノ義採用相成度就テハ右ノ趣郡區
役所戸長役場へモ豫テ達置ノ様致度旨今般管長大谷光勝ヨリ及出願候ニ付願意聞置候條
此旨爲心得相達候事

○丙五番

一月廿一日附

失踪逃亡死亡及ヒ絶家ノ財産ヲ戸長ニ於テ保管スルキハ財産目錄ヲ作り郡區長へ可差出
此旨相達候事

○丙十番

二月九日附

今般海軍省乙第壹號ヲ以海業漁者及
舟乗ノ男子満十七歳ヨリ満四十歳迄ノ人口毎年一月調
以其年三月十五日限リ可届出旨被達候ニ就テハ本縣へハ毎年二月廿五日限リ可届出此旨
相達候事

但本年ニ限リ五月廿五日限無延届出ヘシ

○丙廿三番

四月九日附

警察署又ハ警察分署ヨリ戸數及ヒ人口ノ調査ヲ需ムル節ハ戸長役場ニ於テ期日ヲ過マラ
ス之ニ應スヘシ此旨相達候事

○丙三十七番

五月二日附

郡區役所、戸長役場

七戸

眞宗本願寺派末寺檀徒ノ者派内甲乙寺轉權之儀ニ付曾テ該管長ヨリ内務省へ願濟之上末
寺中へモ通達相成居候處中ニハ十一年三月内務省乙第廿號達ヲ口實トシ於末寺其手續ヲ
爲サズ直ニ本人ヨリ轉權ノ儀戸長役場へ届出候ヨリ甲乙寺檀家去就ニ付紛紜ヲ生シ取締
向差支候旨ニテ同派内ニ於テ轉權ノ向ハ甲乙寺ヨリ先ツ本山へ爲申立双方之情實取調之
上何分ノ指揮可及ニ付爾來轉權之儀届出候節ハ管長指令所持ノ向ニ限リ受理相成度就
テハ右ノ趣郡區役所戸長役場へモ豫テ達置ノ様致度旨今般該管長大谷光尊ヨリ依頼越候
ニ付此旨爲心得相達候事

○丙四十五番

五月廿九日附

出產婚姻死亡届取扱手續ノ件(衛生ノ部ヲ參觀スヘシ)

○會議之部

○甲一番

一月四日附

本縣々會議員補欠員々數十六年度通常縣會ノ議定ニヨリ左之通相定本月中各郡區ニ於テ
撰舉會開設候條此旨布達候事

縣會議員補欠員々數

江沼郡	三人	能美郡	五人
石川郡	五人	金澤區	五人
河北郡	四人	羽咋郡	四人
鹿島郡	四人	鳳至郡	四人
珠洲郡	二人		

○甲十一番

一月廿五日附

米穀儲蓄并ニ儲穀購求手續等臨時縣會ノ決議ヲ經其筋ノ裁可ヲ得別紙ノ通施行候條此旨
布達候事

(別紙)

一金四万八千九百九拾圓七拾三錢八厘

儲穀費

內譯

金四万七千四百貳拾圓七拾三錢八厘

米穀購求費

儲穀購求手續

諸費

第一章 購求

第一條 米穀購求費ハ明治十六年度地租豫算額ヲ目安トシ之ヲ各郡區ニ分テ米穀ヲ購入

一議

會議

二議

スルモノトス

第二條 縣令ハ一郡區ニ五名以下ノ米穀購求委員ヲ命スルモノトス
第三條 購求方法并價格ハ縣廳派出官郡區長米穀購求委員協議ノ上適宜決行スルモノトス

但隣郡區ニ關係アルモノハ双方協議ヲ遂クルコトアルヘシ

第二章 儲藏

第四條 集儲或ハ分儲スルハ各郡區ノ便宜ニ任シ官倉若クハ民倉ニテ儲藏スルモノトス

第五條 購入米穀ハ豫メ期日ヲ定メ儲藏所ニ於テ係官米穀購求委員ハ審査入ト共ニ品質

斗量并俵拵ヲ審査シ収納スルモノトス

第六條 俵拵ハ五斗入貳重俵トシ賣入ニ於テ調製納倉スルモノトス

第三章 經費

第七條 米穀購求委員ハ日當一日金五拾錢ヲ給スルモノトス

第八條 購求雜費ハ一石ニ付金七錢ヲ超ヘサルモノトス

○甲三十二番 四月九日附

十六年度地方稅收入不足補充方今般臨時縣會ノ決議ヲ經テ別紙ノ通相定候條此旨布達候事

(別紙)

十六年度地方稅不足追徵收豫算
一金壹万九千七百七拾四圓六拾錢壹厘

追徵収高

內譯
金壹万千六百五拾三圓八拾錢壹厘

地租割

三議

金八千百貳拾圓八拾錢

但本年度地租豫算高金七拾
七万六千九百貳拾圓七錢八
厘地租金壹圓ニ付金壹錢五
厘

○甲三十三番

四月九日附

十六年度地方稅不足追徵日限ノ件(租稅ノ部ヲ參觀スヘシ)

○甲四十六番

五月十三日附

明治十七年度公儲金縣會之決議ヲ經内務大藏兩卿ノ裁可ヲ得テ同年地租金壹圓ニ付一ケ
年金貳錢貳厘ノ割ヲ以徵収候條納期之儀ハ備荒儲蓄法施行取扱手續之通可相心得此旨布
達候事

○甲四十七番

五月十五日附

本年第十四號布告區町村會法第二條ニ依リ石川縣區町村會規則左ノ通制定候條此旨布
達候事

石川縣區町村會規則

第一條 區町村會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開クモノヲ通常會トシ
臨時ニ開クモノヲ臨時會トス

四議

第二條 區町村會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ區町村費ニ係ル毎年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ區長戸長ニ說明ヲ求ムルコトヲ得

第三條 通常會期中議員ノ内貳人以上ノ發議ヲ以テ其區町村内ノ利害ニ關スル事件ニ付縣令若シハ郡區長戸長ニ建議セントスル者アレハ先ツ議長ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付ル可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直ニ縣令若シハ郡區長戸長ニ建議スルヲ得

第四條 區町村會法ニ依リ戸長ヨリ縣令ノ指揮又ハ認可ヲ請フトキハ郡區長ヲ經由スヘシ

第五條 區町村會ノ議員ハ十名トス若シ十名ヲ選出シ得ヘカラサル事情アル向ハ管理者ニ於テ定數以內便宜其數ヲ定メ縣令ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 議員ハ俸給ナシ

第七條 書記ハ議長之ヲ撰ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會議費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第八條 議員ヲ撰舉セントスルハ區長戸長ハ少クトモ十日以前ニ撰舉會ヲ開クヘキ場所及ヒ日時ヲ豫定シ該區町村内ニ公告スヘシ

第九條 撰舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ之ヲ爲シ區長戸長ハ之ヲ調査シ撰舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ

第十條 撰舉人ハ豫メ區長戸長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被選人ノ住所氏名ヲ記シ捺印ノ上封緘シ豫定ノ日時ニ撰舉會場ヘ出スヘシ

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシト雖モ豫定ノ日時ニ差出サハルモノハ議員ヲ撰舉セサルモノトシ撰舉會ヲ開クヘシ

五議

第十一條 投票終ルノ後區長戸長ハ撰舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ查シ若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其撰舉辭スルハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

但シ同數ナラハ年長ヲ取リ同年ナラハ圖ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 當選人ノ當否ヲ査定スルノ后區長戸長ハ其當選人ヘ當撰狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

但當選人各請書ヲ出シタル後區長戸長ハ其姓名等ヲ區町村内ニ公告スヘシ

第十三條 議員ノ任期ハ六年ニシテ三年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回三年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム但前任ノ者去再撰スルコトヲ得

第十四條 議員中區町村會法第十條ノ資格ヲ失シ又ハ但書ノ場合ニ遭遇スルカ其他總テ欠員アルトキハ補欠員ヲ以テ補充シ尙欠員アル時ハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉ス

第十五條 議員出席半數ニ滿テサレバ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス但可否同數ナルハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第十七條 區長戸長ハ主務ノ吏員ヲ出ダシ議案ノ趣旨ヲ辨明セシムルコトヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第十九條 議員ハ會議ニ方テ充分討論ノ權ヲ有ス然レ共人身上ニ付テ褻貶毀譽ニ涉ルヲ得ス

第二十條 會場ヲ整理及議事ノ順序方法ヲ定ムルハ議長ノ職掌トス若シ議長ノ命ニ順ハサルモノアルハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得但規則ニ背キ議長ノ制止ニ應セズ及其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第二十一條 區町村會ハ毎年一度四月ニ於テ之ヲ開ク其會期ハ七日以內トス

第二十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルハ區長戸長ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會

期ハ五日以内トス

第廿三條 區町村會法第十三條ニ依リ開設スヘキ聯合町村會並第十四條ニ依リ開設スヘキ水利土功會ニ於テモ渾テ此規則ヲ適用スヘシ

但本條ノ場合ニ於テ其議員ハ各町村同數ヲ用ヒ惣員ヲ十名以下トシ町村會議員中ヨリ互撰スヘシ若シ聯合十一ヶ町村已上ニ及フモノハ各町村ヨリ一名宛ヲ撰出スヘシ

(甲五十九番及甲六十六番ヲ以テ更訂追加ス)

第廿四條 區町村會法第十五條ノ場合ニ於テハ總テ郡區長之ヲ管理シ其評決ハ戶長ヲシテ施行セシム

○甲四十八番

五月十九日附

明治十六年甲百二十七番布達備荒儲蓄法施行取扱手續中縣會ノ議決ヲ經内務大藏兩卿ノ裁可ヲ得第三章第九條第二項中金額ノ下拾圓以下トアルヲ七圓以下全第三項中金拾五圓トアルヲ拾圓第四項中金五圓以下トアルヲ金三圓以下トシ及第五章附則別紙之通改正候條此旨布達候事

(別紙)

第十一條 米穀ヲ貯蓄スルルキハ縣會ノ決議ヲ經之ヲ購求スルモノトス

但時宜ニ依リ詰替又ハ賣却スル場合ニ於テモ同ク縣會ノ決議ヲ經ルモノトス

第十二條 米穀ハ各郡區便宜ノ地ニ分儲シ所在郡區長之ヲ監督シ戶長之ヲ保管ス

第十三條 米穀賣買等ニ關スル諸雜費及ヒ倉庫修繕費並番人給料ハ儲蓄金ノ内ヨリ支辨スルモノトス

但米穀賣却スルルキ賣買相場ノ高低ニ由リ生タル損益ハ總テ儲蓄金ノ損益ニ歸スルモノトス

第十四條 毎年七月中ニ儲蓄米金及公債證書ノ出納計算表ヲ調製シテ管内ニ布達シ翌年

開ク所ノ通常縣會ニ報告スルモノトス

第十五條 此規則ノ改正ヲ要スルルキハ縣會ノ決議ヲ經内務大藏兩卿ノ認可ヲ經テ施行スルモノトス

○甲四十九番

五月十九日附

本年本第十四號布告區町村會法第十三條ニ依リ開設スヘキ聯合町村會并第十四條ニ依リ開設スヘキ水利土功會ノ議員ニシテ片道三里以上ヨリ出席スルモノニ限リ區町村費ヲ以テ左ノ通往復旅費及ヒ滞在日當ヲ支給スルモノトス此旨布達候事

旅費

一里ニ付

金拾錢

滞在

一日ニ付

金三拾錢

○甲五十二番

五月廿三日附

區町村費目及區町村費徵收科目制定ノ件(租稅ノ部ヲ參觀スヘシ)

○甲五十三番

五月廿八日附

十七年度地方稅収支豫算書(租稅ノ部ヲ參觀スヘシ)

○甲五十九番

六月三日附

石川縣區町村會規則第廿三條但書左ノ通更訂ス此旨布達候事

但本條ノ場合ニ於テ其議員ハ各町村同數ヲ用ヒ惣員ヲ二十名以下トシ町村會議員中ヨリ互撰スヘシ其聯合二十一ヶ町村以上ニ及フモノハ二十名ヲ定數トシ町村會議員中ヨリ一名宛ノ撰舉委員ヲ撰出シ其委員中ヨリ更ニ定數ノ議員ヲ互撰スヘシ

○甲六十番

六月五日附

改正區町村會法ニ據リ今般甲四十七番ヲ以テ本縣區町村會規則布達候ニ付テハ改正規則

依り施行可致ハ勿論ニ候得共右準備整頓迄ノ間不得已事件ヲ水向ハ施行者ニ於テ從前
裁定認可ヲ與ヘ有之規則ニ依リ開會スルコトアルヘシ此旨布達候事

○甲六十六番 六月十二日附

本年甲五十九番布達石川縣區町村會規則第二十三條更訂但書ハ第二項左之通追加シ一項
中本條ノ下「聯合町村會」ノ五字ヲ挿入候條此旨布達候事

聯合區域中若シ區町村會法第十二條ニ據リ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル町村アル時又
ハ水利土功會ハ前項ノ例ヲ用ヒス其區域ノ異ナル毎ニ該聯合町村又ハ關係人民ヨリ二
十名ノ議員ヲ撰出スヘシ

○告十三番 一月十四日附

臨時縣會議事結了本日閉場候條此旨告示候事

○告四十五番 一月廿九日附

本年甲一番ヲ以本月中各郡區ニ於テ縣會議員補欠員選舉可致旨及布達置候處詮議ノ次第
有之能美郡ニ限リ來ル二月ニ延期候條此旨告示候事

○告七十二番 二月十六日附

明治十七年度通常縣會來ル三月一日ヨリ師範學校內明倫堂ニ於テ開會候條此旨告示候事

○告七十五番 二月十六日附

本縣縣會議員能美郡選舉吉澤甚石工門辭職ノ趣承認候條此旨告示候事

○告九十番 二月廿五日附

當縣縣會議員補欠員選舉會各郡區ニ於テ開設候處左ノ人名當撰相成候條此旨告示候事

江沼郡選舉

江沼郡鷹匠町

梅田 五月

江沼郡動橋村

矢田 鄉與在門

○告九十番

二月廿五日附

當縣縣會議員補欠員選舉會各郡區ニ於テ開設候處左ノ人名當撰相成候條此旨告示候事

江沼郡選舉

江沼郡鷹匠町

梅田 五月

江沼郡動橋村

矢田 鄉與在門

江沼郡保賀村

里瀬 八良與門

能美郡選舉

能美郡舟場島村

村田 彌右衛門

能美郡赤井村

佐々木 藤作

能美郡八日市村

澤守 六平

能美郡上小松村

片桐 作平

能美郡向本村

有山 吉藏

石川郡選舉

石川郡山科村

楠 正

石川郡德光村

織田 助太郎

石川郡示野村

松田 仁三郎

石川郡德丸村

得田 陳好

石川郡白山村 三雄
 金澤區撰舉 山 森 隆
 金澤區穴水町三番丁 隆
 金澤區常盤町 運
 河北郡撰舉 河北郡加賀爪村 安二郎
 河北郡種村 五左
 羽咋郡撰舉 羽咋郡荻市村 中村 裕太郎
 羽咋郡羽咋村 羽咋郡菅原村 西 豐 吉郎
 羽咋郡新保村 羽咋郡菅原村 永野 廣作
 鹿島郡撰舉 鹿島郡中狹村 林 貞次郎
 鹿島郡外村 室木 彌八郎
 石川郡白山村 三雄
 金澤區西町敷ノ内通 運上 藤兵衛
 金澤區地黃煎町 千代與三右衛門
 河北郡南中條村 庭田 次平
 河北郡淺野村 淺田 道一
 羽咋郡撰舉 羽咋郡荻市村 中村 裕太郎
 羽咋郡羽咋村 羽咋郡菅原村 西 豐 吉郎
 羽咋郡新保村 羽咋郡菅原村 永野 廣作
 鹿島郡撰舉 鹿島郡中狹村 林 貞次郎
 鹿島郡外村 室木 彌八郎

鹿島郡中島村 橋本 次六
 鹿島郡長川村 干場 理作
 鳳至郡撰舉 鳳至郡輪島河井町 池田 良吉
 鳳至郡波並村 井田 實
 珠洲郡撰舉 珠洲郡正院村 池田 實
 珠洲郡松波村 吉見 甚左衛門
 ○告九十一番 三月廿五日附
 江沼郡撰舉縣會議員和田重次郎能美郡撰舉縣會議員吉澤甚右衛門辭職承認候ニ付補欠員
 梅田五月村田彌右衛門ヲ補充セル候條此旨告示候事
 ○告白六番 三月五日附
 明治十六年三月廿五日以縣會議員改選之節交替手續及布達置候處今度縣會之議決ニ依
 リ更ニ左之通制定候條此旨告示候事
 第一條 府縣會規則第二十一條ニ依リ退任ノ議員ハ第三回日通常會前臨時會ヲ開クノ際
 其任ヲ終ルモノトス
 第二條 後任議員ノ就職ハ第三回日通常會前臨時會ヲ開クノ際ヨリ始ムルモノトス
 但後任議員ノ選舉會ハ臨時會迄ハ開議スルモノトス
 第三條 常置委員ノ退任就職モ前二條ニ據ルモノトス

二一議

○告白四十四番

三月廿八日附

明治十六年度地方稅收入不足追徵ノ爲メ議事ヲ要シ本月三十一日ヨリ師範學校内明倫堂ニ於テ臨時縣會開設候條此旨告示候事

○告白五十番

三月卅一日附

明治十七年度通常縣會議事決了ニ付昨三十日閉場候條此旨告示候事

○告白五十三番

四月二日附

臨時縣會議事結了ニ付昨日閉場候條此旨告示候事

○告白五十六番

四月五日附

當縣々會議員宇波菊太郎儀本日本縣六等屬ニ任シ候ニ付補欠員中村格太郎ヲシテ補充セシメ常置委員ハ補欠豫備員二十七番議員岡野是保ヲシテ補充セシメ候條此旨告示候事

○告白七十九番

四月十七日附

鳳至郡選舉縣會議員補欠員勝山修藏辭職ノ趣承認候條此旨告示候事

○告白八十番

四月十七日附

能美郡選舉縣會議員永田三好辭職ノ趣ニ付同郡選舉縣會議員補欠員佐々木藤作ヲシテ補充セシメ候條此旨告示候事

○告白一百五十六番

五月卅一日附

郡區長委任條件中修正第六十五評決シタルノ下ニ「區町村費及ヒ」ノ六字ヲ挿入ス(雜部ヲ參觀スヘシ)

○丙廿八番

四月十五日附

町村會等ニ於テ評決シタル學事ニ係ル屆書ノ件(學事ノ部ヲ參觀スヘシ)

○丙三十九番

五月十五日附

改正區町村會法ニ據リ今般甲四十七番ヲ以本縣區町村會規則布達候ニ付テハ改正規則ニ據リ施行可致ハ勿論ニ候得共右準備整頓迄ノ間不得止難差置事件アル向ハ從前裁定認可ヲ與ヘ有之規則ニ依リ開會不苦候條此旨相達候事

○丙四十八番

六月四日附

郡區役所、戶長役場

區町村費豫算議案書式別冊之通相定候條此旨相達候事

(別冊)

明治何年度區町村費支出豫算議案

一金 內譯

一金

一金

一金

一金 內譯

一金

一金 內譯

一金

戶長役場費

諸雇給

需用費

雜費

會議費

雜給

雜費

土木費

道路橋梁費

三一議

會議

一金

一金

合計金額

○丙五十二番

六月十八日附

戸別割
但何年何月調戸數(家數)何
程一戸(一軒)ニ付金何程
雜收入
前々年度ヨリ繰越高

本年第十四號布告區町村會法及ヒ本縣區町村會規則ニ據リ町村會ヲ開設シ得ヘカラスル
町村アル向ハ事情ヲ詳悉シ具狀指揮ヲ請フヘシ此旨相達候事

...

○驛遞之部

○甲三十一番

四月九日附

今般驛遞總官ト協議ノ上本縣管内約東郵便法別紙ノ通相定本月十六日ヨリ施行候條此旨
布達候事(四月十四日附ヲ以テ訂正ヲ加フ)

約東郵便法

第一條

一左ニ記スル公用郵便物ハ一管内往復ヲ限リ郵便切手ヲ貼付セサルモノトス
但本文郵便税ニ當ル金額ハ各其所定ノ額ヲ出金セシメ本廳ニ於テ取纏メ驛遞局ヘ前
收スルモノトス

- 縣廳
- 警署
- 監獄署
- 郡區役所
- 右廳衙ニ屬スル廳衙
- 右廳衙ノ吏員郡區長同書記
- 縣立學校
- 全諸勸業所事務所
- 右縣立學校諸勸業場事務所ノ吏員
- 戶長役場
- 浦役場
- 縣會
- 常備委員會

ノ間互ニ往復スルモノ

- 一 戶長浦役八縣會議員常置委員
- 一 縣廳
- 一 警察署
- 一 監獄署
- 一 郡區役所
- 一 右廳衙ニ屬スル廳衙
- 一 縣立學校
- 一 同諸勸業場事務所

ヨリ始審治安輕罪違警罪裁
判所及ヒ人民ニ達スルモノ

第二條

一 第一條ニ掲載スルモノ、他ハ總テ郵便切手ヲ貼付スルモノトス

第三條

一 第一條ニ掲載スル公用郵便物ト雖モ書留手數料及別配達料ハ郵便切手ヲ貼付スルモノトス

第四條

一 第一條公用郵便物ハ一個毎ニ其表面ヘ「公用」ノ二字ヲ朱記スルモノトス

第五條

一 第一條公用郵便物ハ廳衙名ヲ記シ或ハ官名職名及其氏名ヲ併記シ又ハ廳衙名ト課名若シテハ掛名ヲ併記シタルモノニ限ルヘシ

第六條

一 公用郵便物ノ遞送集配方ハ一般郵便物ト併セテ毎日一回以上之ヲ爲スモノトス

第七條

一 前條々ニ掲載スル他ノ郵便物ハ一般郵便物同様タルヘシ

○甲三十五番

四月十四日附

本月九日甲三十一番ヲ以テ布達置候約束郵便法中左ノ各項訂正候條此旨布達候事

第一項第六件右廳衙ノ吏員郡區長同書記ト有之ニ同御用掛及雇ノ六字ヲ加フ

第二項ノ末ニ一以上各所ノ派出吏員ノ一行ヲ加フ

第三條ノ末文切手ヲ貼付スルモノトスト有之ヲ貼附シ前納スルニ限ルヘシト更正ス

○甲四十三番

五月一日附

本年四月九日甲三十一番ヲ以テ布達置候約束郵便法中左ノ各項訂正五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

第一條第一項七行縣立學校ノ次ヘ一全病院ノ一行ヲ加フ

第一條第一項九行右縣立學校ノ下ヘ病院ノ二字ヲ加フ

第一條第二項六行一縣立學校ノ次ヘ一全病院ノ一行ヲ加フ

○甲四十四番

五月二日附

本年太政官第十一號布達ニ附屬スヘキ郵便一錢帶紙見本之儀ハ郡區役所ヘ下置候條出頭一覽可致此旨布達候事

○丙廿一番

四月九日附

郡區役所、戶長役場

今般驛遞總官ト協議ノ上本縣管内約束郵便法別紙ノ通り相定本月十六日ヨリ施行候條此旨相達候事(別紙ハ甲三十一番ト同文ニ付寄ス)

○丙廿二番 四月九日附

今般丙廿一番ヲ以テ約束郵便法施行ノ義相達候ニ付テハ別紙ノケ所ニ別紙ハ郡役所新設スヘキ郵便掛函ハ長役場費ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事
但製造方ノ義ハ其地集配所轄郵便局ニ離形等達シ置候條承リ合セ出來之上該鍵其郵便局ニ引送ルヘキ事

○丙廿五番 四月十四日附

本月九日丙二十一番ヲ以テ達置候約束郵便法中左ノ通訂正候條此旨相達候事(左記ハ甲三十五番布達ニ同文ナルヲ以テ略ス)

○丙廿六番 四月十四日附

今般丙三十二番ヲ以テ長役場ニ於テ新設候郵便掛函并掛札ノ義右役場費ヲ以テ支辨方相達置候處右ハ驛遞局經費ヲ以テ支拂相成候條制規ノ掛函并掛札製造代共(八十錢)職方請取証取添ヘ中立ツヘシ此旨相達候事
但郵便掛函製造方等ノ義ハ所轄郵便局承リ合スヘシ

郡役所、長役場(金澤區役所同戶)長役場ヲ除ク

○丙三十四番 五月一日附

本年四月九日丙二十一番ヲ以テ達置候約束郵便法中左ノ通訂正五月一日ヨリ施行候條此旨相達候事(左記ハ甲四十三番ト同文ニ付略ス)

第一條第一項七行右縣立學校ノ次ヘ一全病院ノ一行ヲ加フ

第一條第一項九行右縣立學校ノ下ヘ病院ノ二字ヲ加フ

第一條第二項六行一縣立學校ノ次ヘ一全病院ノ一行ヲ加フ

○丙三十八番 五月七日附

今般管内約束郵便法施行ニ付テハ公用郵便物數量目等別紙離形ニ照準該郡區役所ニ於テ取纏メ翌月十日限リ可届出此旨相達候事(別紙)

郡區役所、長役場

管内公用約束郵便物數御届

一書狀量目

何々

但地券并木製鑑札共

何々

一全封數

何々

一書留量目

何々

但總テ書留ノ手續ヲナシタルモノ

何々

一全封數

何々

一書籍量目

何々

一全 封數 何々
 一定時印刷物量目 何々
 但驛遞局認可ノ分
 一全 封數 何々
 右何年何月一日ヨリ月末日マテ公用郵便物數量目等及御届候也
 年號月日 何々
 長官宛 郡區長姓名

○營業ノ部

○甲三番

一月八日附

明治十六年三月 甲十五番布達漁業採藻取締規則並ニ免許願手續中左之追加條此旨布達候事

漁業採藻取締規則

- 第一條中採藻ノ下〔又ハ遊漁〕ノ四字ヲ加ヘ〔無鑑札ニテ漁業採藻ヲナスヘカラス〕ノ十六字ヲ刪除ス
 - 第四條中漁業ノ下〔及ヒ遊漁〕ノ四字ヲ加ヘ他ノ下〔構造セル〕ノ四字ヲ加フ
 - 第五條中採藻ノ下〔遊漁〕ノ二字ヲ加フ
 - 第十一條中採藻ノ下〔遊漁〕ノ二字ヲ加ヘ〔稼〕ノ一字ヲ刪除ス
 - 第十二條中採藻ノ下〔遊漁〕ノ二字ヲ加ヘ〔營業〕ノ二字ヲ刪除ス
 - 第十三條中採藻ノ下〔遊漁〕ノ二字ヲ加フ
 - 第十四條中採藻ノ下〔遊漁〕ノ二字ヲ加フ
- 漁業採藻免許願手續
 第一條へ左ノ但書ヲ加テ
 但場所ヲ定メサル單獨ノ沖釣業ニ限り第二書式ニ倣ヒ其居住町村漁業惣代及ヒ戶長ノ連署ヲ以テ出願スルヲ得
 第五條 追加
 漁業ハ〔第三書式ニ〕其居住町村戶長ノ連署ヲ以テ郡區役所へ出願スヘシ
 據ルヘシ

第六條 全上
遊漁ハ場所不定ノ單獨漁ニ限リ之ヲ許スヘシ

第七條 全上

第一條 第二條 第四條ニ掲クル漁業採掘出願ニ際シ其關係町村ニ於テ保証連印ヲ拒ムトキハ詮議ノ上特ニ許可スルコトアルヘシ
第五條 第八條トシ以下逐條操下ケ且第三書式トアルヲ第四書式ニ改ム

第三書式

遊漁願

一何々魚何漁器

但場所不定單獨漁

右ハ明治十六年甲午番御布達ヲ遵守シ遊漁任度候間免許鑑札御下渡被下度此段相願候也

何郡何町何番地

族籍

年號 月 日

願人 姓 名 印
右 戸長 姓 名 印

○甲十二番 郡區長宛
二月一日附

明治十五年八月甲午百十九番布達人カ車取締規則中左ノ一條ヲ加ヘ從前ノ第十七條ヲ第十八條トス
右布達候事

第十七條 櫓ヲ以テ人カ車ニ代用スルモノハ此規則第十條以下各條ノ旨趣ヲ遵守スヘシ
○甲十三番 一月一日附

古物商取締條例第二十三條ニ依リ取締規則左之通相定候條此旨布達候事
但明治十五年甲午九十六番布達古若商取締規則及ヒ同年甲午九十七番布達古道具商取締規則ハ廢止ス

其古物商取締細則

第一條 古物商營業表爲サン前カ第一號書式ニ照準戸長役場及郡區役所ヲ經由シ所轄警察署ニ願出免許鑑札ヲ受ケルコトナリ

第三條 廢業シモノハ前條ノ手續ヲ據リ鑑札返納スヘシ

第三條 轉居改名又ハ鑑札ヲ遺失シ或ハ毀損シタルモノハ其事由ヲ詳記シ第二條ノ手續ニ據リ更テ鑑札ヲ受ケルヘシ死亡者遺族ノモノ引續キ營業セントスルモ亦同シ

第四條 古物商各警察署所轄毎ニ適宜組合ヲ立(便宜ニ依リ分署ノ所轄ニ據)一組毎ニ取締一名副取締一名又ハ數名ヲ置クヘシ

但各商毎ニ組合ヲ立ツヘシ
第五條 正副取締制定警察署組合中適宜ノ方法ヲ以テ撰舉シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認明ヲ受ケルコトナリ

第六條 正副取締ノ手数料及ヒ筆墨紙等ノ實費ハ一組合ノモノ協議ノ上支辨スヘシ
其金高ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認明ヲ受ケルヘシ

第七條 各組合毎ニ住所氏名年齢ヲ記載シ各實印ヲ捺シタル組合名簿ヲ製シ取締ノ手續ニ備置スルコトナリ

第八條 正副取締ハ所轄警察署又ハ分署ヨリ取締ニ關スル諸達及ヒ盜難届遺失物等ノ品

營業

四百二

觸受ケタル時ハ第二號書式ノ添書ヲ付シ速ニ組内ニ回達其終ルヲ俟テ原書ハ警察署又ハ分署ニ返納スヘシ

第九條 古物商ハ品觸控帳ヲ調製シ品觸ノ到達アリタルハ即時其控帳ニ騰寫シ添書氏名ノ下ニ何月何日何時氏名ニ回達スレド記載捺印ノ上速ニ回達シ周尾ヨリ取締ニ返却ス

第十條 古物商ハ該取締條例第三條ニ據リ賣買又ハ交換シタル物品等ヲ記載スル爲メ左ノ帳簿ヲ調製シ所轄警察署又ハ分署ニ捺印シ受ク

一物品買入帳

一物品讓受帳

一物品賣渡帳

第十一條 前條(買入)帳ニハ第三號書式ニ準シ買取又ハ交換シタル物品ノ種類員數價額并賣主及讓主ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第十二條 (賣渡)帳ニハ第四號書式ニ準シ賣渡又ハ讓渡シタル物品ノ種類員數價額年月日ヲ記載スヘシ

第十三條 物品ヲ寄附シタルハ第五號書式ニ準シ其預ケ主ノ住所氏名及ヒ物品ノ形數員數ヲ記載シ寄附シタル日ヨリ三日マテニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十四條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルハ第十二條ニ據リ其品質模樣等ヲ詳記シ尙其買主又ハ讓受人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第十五條 特別取締ニ付セラレシ者其期限中ハ第十條ニ定メタル(買入)帳及ヒ(賣渡)帳ヲ別ニ調製シ所轄警察署又ハ分署ニ捺印シ受ク

第十六條 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルハ取締條例第十六條第一項ニ據リ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀價額年月日時ヲ買入帳ニ記載スヘシ

第十七條 許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ニ於テ物品ヲ買取リ交換スル際并ニ各自ニ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯スルモ若シ親族其他ノ者ヲ行商ニ爲サザルハ

第十八條 前條市場ヲ設置セントスルモノハ第一條ノ手續ヲ以テ所轄警察署ニ出願許可

第十九條 市場に於て賣買讓受及に交換スルモノ并ニ露店又ハ路傍ニ於テ販賣スルモノハ第一號雛形ニ倣ヒ木札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署へ出願捺印ヲ受ケ之ヲ標出スベシ

第二十條 古物商營業者ハ免許鑑札ヲ受ケ此外倣第二號雛形ノ看板ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ捺印ヲ受ケ店頭ニ掲ケヘシ

第二十一條 前條ノ看板及ビ第十九條木札ノ書換等ヲ要スル時ハ其事由ヲ詳記シ出願ス

但廢業ノ節ハ消印ヲ受ケヘシ

第二十二條 營業停止若シテ禁止ヲ受ケタルモノハ親屬又ハ他人ノ名義ヲ以テ其業ヲ營ミ又ハ之ヲ關與スルコトヲ得ス

第二十三條 古物商取締條例及ビ此細則ノ證人ハ左ノ各項ヲ具備シタルモノニ限ルヘシ

一 一年齡滿二十歲以上ノ者

二 賣主讓主交換主ノ住所氏名年齡ヲ詳知シタル者

三 白痴瘋癲ニアラサル者

四 詐罪或ハ偽證罪ニ依リ處刑ヲ受ケサル者

第二十四條 此規則ニ違反シタル者古物商取締條例ニ明文アル外ハ違警罪ノ處分ヲ受ケ

第壹號書式

何々商(或ハ何屋)仕度候間免許鑑札御渡被下度此段奉願候也

何區何町何番地身分

年月日

願人氏名

明治何年何月何年何ヶ月

組合取締氏名印

石川縣令姓名殿

第二號書式

別紙之通品觸御達有之ニ付至急御回達有之度候也

年 月 日

何郡何町

何々商組合取締氏名印

何町 氏名殿

承認ノ者如斯記スヘシ

何月何日何時氏名へ回達ス印

全 上

全 上

追テ周尾ヨリ御返却有之度候也

第三號書式

何年何月何日 買入

何年何月何日 譲受

一 何色縮緬女小袖

一 何色縮緬女小袖

一同 前項ニ倣ヘ其品

此價何程

何枚

何枚

營業

一 黒塗八寸重箱 何箇
 一同 前項ニ倣ヘ其品 何箇
 此價何程
 幾品
 右 賣主 何府 何郡 何町 何番地氏名
 譲主 何縣 何區 何村 何番地氏名
 証人アルキ又ハ警察官ノ許可ヲ得テ買取又ハ譲受ケタルキハ末項ヲ左ノ如ク記スヘシ
 右 府 何郡 何町 何番地氏名ヲ証人トシ何縣 何郡 何町 何番地氏名ヨリ買取リ又ハ譲受ケ
 又ハ
 右買取リ又ハ譲受ケタルニ付警察官ノ認可ヲ受ケ
 第四號書式
 何年何月何日 賣渡
 讓渡
 一 何色縮緬女小袖 何枚
 一同 前項ニ倣ヘ其品 何枚
 類ヲ記スヘシ
 此價何程
 一 黒塗八寸重箱 何箇
 一同 前項ニ倣ヘ其品 何箇
 類ヲ記スヘシ
 此價何程
 幾品

營業

右何年何月何日何府 何郡 何町 何番地氏名ヨリ買取リ又ハ受ケタル分
 買主又ハ譲受主ヲ知リ得タルキ及ヒ同業者ニ賣讓シ或ハ讓渡シタルキハ左ノ如ク記ス
 一 何年何月何日何府 何郡 何町 何番地氏名ヨリ (証人アルキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケ買取)
 買取リ又ハ譲受ケタル物品ノ處何縣 何郡 何町 何番地氏名ニ賣渡或ハ讓渡ス
 第五號書式
 預品御届
 一 何色羽三重紋付男小袖 何枚
 一同 前項ニ倣ヘ其品 何枚
 類ヲ記スヘシ
 一 黒塗八寸重箱 何箇
 一同 前項ニ倣ヘ其品 何箇
 類ヲ記スヘシ
 幾品
 右何年何月何日 (火盜難保護ノ爲メト) 何府 何郡 何町 何番地氏名ヨリ何年何月何日マテ預
 候ニ付此段御届申上候也
 年 月 日
 石川縣令姓名殿
 何郡 何町 何番地何商
 氏 名 印

第六號書式

(買入)帳記載ノ例

何年何月何日何時(買入)

一何色羽二重紋付男小袖

但紋何々裏何々

何色袖口何々

一同

全

但

一黒塗重箱

但何々塗蓋何々何々ノ紋

付又ハ何々ノ蒔繪アリ

一同

全

但

右賣主何府何郡何町何番地氏名何年何ヶ月

(買渡)帳記載ノ例

何年何月何日何時(買渡)

一何色羽二重紋付男小袖

但紋何々裏何々

何色袖口何々

一同

全

但

一黒塗重箱

但何々塗蓋何々何々ノ紋

付又ハ何々ノ蒔繪アリ

一同

全

但

幾品

右何年何月何日何府何郡何町何番地氏名ヨリ買取り又ハ讓受ケノ分賣主又ハ讓受主ヲ知

リ得タルキ又ハ同業者ニ賣渡シ或ハ讓渡シタルキハ左ノ如ク記スヘシ

右何年何月何日何府何郡何町何番地氏名ヨリ(買取)タル物品ノ處何府何郡何町何番地氏

名何年何ヶ月(買渡)ス

第七號書式

物品(送致)目錄

二一營

一何色羽二重紋付男小袖

何枚

但紋何々裏何々

一同

何枚

但全

一黒塗重箱

何箇

但何々塗蓋何々何々ノ紋

一同

何箇

但全

×幾品

右ノ品々何月何日何府何郡何町何商氏名へ向ケ差立又ハ何月何日何府何町何商ヨリ受取候間此段御届申上候也

何郡何町何番地何商

年月日

(送致人) 氏名印
(受取人) 氏名印
組合取締 氏名印

石川縣令姓名殿

第一號雛形

豎一尺五寸

巾五寸

何府何郡何町何番地族籍

姓名

何々商

明治何年何月

何年何ヶ月

第二號雛形

豎三尺

横八寸

警察署檢印

何々商

姓名

○甲十四番

二月四日附

明治十六年第五十號布告古物商取締條例及本年二月甲十三番布達古物商取締細則中直ニ所轄警察署へ差出スヘキ諸届及ヒ認可ヲ受ケルヘキモノハ警察署直轄ノ外ハ所轄分署へ可差出此旨布達候事

○甲十五番

二月十九日附

營業

三一營

四一營

古物商取締規則 本年甲十 第四條ニ依リ古物商ハ各警察署又ハ分署所轄内ニ於テ各商毎ニ組合ヲ立ツヘキモノト雖モ其所轄中同業十戸以下ニシテ組合ヲ立ツルニ不便アルノ地ハ他ノ商業ニ合併組合ヲ設クルヲ得ヘシ此旨布達候事

○甲十八番 二月廿五日附

雇人請宿營業取締規則左之通相定三月十日ヨリ施行候條此旨布達候事

第一條 雇人請宿營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ準シ戸長役場及郡區役所ヲ經由シ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 轉居改名又ハ廢業シタルハ前條ノ手續ニ據リ届出ヘシ

第三條 雇人請宿營業ノ者ハ警察署所轄毎ニ組合ヲ立(便宜分署ノ所轄ニ依リ組ニ正副取締ヲ置クヘシ)但副取締數名ヲ置クモ妨ナシ

第四條 正副取締ヲ定ムルハ組合適宜ノ方法ヲ以テ撰舉シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第五條 組合毎ニ住所氏名年齢ヲ記載シ實印ヲ捺シタル組合名簿ヲ製シ取締ノ手許ニ備置クヘシ

第六條 取締ノ手数料及ヒ筆墨紙等ノ費用ヲ要スルハ組合協議ノ上支辨スヘシ但其金高ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

第七條 雇人請宿營業者ハ其雇人トナルヘキ者ノ住所氏名ヲ熟知シ且左ノ各項ヲ具備シタル者ノ証人アルモノハ此限ニアラス

一 年齢滿二十歳以上ノ者

五一營

一 雇人トナルヘキ者ノ住所氏名年齢ヲ詳知シタル者

一 白痴瘋癲ニアラサル者

第八條 雇人請宿營業者ハ雇人名簿ヲ製シ置キ第二號書式ニ準シ其口入ヲ爲シタル雇人ノ住所氏名等ヲ記載スヘシ

第九條 雇人世話料ハ組合協議ノ上定メ置キ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十條 雇人請宿營業者ハ雇主ニ對シ第三號書式ニ準シ雇人身元証ヲ差入レ置クヘシ

第十一條 料理屋飯食屋娼妓貸坐敷又ハ旅館屋營業者ノ雇人ルヘキ婦女ノ口入ヲ爲シタルハ時々其雇主及雇人ノ住所氏名年齢ヲ記載シ(雇主ハ年齢ヲ)記載ニ及ハス)所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第十二條 雇人請宿營業者ハ別紙雛形ノ看板ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ捺印ヲ受ケ店頭ニ掲クヘシ

第十三條 雇人ヲラントスルモノニシテ其舉動不審ト認ムルモノアルハ警察官吏ニ密告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 警察官吏ハ時々雇人請宿ニ就キ諸張簿ヲ檢査スルコトアルヘシ營業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ノ處分ヲ受クルノ外其營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第一號書式

雇人請宿營業仕度候間御許可被下度此段奉願候也

何郡何町何番地身分

六一營

年月日

石川縣令姓名殿

第二號書式

願人氏名印
組合取締氏名印

何府何郡何町何番地身分
何縣何區何村

氏名

明治何年何月

何年何月

右何年何月何日何郡何町何番地何誰へ何年何月何日迄雇人ニ口入ス(又ハ何郡何町何誰ノ請合ニ依リ云々)

第三號書式

何府何郡何町何番地身分
何縣何區何村

氏名

明治何年何月

何年何月

右ノ者是迄身元儘ニシテ不正ノ行爲ナキ事ヲ致保証候也

何郡何町何番地
何區何村

雇人請宿營業

年月日

氏名印

別紙雛形

豎三尺

□ 警察署(又ハ分署)檢印

□ 雇人請宿營業

氏名

横八寸

○甲廿二番

三月五日附

明治十五年六月廿九日 甲九十五番布達質屋取締規則第一條第十六條及第一號書式左ノ通改正

シ且第十四條ヲ追加シ以下各條線下候條此旨布達候事

第一條 質屋營業ヲ爲サントスルモノハ第一號書式ニ照準戸長役場及郡區役所ヲ經由シ

所轄警察署へ出願許可ヲ受クヘシ

第十六條 此規則ニ違反シタルモノハ違警罪ノ處分ヲ受クルノ外其營業禁止又ハ停止ス

ルヲアルヘシ

第十四條 質屋營業者ハ別紙雛形ノ看板ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ店頭ニ

掲クヘシ

四百十五

營業

七一營

業營

年月日

石川縣令姓名殿

〔別紙〕

雛形

豎三尺

警察署(又ハ)分署(檢印)

横八寸

質屋業營

姓名

○甲廿三番

三月五日附

明治十六年一月廿四日 甲五番布達旅籠屋營業取締規則第一條及第一號書式左之通改正ニ且第十三條ヲ挿入シ以下各條線下ケ候條此旨布達候事
第一條 旅籠屋營業ヲ爲サントスルモノハ第一號書式ニ照準戶長役場及郡區役所ヲ經由シ所轄警察署へ出願許可ヲ受クヘシ
第十三條 營業者ハ別紙雛形ノ看板ヲ製シ所轄警察署ハ又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ店頭ニ掲第一號書式
旅籠屋營業仕度候間御許可被下度此段奉願候也

年月日

何郡區何町村何番地身分

願人姓名印

石川縣令姓名殿

雛形

豎三尺

警察署(又ハ)分署(檢印)

横八寸

旅籠屋營業

姓名

○甲廿四番

三月五日附

明治十六年四月六日 甲三十一番布達人寄席取締規則第一條及ヒ第一號書式左之通改正ニ且第九條ヲ挿入シ以下各條線下ケ候條此旨布達候事
第一條 人寄席營業ヲ爲サントスルモノハ第一號書式ニ準シ戶長役場及郡區役所ヲ經由シ所轄警察署へ出願許可ヲ受クヘシ
第九條 人寄席營業ノ者ハ別紙雛形ノ看板ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ入口ニ掲クヘシ
第一號書式
人寄席營業仕度候間御許可被下度此段奉願候也

年月日

何郡區何町村何番地身分

願人姓名印
組合取締 姓名印

石川縣令姓名殿

營業

〔別紙〕

雛形

堅三尺

警察署(又ハ)分署(檢印)

人寄席營業

姓名

横八寸

○甲廿九番

三月廿六日附

近來着色偽似ノ茶ヲ製シ又ハ不頁茶ヲ混淆シテ販賣候者有之趣右ハ正業者ノ妨害ト相成
ハ勿論人身ノ健康ニモ相關候義ニ付茶業ニ從事スル者ハ左ノ茶業組合準則ニ基キ組合相
立テ其規約ハ本縣ノ認可ヲ受シヘシ此旨布達候事

茶業組合準則

第一條 茶業ニ從事スル者ハ製造者ト販賣者トヲ問ハズ郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合
ヲ設置スヘシ

第二條 組合ノ名稱ハ石川縣下何郡區町村茶業組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項 他物若クハ惡品ヲ混淆シ或ハ着色スル等總テ不正ノ茶ハ製造販賣セサル事
第二項 乾燥法及ヒ荷造方ヲ完全ニスル事
第三項 製茶荷造ノ上ハ必組合ノ名稱及ヒ製造人販賣人ノ姓名ヲ記スル事

第四條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ
第五條 組合員ハ必ス其組合ノ証票ヲ携帯スヘシ

二營

但証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ

第七條 縣下便宜ノ地ニ取締所一箇所ヲ設ケテ各組合ヲ統轄スヘシ

第八條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰スヘシ

第九條 組合及ヒ取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 右各條ノ外組合ニ於テ必要トナス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クルヲ得

○甲三十番

三月廿一日附

勸業委員及農工商會設置準則制定ノ件(勸業ノ部ヲ參觀スヘシ)

○甲三十四番

四月九日附

本年四月一日以降訴訟用郵紙規則廢セラシ候ニ付賣捌人ハ拂下并需用者ニ於テ購求不用
ノ郵紙ハ此際一時買上候條右不用郵紙所持ノ者ハ本月三十日限リ現品相添買上方所轄郡
區役所へ出願可致此旨布達候事

但損傷汚染シタル者ハ買上サルヘシ(六月廿三日甲七十一番ヲ以テ但書刪除)

○甲四十一番

四月廿五日附

明治十六年十一月 甲百十一番布達(諸營業出願順序并ニ取締規則)文中等左之通増補更正
候條此旨布達候事

明治十六年十二月 甲百十二番布達中増補更正

布達文中並標目中「諸營業」ノ下へ(標札檢印鑑札)ノ六字宛ヲ挿入

第三條更正 (縣廳ノ許可ヲ要スル營業 會社 藥舖 藥種商 市場 ハ許可濟ノ上第四條ニ
水車 陸運人馬繼立

三二營

因ルヘキモノトス
 第四條中(出願)ノ文字ヲ削郡區役所ヘノ下タニ(申出)ノ二字ヲ挿入又雛形中(取締鑑
 ノモノハ營業)トアルヲ(別ニ取締規則ニヨリ標札檢印並鑑札)ト更正ス
 第五條中「出願」ヲ(申出)ト更正ス
 第六條中「ノ許可ヲ受ク」ヲ「六字ヲ削」ヲ届出タ「ノ四字ヲ挿入ス」
 第十條中「許可ヲ受ク」ヲ「五時ヲ削(義申出)ノ三字ヲ挿入」
 ○甲四十二番 四月三十日附
 水車場設立規則左之通相定條候此旨布達候事
 水車場設立規則
 第一條 新ニ水車場ヲ設置セント欲スルモノハ第一號甲書式ニ準據近傍及水上水下關係
 町村ヘ協議ヲ遂ケ其關係者連署ノ上出願スヘシ
 第二條 他人ノ有所地ヲ借受設立スルモノハ前條ノ手續ニ據リ尙地主ノ連署及ヒ地元戶
 長ノ與印ヲ受クヘシ
 第三條 前條々ノ出願者ハ圖式雛形ニ準據シ細詳ノ圖面ヲ製シ願書ニ添付スヘシ
 第四條 水車輪徑改造等ヲ爲スモノハ第二號書式賣買讓與ハ第三號書式廢止ハ第四號書
 式ニ準據速ニ届出スヘシ
 第五條 水路官有地ヘ係リ水車場設立スルモノハ第一號乙書式ニ準據反別及使用料等ヲ
 モ記入出願スヘシ
 第六條 此規則ニ依リ許可ヲ得タルモノト雖モ實際障礙アル者ト見認ムルトハ直チニ取
 拂命スル事アルヘシ

第一號甲書式 水車場設立願(正副)

一 水車場

九尺已上 未滿何基

但何郡何村字何第何番地(田畑宅山林)何川支流何用水路(或ハ何川分)每年何

ヨリ何 何ケ月間使用

右ハ今般但書之場所ニ於テ水車場新設仕度尤モ實際障礙有之節ハ御規則之通速ニ取拂

可申候條御許可被成下度依テ圖面相添關係者連署ヲ以テ此段奉願候也

明治何年何月何日

何郡區何村何番地 願人 何 某印 (願人二名以上ナレハ悉ク連署スヘシ)

關係何町惣代 何 某印

關係何村惣代 何 某印

戶長 何 某印

三二營

營業

四百二十二

四二營

縣令宛

何 某印

第一號乙書式

水車場設立願(正副)

一(此項ハ但書トモ
甲書式ニ全ク略)

何郡何村字何用水敷

一水面反別何程 官有地

此使用料一ヶ年金何程

右ハ今般第一項但書之場所ニ於テ水車場新設仕度尤以下甲號書式ニ全ク略

第二號書式

水車輪徑改造ニ付御届

何年何月何日許可字何第何番

一水車改造 水車輪徑

九尺以上何基 未滿

右ハ曾テ御許可相成居候水車輪徑九尺已上未滿之分何々ニ付改造仕候間此段御届申上候也

何郡區何町何番地

何 某印

戸長

何 某印

明治何年何月何日

第三號書式

縣令宛

水車場買受御届

一水車場 水車輪徑

九尺已上何基 未滿

但何郡何村字何第何番地(田畑宅山林)何川支流何用水路(或ハ何川分)每年何月何日

何月何日何ヶ月間使用

(用水敷官有地ナルハ
第一號乙書式ニ因ル)

右ハ何ノ某從來御許可ヲ受但書ノ場所ニ依テ營業罷在候處今般同人ヨリ買受候尤實際障

碍有之節ハ御規則之通速ニ取拂可申候條御許可被成下度依テ圖面相添賣渡人等連署ヲ以

テ此段御届申上候也

何郡區何町何番地

買受人 何 某印

(買受人二名以上ナレハ
悉ク連署スヘシ)

明治何年何月何日

五二營

營業

四百二十四

縣令宛

（最前ノ設立ヨリ水車ノ輪徑伸縮或ハ場所ヲ變換スルハ關係町村總代ノ連署ヲ要スヘシ）

第四號書式

水車場廢止御届

何年何月何日許可字何第何番

一水車場

水車輪徑
九尺以上何基
未滿

右ハ都合ニヨリ自今相廢候間此段御届申上候也

明治何年何月何日

縣令宛

何郡區何村何番地

賣渡人

何 某印

戸長

何 某印

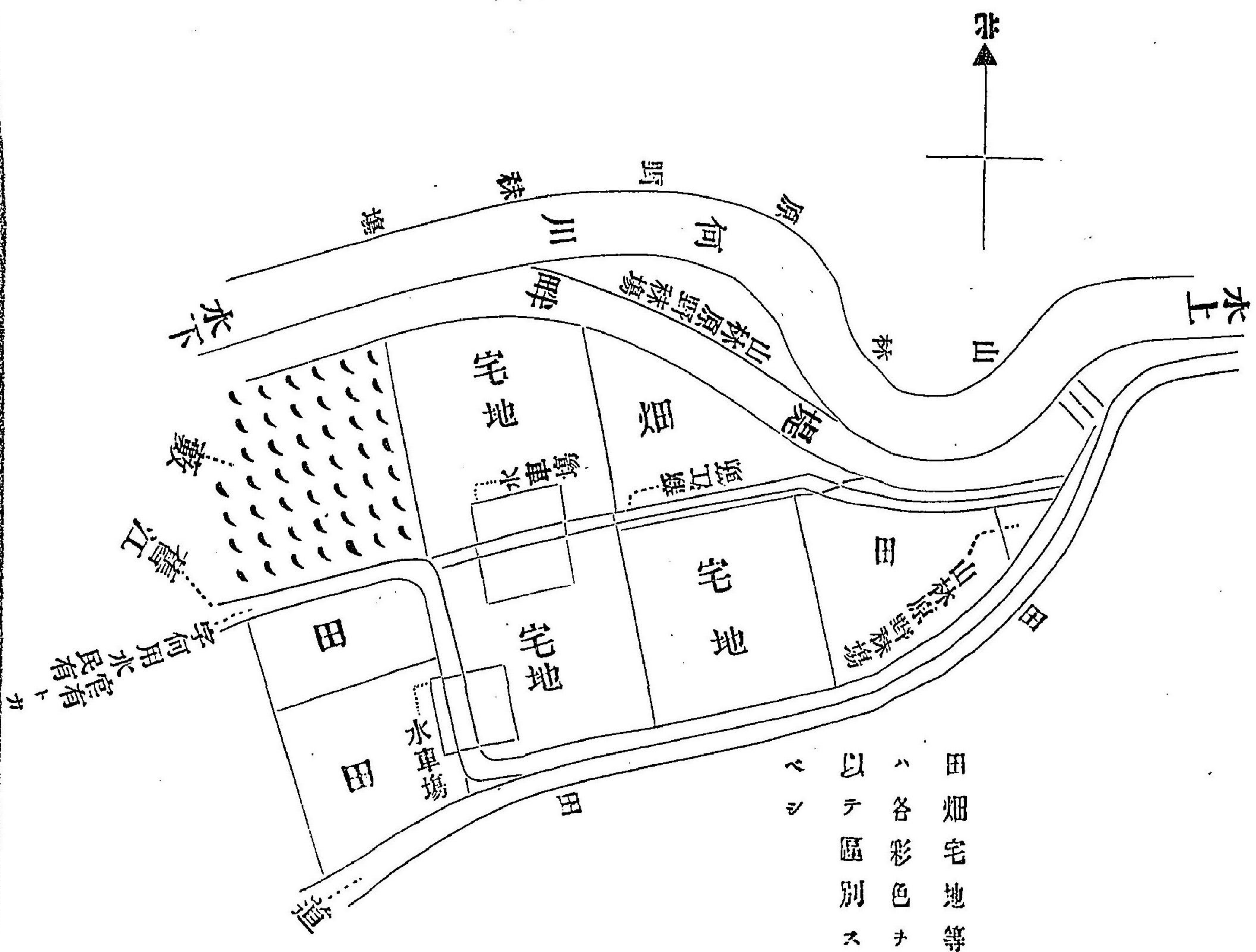
何郡區何村何番地

長戸

何 某印

何 某印

水車場設立地何村地ノ略圖



右ハ都合ニヨリ自今相應候間此段御届申上候也

何郡區何村何番地

明治何年何月何日

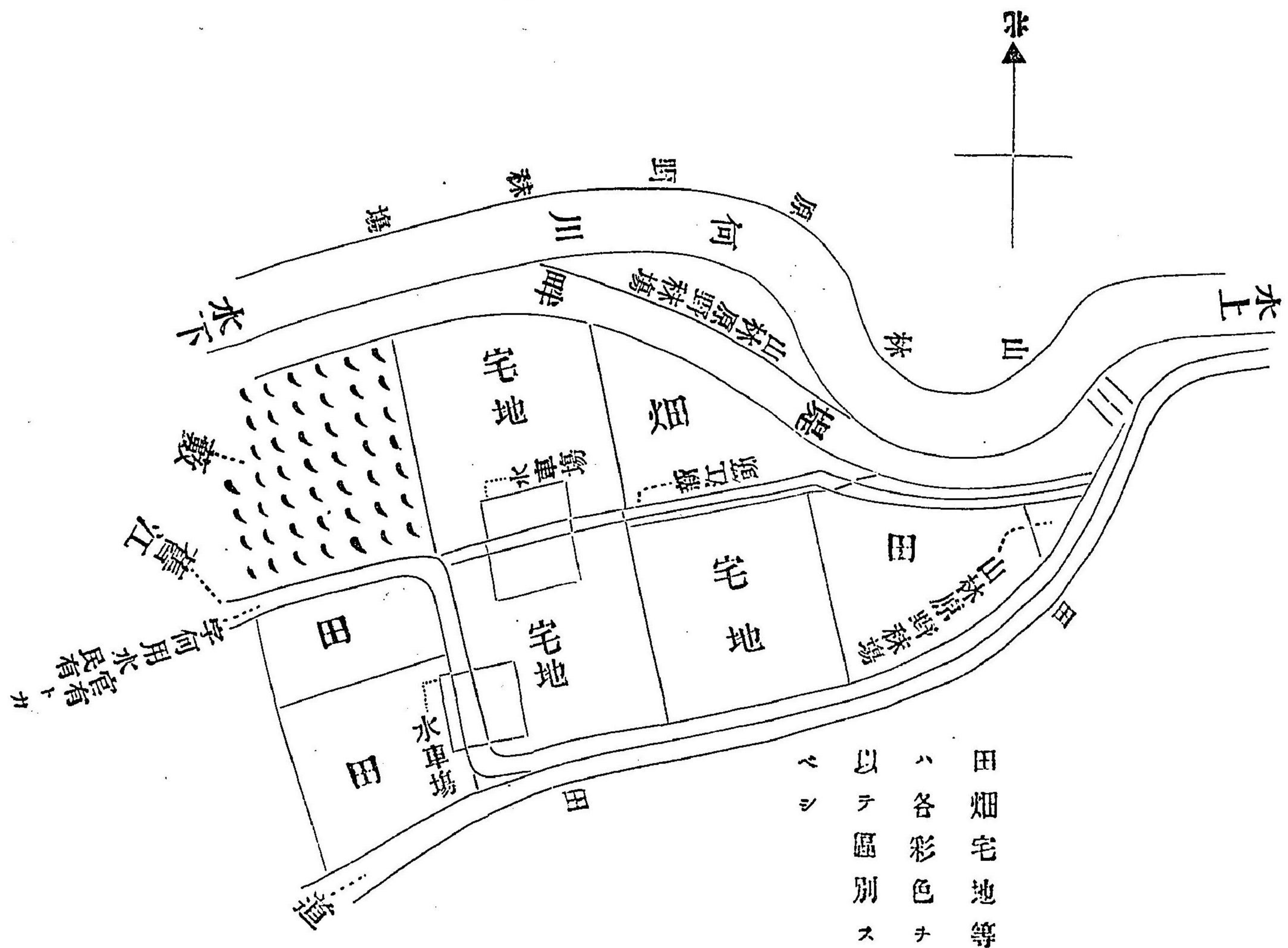
長戸

何 某印

縣令宛

何 某印

水車場設立地何村地ノ略圖



田畑宅地等
ハ各彩色ヲ
以テ區別ス
ヘシ

明治何年何月

何郡何町何番地

願人何

某印

關係何村町惣代

何 某印
(以下倣之)

○甲四十五番

五月九日附

本年三月第九號布告質屋取締條例第十八條ニ依リ細則左ノ通相定メ明治十七年五月十五日ヨリ施行候條此旨布達候事
但明治十五年甲九十五番布達質屋取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

質屋取締條例細則

- 第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ照準戸長役場及ヒ郡區役所ヲ經由シ所轄警察署ヘ出願免許ヲ受クヘシ死亡者遺屬ノ者引續キ營業セントスルモ亦同シ
- 第二條 廢業又ハ轉居改名シタルモハ前條ノ手續ニ據リ届出ヘシ
- 第三條 質屋營業者ハ第二號雛形ノ看板ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ店頭ニ掲クヘシ其書換等ヲ要スルモ自由ヲ詳記出願シ廢業ノ節ハ消印ヲ受クヘシ
- 第四條 質屋營業者ハ各警察署毎ニ適宜組合ヲ立テ(便宜分署ノ所轄ニ據リ組)一組毎ニ取締一名副取締一名又ハ數名ヲ置クヘシ
- 第五條 正副取締ヲ定ムルハ組合中適宜ノ方法ヲ以テ撰舉シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受ク可シ
- 第六條 正副取締ノ手数料及ヒ筆墨紙等ノ費用ハ該組合ノ者協議ノ上支辨シ其金高ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受ク可シ
- 第七條 組合毎ニ住所氏名年齢ヲ記載シ各實印ヲ捺シタル組合名簿ヲ製シ取締ノ手續ニ備置シ可シ
- 第八條 質屋營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ク可シ

質物臺帳

營業

營業

物品預帳
流質物賣拂帳
品觸寫帳

第九條 質物臺帳ハ第三號書式ニ準シ物品預帳ハ第四號書式ニ準シ流質物賣拂帳ハ第五號書式ニ準シテ記載シ品觸寫帳ハ其品觸ヲ謄寫スルモノトス(品觸書回達方ハ第六號書式ニ依ル)

第十條 取締ハ所轄警察署又ハ分署ヨリ取締ニ關スル諸達及ヒ駐物ノ品觸ヲ受ケタル片ハ第六號書式ノ添書ヲ付シ速ニ組内ヘ回達シ回終ノ後其署ヘ返納ス可シ

第十一條 條例第六條第八條ノ場合ニ於テハ第七號第八號書式ニ準シ記載ス可シ

第十二條 營業上押切印等ヲ要スル片ハ住所氏名判明ナルモノヲ用フ可シ

第十三條 流質物ヲ賣拂ハシテ其物品ヲ店頭ニ陳列シ又ハ行商スルヲ得ス

第十四條 營業停止若クハ禁止ヲ受ケタルモノハ他ノ同業ニ關與スルヲ得ス

第十五條 條例中證人トナルヘキモノハ左ノ各項ヲ備ヘタルモノニ限ルヘシ

- 一 年齡二十歲以上ノ者
- 一 質入主ノ住所氏名年齡ヲ詳知シタル者
- 一 白痴瘋癲ニアラサル者
- 一 雇入(雇主ノ家ニ)ニアラサル者
- 一 雇人(アルモノ)ニアラサル者

第十六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケザル者

第十七條 條例中所轄警察署ヘ差出スヘキ諸届及ヒ檢印ヲ受クヘキ帳簿ハ分署所轄内ニ在テハ其分署ヘ差出ス可シ

第十七條 此規則ニ違反シタル者ハ條例ニ明文アルモノノ外違警罪ノ處分ヲ受クヘシ

營業

質屋營業仕度候間御許可被下度此段奉願候也

年月日

何郡何町何番地身分

石川縣令姓名殿

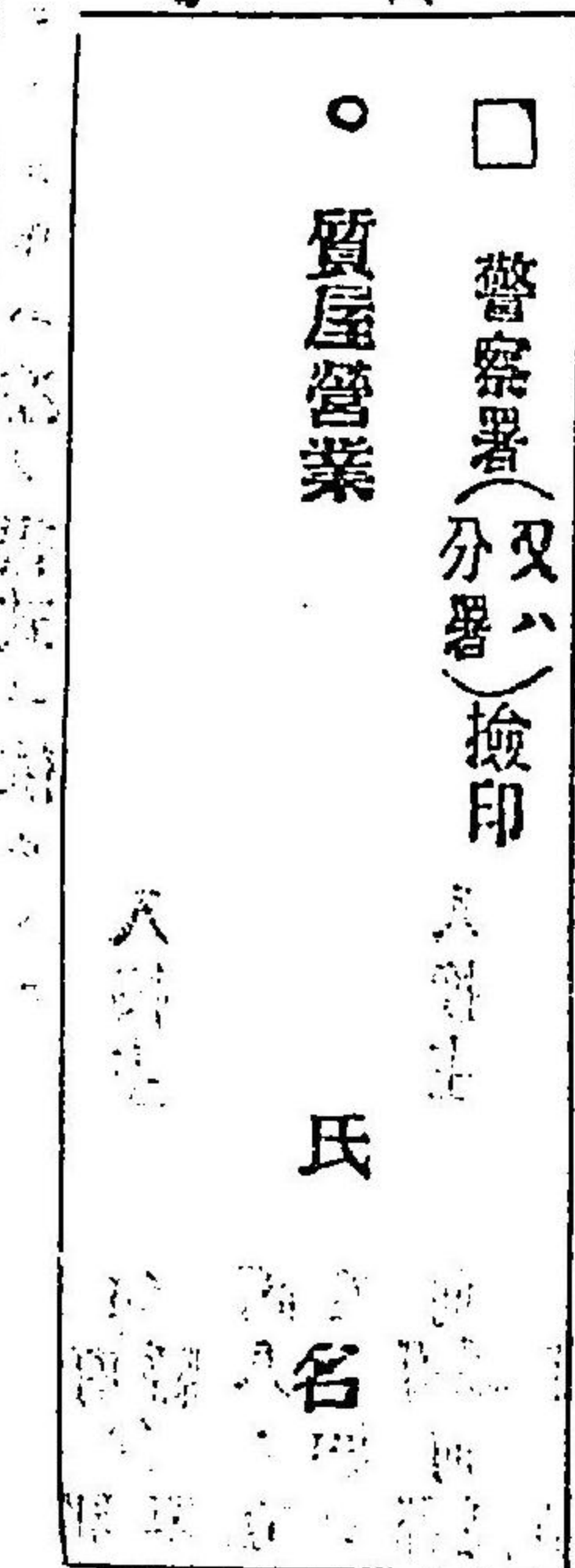
願人 氏名 印
組合取締 氏名 印

第二號雛形

警察署(又ハ)檢印
質屋營業

氏名

横 八寸



氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

第三號書式
質物臺帳ヘ記載ノ例

何年何月何日

質入主

何府何郡何町何番地 氏名

證人ヲ立テ質物ヲ取リタル片ハ

左ノ如ク記スヘシ

質入主

何府何郡何町何番地 氏名 印

此證人

何府何郡何町何番地 氏名 印

一金銀無垢何々

何箇

○三營

但目形何々

一籠甲櫛

但形ハ何々ニシテ何々
ノ模様又ハ黒班アリ

一何々

但何々

〆幾品

爰ニ餘白ヲ殘シ受戻ノ年月日ヲ左ノ如ク記スヘシ

右何年何月何日受戻ス

入換主爲シタルキハ左ノ書式ニ依ルヘシ

何年何月何日

入換主

何府何郡何町何番地 氏名

証人ヲ立テ入換主爲シタルキハ
左ノ如ク記スヘシ

入換主

何府何郡何町何番地 氏名印

何府何郡何町何番地 氏名印

一金銀無垢何々

一籠甲櫛

但形ハ何々ニシテ何々
ノ模様又ハ黒班アリ

此貸金何程

何枚

此貸金何程

三營

營業

一何々

但何々

〆幾品

右何年何月何日何々品外何品ノ質物ト入換ス

第四號書式

物品預帳ノ記載ノ例

何年何月何日

一銀瓶

但目形何々ニシテ何々ノ
模様アリ形ハ長キ方ナリ

一金側片硝子懷中時計

但器機何々國製番號

何萬何千號附屬品何

一何々

但何々

〆幾品

右何々(火災盜難保護)ノ爲メ何年何月何日何府何郡何町何番地氏名ヨリ預ル

第五號書式

流質物賣拂帳ノ記載ノ例

何年何月何日

一何色羽三重紋付男小袖

何枚

營業

但紋付何々裏何々
何色袖口何々

此價何程

一銀瓶

何箇

但目形何々ニシテ何ノ模様
アリ形ハ稍長キ方ナリ

此價何程

一何々

何々

但何々

右買主何府何郡何町何番地氏名

第六號書式
別紙之通品觸(御達)有之ニ付至急御回達有之度候也

年月日

何郡何町

何月何日時氏名へ回達ス印

質屋組合取締 氏名 印
承認者ハ如左記スヘシ

何町氏名殿

追テ周尾ヨリ御返却有之度候也
第七號書式
御届

營業

何年何月何日何々ノ罪ニ依リ何々ノ處斷ヲ受ケタル何府何郡何町何番地氏名ヨリ何々品
外何品ヲ質ニ取リ又ハ何々品外何品ヲ(火災盜難保護)預リ候間此段御届申候也

年月日

石川縣令姓名殿

組合取締

氏名 印

第八號書式

流質物賣拂届ノ例

一何色羽二重紋付男小袖

何枚

但紋付何々裏何々

一黒塗重箱

何箇

但何々塗蓋何々何々ノ紋

一何々

何々

但何々

右ノ品々流質物ニ付何月何日賣拂候間此段御届申上候也

何郡何町何番地質屋

年月日

石川縣令姓名殿

○甲五十番

五月廿六日附

組合取締

氏名印

十七年度營業稅雜種稅課目課額ノ義通常縣會ノ決議ヲ經別冊之通相定候條此旨布達候事
但漁業採藻稅則ノ義十六年二月甲十四番布達ニ因ルヘシ
(別冊)

營業稅雜種稅課目課額

營業稅

但商業ハ一郡區ヲ以テ一稅區トス各營業人一個ノ稅率ヲ定メ每稅區營業者ノ員數ニ賦課ス而シテ每稅區ニ於テハ該課額ヲ以テ商金高等ニ分賦更ニ各營業者ノ徵稅額ヲ定ム
稅額既定后創業等ニテ増員アルハ其商金尤本業ノ内白米小賣鹽小賣ハ
收得高ニ因リ課メ賣藥請賣ハ軒別賣藥行商ハ人別金貳拾錢ヲ課ス

稅區	稅率
江沼郡	壹圓貳拾七錢
能美郡	壹圓貳拾六錢
石川郡	壹圓拾三錢
金澤區	壹圓九拾八錢

郡區	稅率
河北郡	五拾五錢
羽咋郡	六拾七錢
鹿島郡	九拾錢
鳳至郡	七拾八錢
珠洲郡	七拾五錢

分賦法

商金額(貳拾圓以上五百圓未満、拾圓每)(五百圓以上千圓未満、貳拾五圓每)(千圓以上貳千圓未満、五拾圓每)(貳千圓以上四千圓未満、百圓每)(四千圓以上六千圓未満、貳百五拾圓每)(六千圓以上壹萬圓未満、五百圓每)(壹萬圓以上貳萬圓未満、千圓每)(貳萬圓以上四萬圓未満、貳千五百圓每)(四萬圓以上八萬圓未満、五千圓每)(八萬圓以上拾五萬圓未満、壹萬圓每)(拾五萬圓以上三拾萬圓未満、貳萬五千圓每)(三拾萬圓以上五拾萬圓未満、五萬圓每)(五拾萬圓以上一總テ拾萬圓每)ノ階級ヲ以テ分賦スヘシ其收得金高ニ因ル者ハ十倍ヲ以テ商金高トス
但(貳拾圓未満、拾圓)(貳拾圓以上、貳拾圓)(三拾圓以上、三拾圓)トス以下此例ニ倣フ

工業

種目	等級	稅率
收入金高	一等	千圓以上
	二等	七百圓以上
	三等	五百圓以上
	四等	四百圓以上
	五等	三百圓以上
	六等	貳百圓以上
	七等	百圓以上
	八等	百圓未満休業無收入トモ
稅金	五圓	三圓
	五拾錢	貳圓
	五拾錢	貳圓
	壹圓	五拾錢
	壹圓	五拾錢
	貳拾五錢	

營業

營業

六三營

雜種稅

但收入金高千圓以上ハ五百圓ヲ増ス毎ニ税金壹圓五拾錢ヲ増シ壹方圓以上ハ都テ千圓毎ニ税金壹圓ヲ増ス

料理屋
待合茶屋
遊船宿
芝居茶屋

種目	等級	稅金
商金高	一等	千圓以上
	二等	八百圓以上
	三等	六百圓以上
	四等	五百圓以上
	五等	四百圓以上
	六等	三百圓以上
	七等	貳百圓以上
	八等	貳百圓未滿休業無商トモ
稅金	三拾圓	貳拾圓
	貳拾圓	拾八圓
	拾八圓	拾五圓

但商金高千圓以上ハ千圓ヲ増ス毎ニ税金拾五圓ヲ増シ壹方圓以上ハ都テ千圓毎ニ税金五圓ヲ増ス
飲食店

種目	等級	稅金
商金高	一等	七百圓以上
	二等	五百圓以上
	三等	四百圓以上
	四等	三百圓以上
	五等	貳百圓以上
	六等	百圓以上
	七等	五十圓以上
	八等	五十圓未滿休業無商トモ
稅金	拾圓	七圓

湯屋

種目	等級	稅金
湯錢	一等	五百圓以上
	二等	三百圓以上
	三等	貳百圓以上
	四等	百圓以上
	五等	百圓未滿休業無湯錢トモ
稅金	五圓	三圓
	三圓	貳圓
	貳圓	壹圓
	壹圓	五拾錢
	五拾錢	

理髮人

種目	等級	稅金
收得金高	上等	百圓以上
	中等	三拾圓以上
	下等	三拾圓未滿休業無收得共
稅金	壹圓	五拾錢

備人請宿
壹戶ニ付 税金壹圓
遊藝師匠 税金拾圓
遊藝稼人 税金拾圓
上等 收得金高 税金拾貳圓
全 四拾圓以上
下等 四拾圓未滿 全 八圓
休業無收得共

營業

七三營

四百卅五

營業

相撲 但同業中慣習ノ給料定位アル者ヲ上等トシ定位ナキ者ヲ下等トス
 上等 税金五圓 下等 税金三圓
 俳優 但書全上
 上等 税金貳拾圓 下等 税金拾圓
 藝妓

種目	等級		
	上	中	下
一ヶ月以上	三拾圓以上	貳拾圓以上	貳拾圓未満 業無収得共
税金	三圓	貳圓五拾錢	貳圓五拾錢

市場 上り高販賣上 手數料 金百分ノ七トシ日稅ヲ課ス
 演劇 興行 遊覽所 人寄席 上り高 木戶錢ヲ始メ其興行主ニ 百分ノ九トシ日稅ヲ課ス
 於テ總テ收入ナル金額

營業

遊技場 一場ニ付 税金五圓	日本形船積石 五十石未満及 解漁船小廻船 長自船梁 三間迄ハ 金貳拾錢	遊 船 長自船梁 三間迄ハ 金三拾錢	三間以上壹間ヲ加フル毎ニ 金貳拾錢ヲ增加ス	類分 稅額	人力車 貳人乘 金壹圓 壹人乘 金七拾錢	自轉車 金五拾錢	荷積車 大七八車 金七拾錢 大六以下 中小車 金五拾錢	馬車 二匹以上 金壹圓五拾錢 壹匹立 金壹圓	荷積馬車 金五拾錢	水車 但使用月數六ヶ月ニ至ラサルモノハ本稅ノ半額ヲ課ス 上等 輪徑九尺 税金三圓
---------------	-------------------------------------	--------------------	-----------------------	-------	----------------------	----------	-----------------------------	------------------------	-----------	---

四營

下等 全 九尺 全 壹圓五拾錢
 乘馬 未滿 全 壹圓五拾錢
 壹頭ニ付 税金壹圓
 屠畜 全 壹頭ニ付 税金五拾錢
 馬 全 三拾錢
 營業稅雜種稅ノ内除稅スル者左ノ如シ
 盲人ノ遊藝ヲ以テ生計ヲ爲ス者
 収稅法區別
 一 収稅法區別左ノ如シ
 第一 帶間藝妓ハ月稅、市場演劇興行遊覽所人寄席ハ日稅、屠畜ハ頭數、其他ハ津テ年稅ヲ課スヘシ
 但商業工業料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋理髮人（以上ノ創業ノ半ケ年間ノ商金高等）遊藝稼人ノ税金ハ前一ケ年間ノ商金高等調ニ由リ次半期ノ課稅トス
 二 依リ帶間藝妓ハ前半ケ年間ノ收得金高其他ハ該年度又ハ該日ノ調ニ依リ課稅スルモノトス
 第二 一戸内ニテ商業工業或ハ料理屋ヲ兼ヌルノ類等各個ニ課稅スヘシ
 但家族ノ内戸主ト業ヲ異ニシ各名ヲ以テ營業ヲ爲スモノハ各別ニ課稅スヘシ
 第三 貳人以上資金ヲ併セ結社ニテ營業ヲナスモノハ其會社ニ課稅スヘシ
 第四 分社分店出張所ヲ設ケ營業ヲナスモノハ各別ニ課稅スヘシ
 第五 商業ノ内賣藥營業者並賣藥請賣者ト雖モ自ラ行商スルルルハ別ニ行商稅ヲ課スヘシ
 但營業者等ニシテ數名ノ賣子ヲ出スモノハ賣子ノ數ニ應シ其雇主ニ課稅スヘシ
 第六 商業ヲ專ラトシ工業ヲ兼テ營ミ資金及收入金ノ區分ヲ爲ス能ハサルモノハ商業ト爲シ課稅スヘシ
 第七 商金等ニ因リ分賦課稅スル商業ニシテ若シ休業或ハ無商收得ノモノ有之時ハ該稅區最下等ノ稅ヲ課スヘシ
 第八 工業者ニシテ店舗ヲ開キ自家製造ノ物品ヲ羅列販賣スルモノハ工業稅ノ外別ニ商業稅ヲ課スヘシ
 第九 遊藝師匠ニシテ遊藝稼ヲ兼ヌル者ハ各別ニ課稅セシ其重キニ據リ課稅スヘシ
 第十 藝妓ニシテ遊藝師匠ヲ兼ヌル者ハ藝妓稅ニ據リ課稅スヘシ
 一 課稅ノ限リニ非サルモノ左ノ如シ
 第一 店舗ヲ開カス自己ノ農產物及水產物ヲ賣却スル者
 第二 飲食店ノ内行商 蕎麥屋 餅
 第三 諸興行ノ内祭典法會等ノ際奉納ト唱ヘ興行ヲナシ木戸錢ヲ請求セズ或ハ路傍ニ立テ演技スル角兵衛獅子居合拔祭文讀ノ如キ者
 一 創廢業課稅區分
 第一 年額ヲ以定ムル營業ノ創廢ハ上下半年 七月ヨリ十二月マテテ上半年トシ十一月ヨリ六月マテテ下半年トス

一四營

第一 年額ヲ以定ムル營業ノ創廢ハ上下半年 七月ヨリ十二月マテテ上半年トシ十一月ヨリ六月マテテ下半年トス

營業

四百四十

第二 區分シ創業ノ半期ハ稅ヲ課セス廢業ノ半期ハ稅ヲ課スヘシ
 賣藥請賣賣藥行商傭人請宿遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優遊藝場船車水車乘馬
 ノ營業ハ創廢トモ上下半年上下ノ區分ナテ區分シ各創廢業ノ半年稅トモ
 課稅スヘシ

第三 但創業ハ戶長役場ヨリ鑑札等下附ノ日 戶長役場ヨリ時々郡
 區役所へ届出ヘシ
 稅シ且遊藝稼人創業ノ半期ハ總テ下等ノ稅ヲ課スヘシ
 幫問藝妓ハ創廢業トモ其月十五日前后ノ區分ナテ課稅スヘシ

○甲五十一番 五月廿六日附
 但創業ハ戶長役場ヨリ鑑札下附ノ日 戶長役場ヨリ時々郡
 區役所へ届出ヘシ
 斯ヘシ幫問藝妓創業ノ月ハ都テ下等稅ヲ課スヘシ

地方稅之内營業稅雜稅規則別冊之通更正候條此旨布達候事
 但本年七月一日ヨリ施行ス
 (別冊)

營業稅雜稅規則
 第一條 各營業者ハ營業稅雜稅課目課額及此規則ヲ遵守スヘシ
 但シ取締規則アルモノハ其規則ニ從フヘシ

第二條 無標札并ニ無鑑札ニテ營業ヲ爲シ或ハ鑑札等ノ貸借ヲ爲ス可ラス

第三條

縣廳ノ許可ヲ要スル營業 會社 藥舖 藥肆商 市場
 水車 陸運人馬繼立
 長役場ヲ經テ郡區役所へ申出スヘシ

第四條

前條掲クル所 賣藥請賣賣藥行商ノ創廢手續十四ノ外各營業ハ左ノ書式ニ準據シ戶長役場
 年本縣甲百八番布達ニヨルヘシ
 外各營業ハ左ノ書式ニ準據シ戶長役場
 ヲ經テ郡區役所へ申出スヘシ且別段ノ取締規則ニヨリ許可ヲ受ケタルモノト雖モ營業届
 出方ハ該書式ニ準スヘシ
 但シ用紙ハ戶長役場ニ於テ二葉受取ルヘシ

書式 用紙ハ中折
 紙六ツ切

營業

四百四十二

營業 標札檢印 願或ハ品目増減届ト歟		明治何年何月何日
何業 但何々卸 小賣トカ	戶長役 場印	何郡區何町何番地
書換 事故		族籍 何ノ誰印

四四營

但シ書ヲ要スル兼假令ハ商業ハ(但シ吳服)トカ工業ハ(但シ製絲)トカ記載スルノ類遊
藝師匠ノ類ハ其藝名ヲ記載スヘシ

第五條

改姓名代替等ニ據ル鑑札又ハ標札ニ異動ヲ生スルキハ創業ニ準シ申出スヘシ且他郡區町
村へ移轉スルモノハ其旨戸長役場へ届出ツヘシ

第六條

各營業行商出者ハ左ノ雛形ノ標札ヲ作り戸長役場ノ捺印ヲ受ケ店頭ニ掲クヘシ
但シ數業ヲ兼テ營ムモノ、標札ハ各業目ニ就キ作ルモ又ハ一標札ニ併記スルモ妨ケナ

標札

□戸長役場捺印

豎三尺

□何等何業

姓名或ハ社名等

雛形

横八寸

何業トハ其業目 商業 工業 料理屋 湯屋ノルイ ヲ記載ス且開業ノ際等級未定ノモノハ次期ニ至リ
之ヲ記入シ且商業ハ等級記載ニ及ハス

第七條

遊藝稼人、相撲、俳優、辯問、及ヒ乘馬其他各營業ノ行商ハ渾テ戸長役場ニ申出鑑札ヲ受ク
ヘシ

第八條

本火災盜難等ニテ鑑札又ハ標札ヲ毀損若クハ失却スルトハ其事由ヲ詳記シ更ニ第六條第
七條ノ手續ニ因ルヘシ

第九條

廢業ヲ爲スモノハ第四條ノ手續ニ準シ左ノ書式ニ據リ鑑札相添届出ツヘシ且標札ハ最初
其捺印ヲ受ケタル戸長役場へ申出捺印ヲ乞フヘシ

書式 用紙ハ中折
紙六ツ切

明治何年何月何日	廢業届
何	何郡區何町何番地
何業	族籍
何	何ノ誰印
等	
但何々	

第十條

他府縣ヨリ來テ營業スルモノハ保証人ヲ立テ營業ノ義第四條ノ手續ニ據リ申出スヘシ
但シ行商ノ類或ハ備使セラルモノハ此限ニ非ラス

第十一條

税金ハ左ノ上納期限ニ據リ戸長役場へ納入スヘシ
第一 年額ヲ以テ定メタルモノ、税金上半年分ハ其年八月三十一日限り下半年分ハ翌

五四營

六四營

年二月二十八日限リトス

第二 賣藥請賣、賣藥行商、傭人請宿、遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、遊技場、船車、水車、乘馬、ノ税金上半年期創業ノ分ハ翌年一月十日限リ下半年期創業ノ分ハ七月五日限リトス

第三 辨問、藝妓、ノ月税ハ毎月二十五日 二十五日以後ノ創業ハ限リトス 翌月五日一月ハ十日

第四 市場等ノ日々上リ高ニ據リ税額ヲ定メタルモノ、税金ハ一ヶ月分取經メ翌月五日一月ハ限リトス

第五 屠畜税ハ一ヶ月分取經メ翌月五日一月ハ限リトス

第六 他府縣ヨリ來テ營業ヲナスモノ、税金若シ納期前ニ退去ノ片ハ期限ニ拘ハラズ納入スヘシ

第七 行商其他出稼ノ者旅行スル片ハ留守引受ノ者ヲ立テ連署ヲ以テ戸長役場へ届出其引受ノ者ヨリ納税スヘシ

第十二條
各營業者ノ組合ヲ定ムル手續左ノ如シ
但賣藥請賣、賣藥行商、遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、辨問、藝妓、演劇、興行、遊覽所、遊技場、入寄席、船車、水車、乘馬、屠畜、ハ此限ニアラス

第一 同業組合ヲ設クルハ各郡區内所轄戸長へ協議ノ上最寄町村營業者ノ便宜ヲ計リ適宜ニ之ヲ定メ郡區役所へ届出ヘシ且都合ニヨリ數種ノ營業相結合スルモ妨ケナシ

第二 毎組總代ヲ設クヘシ其任期及ヒ給料等ハ營業者ノ協議ニ任ス且惣代選定ノ上ハ

七四營

各營業商金等調査法左ノ如シ

第一 年額ヲ以テ定メタルモノハ其年一月一日現在ノ各營業者ハ前一ヶ年一月ヨリ商金高等詳細ニ書認メ總代ノ捺印ヲ受一月十日限リ戸長役場へ差出スヘシ
但前條ノ但書ニ記載スル營業者ハ直ニ戸長役場へ差出スヘシ

第二 商金高等ヲ以テ年額ヲ定メタルモノ前年二月以後ノ開業ニシテ一ヶ年ニ滿タザル者ハ其現ニ營業セシ月數ノ金高ニヨリ一ヶ年分ヲ算定スルモノトス

第三 水車ノ内一ヶ年間ニ全ク使用セサル月アルモノハ其使用セサル月數ヲ記載シ戸長役場へ差出スヘシ

第四 一月ヨリ六月マテノ創業者ハ第一項ノ手續ニ準シ商金高等詳細 其年七月五日 七月ヨリ十二月マテノ創業者ハ第一項ノ手續ニ準シ商金高等詳細 限リ翌年一月十日 戸長役場へ差出スヘシ

第五 凡ソ物品ヲ買入スルニ其原資他ヨリ仕入レタルモノノ利益金トナ合セ代價ヲ付シ販賣スルモノハ其金高ヲ商金高トス

第六 凡物品金錢ヲ貸付シ其損料并利子金ヲ取受ケルモノ及ヒ理髮人ノ理髮料ヲ取受

其人名任期トモ戸長役場へ届出スヘシ
總代ハ各營業者ヨリ書出シタル營業金高等ヲ觀察シ適當ト認ル片ハ捺印ヲ捺スヘシ若シ不適當ト認ル片ハ捺印ヲ捺サスシテ其理由ヲ該營業者管理戸長へ報告スヘシ

第十四條
各營業創廢其他改姓名等異動ノ節ハ都テ當人ヨリ其組總代へ報告スヘシ

營業

- 第七 商業ノ種類ニ因リ利益ノ内支拂フヘキモノノ給料及社用雜費ノ類
但金融營業ニシテ預リ金ヘ對シ支拂フヘキ利子金ハ取得高ノ内ヨリ除却スルモノトス
- 第八 請負營業ハ其材料并ニ工夫ノ雇料ヲ除キ其他ノ金額ヲ以テ取得金トス
- 第九 工業ハ多少資金ヲ以テ物品ヲ製造シ卸賣スルモノハ其製品代價ヲ以テ收入金トス且資金ヲ要セス備使ニ從事シ或ハ他ノ依頼ヲ受物品ヲ製造シ或ハ工器ヲ携帶出業スルモノハ其受クル處ノ賃料ヲ收入金トス
- 第十 商金高等ノ調査ハ該年度中現ニ受取タル金高ニ依リ調査シ賣掛等ニテ代金取請サルモノハ後日請取タル年度ノ調査ニ組込ムヘシ
- 第十一 陸運并ニ人馬繼立營業ハ收入金ノ内人馬ノ賃料ヲ除キ取得高トス
- 第十二 湯銭ハ現ニ浴客ヨリ受取リタル湯銭ノ高ヲ調査スルモノトス
- 第十三 期間藝妓ハ半期間ノ取得金高ヲ詳記一ケ年兩度 七月五日 一月十日 二 戸長役場ヘ差出ス
但創業ノ月ハ翌月五日限リトス若シ營業一ケ月ニ滿タサルモノハ現ニ營業セシ日數ノ金高ニ依リ一ケ月分算出スヘシ
- 第十四 藝妓期間并遊藝稼入ハ渾テ容ヨリ得タル額頭 通常花代 金高ヲ取得金トス并投花共
- 第十五 市場演劇興行遊覽所人寄席ノ上リ高ハ開場主或ハ店主ニ於テ日々記載シ翌月五日一月ハ限リ市場ハ其組織代 戸長役場ヘ届出ヘシ

第十四條

此規則ニ違犯シタルモノハ違警罪ノ處分ヲ受クヘシ

○甲五十三番 五月廿八日附

十七年度地方稅收支豫算書(租稅ノ部ヲ參觀スヘシ)

○甲五十七番 五月廿九日附

醫師規則左ノ通制定シ本年七月一日ヨリ施行ス

但明治十三年乙五十九番布達同十五年甲二十八番布達同十六年甲四十三番布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

右布達候事

醫師規則

- 第一條 醫師ハ明治十六年十月第三拾五號布告醫師免許規則ノ外尙此規則ヲ遵守スヘシ
- 第二條 患者ヲ診斷治療スルニハ患者經過録ヲ製シ置第一號書式ニ照準遺漏ナク登錄シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ
- 第三條 患者ニ處方箋ヲ付與スルトキハ其處方分量等記載方ハ第二號書式ニ照準調製スヘシ
- 第四條 治療患者死亡セントキハ速ニ診案ヲ送ケ明治十七年五月甲五十六番布達出產婚姻死亡届規則第三號書式ニ據リ該家人ト共ニ届方ノ手續ヲナスヘシ但該届書式中病類病名ハ醫師ニ於テ第四號病類細目要領ニ據リ記載シ若シ病類病名不明ナルトキハ死ニ至ルノ症候經過等探知シ得ル所ヲ記載スヘシ

營業

五營

第五條 醫師ノ治療ヲ受ケヌシテ死亡シタル者アルトキ其理由ヲ以テ診按ヲ請フ者アレハ速ニ該家ニ就キ親シク診按ノ上該家人ト共ニ届方ノ手續ヲナスヘシ但變死ニ係ルモノハ其檢按ヲナシタル醫師ニ於テ該家人ト共ニ尋常死亡届方ノ手續ヲナスヘシ

第六條 總テ死亡者ヲ診按スルニ或ハ變死ト認メ又ハ其疑訝アルトキハ直チニ其筋官吏ヘ届出指揮ヲ受クヘシ

第七條 數人ノ醫師ニテ治療セシ患者死亡スルキハ其責任ノ醫師ニ於テ該家人ト共ニ届方ノ手續ヲナスヘシ

第八條 傳染病患者ヲ診斷治療スルモノハ明治十三年七月第三十四號布告傳染病豫防規則第二條並ニ明治十四年十月甲百七十二番布達ニ據リ通知方ハ第三號書式ニ據ルヘシ

但本文通知ノ外死亡ノ節ハ別ニ該家人ト共ニ尋常届方ノ手續ヲナスヘシ

第九條 中毒者ヲ診斷治療スルトキハ其毒物ノ品名及中毒ノ症候並患者ノ住所氏名年齢職業及治療法トモ記載シ速ニ届出ヘシ其毒物ノ品質判然セザルトキハ現品取添差出スヘシ尤其死ニ至ラサルモノハ重テ轉届出ヘシ但年齢職業ノ記載ハ第三號傳染病患者通知書式解釋ニ據ルヘシ

第十條 病家ノ望ニ依リ醫師ヲ交換スルトキ前醫ハ必ス其發病ヨリノ症候經過日數及治療法詳細後醫ニ傳フヘシ

第十一條 風土病特異病ヲ考察シ其他衛生上ニ關シ除害改良等ノ意見アルトキハ本縣衛生課ヘ申告スヘシ

第十二條 醫術開業免狀ヲ所持ノ者他府縣ヨリ轉籍寄留開業セントスルトキハ免狀寫並履歷書取添届出ヘシ他府縣ヘ轉籍寄留開業セントスルトキハ其旨届出ヘシ

第壹號書式

一五營

患者姓名	病名	年齢	職業	住明 族籍	經過		治療			
					發病 月何日	初診 何月何日	全治 何月何日	未治 何月何日	轉醫 何月何日	死亡 何月何日
					全					
					全					

解釋

一 經過録ハ治療スル患者ヲ登記シ診察ノミニテ投藥施術セサル者ハ記入スルニ及ハサルモノトス

一 症候ハ總テ原因ヨリ急性慢性單一症複雜症原發繼發等ノ諸症候ヲ記載スルモノトス

一 經過ハ發病初診全治未治轉醫死亡ノ年月日ヲ記入スルモノトス

一 治療法ハ何月何日何藥劑ヲ内服用セシメ何手術ヲ施シ何月何日更ニ何藥劑ニ轉方スル等ヲ記載スルモノトス

第二號書式

處方箋

三五營

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留) (士族平民)又ハ何某父母兄弟姊妹妻子等)		何	何年何ヶ月
藥名	何々	分量	何
用法云々	何々	何程	何
何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)族籍 醫師 何		某印	

第三號書式用紙中折系紙

傳染病患者(全治)(死亡)通知

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

(士族平民)又ハ何某父母兄弟姊妹等)

何病

職業

年齡

何月何日午前(後)何時診斷或ハ何月何日(全治)(死亡)

何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)族籍

何 某

何年何月何日

解釋

醫師

何

某印

一 職業ハ總テ本人執ル處ノ現業ヲ明記シ例ヘハ農ニシテ自ラ勞役セサル者ハ(農主)ト自ラ耕作スル者ハ(農夫)ト記シ又婦女老幼等ニシテ職業ナキ者ハ戶主何職業無職家族ト記スヘシ商工ハ單ニ商或ハ工ト記セスシテ何商何職工ト明記スヘシ若シ二業以上ヲ營ム者ハ其主ナル職業ヲ記スヘシ

一年齡ハ總テ何年幾月ト記シ若シ年齡詳カナラサル者ハ其大略ヲ記スヘシ
 第四號病類細目要領

- (第一類) 傳染性病
- (一) 腸室扶私
- (二) 發疹室扶私
- (三) 赤痢
- (四) 亞細亞虎列刺
- (五) 寶布的里 格魯布 義膜炎
- (六) 痘瘡 (變痘 水痘)
- (七) 麻疹
- (八) 猩紅熱
- (九) 脚氣
- (十) 間歇熱
- (十一) 羅斯
- (十二) 膿毒症 敗血症

三五營

營業

四五營

- (十三) 病院脱疽
- (十四) 百日咳
- (十五) 產毒熱
- (十六) 流行性耳下腺炎 惡性唾腺炎
- (十七) 流行性腦脊髓膜炎
- (十八) 急性關節僂麻質私 急性レウマチス
- (十九) 花柳病 淋病 梅毒 便毒 下疳
- (二十) 動物性病 恐水病、炭疽熱、馬鼻疽、其他傳染性疾患
- (第二類) 發育及營養病
 - (發育的疾患 體質的疾患)
 - (廿一) 初生兒ノ生活薄弱 産兒窒息
 - (廿二) 遺構誤常 畸形産
 - (廿三) 齒牙病 生齒ニ因スル諸病
 - (廿四) 腺病
 - (廿五) 佝僂病
 - (廿六) 小兒營養消耗症
 - (廿七) 癩病
 - (廿八) 全身水腫

五五營

- (廿九) 糖尿病(密尿) 尿管(無味尿)
- (三十) 脱疽
- (三十一) 癩及腫瘍
- (三十二) 營養消耗
- (三十三) 矢荷兒倍偏
- (三十四) 貧血
- (三十五) 白血病
- (三十六) 甲狀腺腫
- (三十七) 紫斑病 (ウエルホフホー氏發斑病)
- (三十八) アヨソン氏病 (銅色病)
- (第三類) 其他營養及發育ノ障害
 - (三十九) 皮膚及筋肉病
 - (四十) 皮下結締組織病 筋肉炎 水脈炎
 - (四十一) 初生兒ノ結締組織硬化症
 - (四十二) 臍諸患
 - (四十三) 漸進性筋肉萎縮
 - 其他ノ皮膚及皮下結締組織ノ疾患
- (第四類) 骨及關節病
 - (四十四) 骨炎 骨膜炎 骨髓炎 骨瘍

エカ
ス

營業

(四十五)

骨疽子シロ 關節膿瘍 骨折
骨軟化
其化骨及關節ノ疾患

(第五類) 血行器病

(四十六) 心囊炎 心嚢水腫ヲ含ム
(四十七) 心臟肥大 心臟膨大
(四十八) 瓣膜病
(四十九) 心臟破裂
(五十) 心臟麻痺 心臟脂化
(五十一) 動脈疾患
(五十二) 靜脈疾患
其他血行器ノ疾患

(第六類) 神經系統及五官器病

(五十三) 腦膜炎
(五十四) 腦水腫
(五十五) 腦炎
(五十六) 卒中
(五十七) 腦麻痺 腦貧血 腦充血
(五十八) 精神病 癲狂
(五十九) 脊髓炎 脊髓膜炎
(六十) 脊髓勞

營業

(六十一) 脊髓麻痺 脊髓軟化ヲ含ム
(六十二) 子癇
(六十三) 癲癇 舞蹈病

(六十四) 破傷風 牙關緊急
(六十五) 其他ノ痙攣搐搦 驚痛
其他神經病ヲ含ム

(六十六) 耳病
(六十七) 眼病

(第七類) 呼吸器病

(六十八) 喉頭炎
(六十九) 喉頭氣管支炎
(七十) 急性氣管支炎 毛樣氣管支炎
(七十一) 慢性氣管支炎
(七十二) 肺炎
(七十三) 肺勞 肺結核
(七十四) 咯血
(七十五) 肺氣腫 喘息
(七十六) 肺壞疽
(七十七) 肺麻痺 肺水腫
(七十八) 胸膜炎 胸水ヲ含ム
其他呼吸器ノ疾患

- (第八類) 消化器病
- (七十九) 口舌疾患
- (八十) 耳下腺疾患
- (八十一) 胃管疾患
- (八十二) 下腹炎 腹膜炎 下腹膿腫 骨盤膿腫
- (八十三) 腹水
- (八十四) 膀胱
- (八十五) 腸管壅塞
- (八十六) 胃加苔兒
- (八十七) 胃潰瘍
- (八十八) 胃狹窄
- (八十九) 吐血
- (九十) 腸出血
- (九十一) 腸破裂
- (九十二) 下利 腸加苔兒
- (九十三) 吐瀉病即霍亂
- (九十四) 胃腸炎
- (九十五) 痲痛
- (九十六) 腸勞
- (九十七) 腸間膜勞
- (九十八) 瘰癧疾患
- (九十九) 膽石病

- (百一) 黃疸
- (百二) 肝臟炎
- (百三) 急性肝臟消耗症
- (百四) 慢性肝臟消耗症
- (第九類) 泌尿生殖器病
- (百四) 尿道及膀胱炎
- (百五) 其他ノ膀胱炎疾患及男子生殖器ノ諸患ヲ含ム
- (百六) 尿管
- (百七) 腎臟諸病
- (百八) 女子生殖器病
- (百九) 子宮外妊娠
- (百十) 流產
- (百十一) 子宮破裂
- (百十二) 妊娠及分娩ノ乳房膿腫ヲ含ム
- (百十三) 子宮ノ疾患
- (百十四) 卵巢諸患
- (第十類) 外襲性變化
- (百十五) 火傷 凍傷 日射病 電擊 爆發 壓死及誤死
- (百十六) 怪我 打撲 刺創 切創 咬創
- (百十七) 手術出血 窒息 縊死 絞殺 溺死 自殺

〇六營

(第十一類) 中毒病
 (百十六) 動物性及植物性毒
 (百十七) 礦物性毒
 (百十八) 毒性瓦斯
 (百十九) 亞爾簡保兒中毒

一 此類別中其他ノ疾患云々ト記載セシハ該類別中ニ列舉スヘキ各病名ヲ省略セシ者ナルカ故ニ病名ヲ増加スルコトヲ妨ナシ

一 病名ヲ増加セシ爲メ若シ類別中何レニ挿入スヘキカヲ確定シ難キモノアルトキハ該欄内ヘ其事由ヲ附記スル事ヲ要ス

〇甲六十二番 六月九日附
 酒造營業取締規則別冊之通相定候條此旨布達候事
 但從前之酒造營業人心得書ハ廢止ス
 (別冊)

酒造營業取締規則
 第一章 營業免許

第一條 酒造稅則ヲ遵守シ該營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ倣ヒ所轄郡區役所ニ出願スヘシ

第二條 酒造場ハ倉庫ノ棟數ト製酒之種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一ヶ所トシ免許鑑札ヲ願受ヘシ

第三條 營業者ノ族籍住所ト酒造場ト兩郡區ニ交渉スルモノハ酒造場所在ノ郡區役所ニ出願スヘシ

一六營

第四條 免許鑑札ハ其年一期 其年十月一日ヨリ有效ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フ者ハ第二號書式ノ願書ニ最初授與シタル鑑札ヲ添ヘ九月三十日限出願シ其鑑札ニ免許ノ證印ヲ受ツヘシ

第五條 免許鑑札買賣讓與ノ爲メ書換ヲ請フハ第三號書式ニ倣ヒ出願スヘシ
 但書換方甲乙兩郡區ニ交渉スルハ双方(本人並月)運署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲郡區役所賣渡讓渡人元酒造場所在ノ郡區役所ニ出願シ添翰ヲ受ケ乙郡區役所買請讓受人酒造場ト差出シ鑑札書換ヲ請フヘシ

第六條 酒造場轉換等ノ爲メ鑑札書換方兩郡區ニ交渉スルモノ並ニ他府縣ニ交渉スルモノモ前條但書ニ準スヘシ

第七條 酒造免許ヲ受タルモノハ該一期造酒見込ノ種目 清酒濁酒燒酎白酒味淋酌酒ヲ區別ス但シ酌酒ハ直シ酒保命酒桑酒養老酒菊酒紫蘇酒あられ酒南石數并其造方法共第四五號書式ニ倣ヒ晚クトモ三日以内届出スヘシ且最初一種類ノミ届出後他ノ種類ヲ製造スルトキハ其時々届出ヘシ

第八條 酒造ニ屬スル倉庫納屋穴藏等一區域内ニアルモノハ詳細繪圖面ニ製シ且ツ諸器械ハ第七號書式ニ倣ヒ届出ヘシ
 但増減及變換アルハ其時々調書及繪圖面ヲ製シ更ニ届出ヘシ

第九條 稅則第二十八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ第八號離形ニ倣ヒ調製シ見易キ所ニ掲ケ置ヘシ

營業

但石數ハ最初届出ノ見込高ヲ掲記シ増減アルトハ其時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更訂スヘシ
 第十條 造石稅免除ノ酒類ト雖モ其造リ方法並ニ剪製造見込ノ種目石數ヲ届出猶増減アルモノハ其時々之ヲ届出其皆造ノ石數ハ翌期十月五日迄届出ヘシ
 第十一條 廢業ノ者ハ第九號書式ノ届書ヲ以免許鑑札還納スヘシ

第二章 器械検査
 第十二條 桶瓶ハ左ノ方法ニ據リ容量取調第十號書式ニ倣ヒ検査出願スヘシ

酒造桶類丈量法

口徑 口頭ヨリ一寸
 口徑 下リタル箇所 胴徑 ノ中央底徑ノ箇所ハ孰レモ内測ヨリテ縱横圖ノ如ク度リ此縱

横徑ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前 香栓等適後 孰レモ底ヨリ
 口徑迄ノ間ヲ丈量シ此前後ノ尺鹿ヲ和シ之ヲ二ニテ除キ以テ定ム

但尺鹿ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ
 口胴底ノ三徑ヲ各個自乘シ此三個ヲ和シ之レヲ三ニテ除キ以テ實トス之ニ深ヲ乘シ又

圓積率(七八五四)ヲ乘シ而シテ升法(二六四八二七)ヲ以テ除キ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

瓶類容量法
 總テ桶類ニ準之ヲ定ムヘシト雖モ便宜適實ノ法ヲ設ケ則左ノ如ク容量ヲ査定スヘシ



寸尺ハ朱點ノ箇所ヲ量ルモノトス
 丈量杖木

何斗	何升	何升	何升	何升	何升	何合
----	----	----	----	----	----	----

寸尺ノ目ハ適宜
 丈量ハ水ヲ以テ計リ其容量ヲ査定スルモノトス
 但口頭ヨリ底迄ヲ量ルモノトス

第十三條 検査濟ノ酒桶ニハ其側面ハ検査員ニテ左ノ件々ヲ記載シ瓶類ニハ木札ヲ附シ之ニ番號石數等ヲ記載シ檢印ヲ烙記スヘキモノトス故ニ瓶類ニ用ユル木札尺杖ハ營業者ニ於テ適宜調製シ置ヘシ

酒桶側面書式

番號	何程
口徑	何程
胴徑	何程
底徑	何程
深サ	何程
石數	何程
年月日	
官氏名	

第十四條 桶瓶類ノ番號ハ倉庫ノ數ト酒類ノ種別トニ拘ハラズ總テ酒造場一ヶ所毎ニ起號シ桶瓶類ノ總數ニ應シテ其順次ヲ定ルモノトス
 第十五條 粕桶水桶米浸シ桶試桶擔桶半切桶ノ類ニシテ常ニ酒類ヲ入レサルモノハ丈量

營業

營業

検査ヲ受ルニ及ハスト雖モ番號前條桶瓶類ノヲ記載シ之ニ烙印ヲ受ヘシ
 第十六條 検査簿ノ桶類ハ第十一號雛形ノ如キ調査簿甲乙二帳ヲ製シ新規輪替等届出ノ
 節検査員之ニ詳記シ見認印ヲ捺スヘシ故ニ營業者ハ其都度之レニ調印スヘシ
 但甲帳ハ検査員之ニテ携帶シ乙帳ハ營業者ヘ下附スルモノトス
 第十七條 検査簿ノ諸器械ヲ賣買讓與貸與及ヒ所持主ニ返却セントスルハ第十二號書
 式ニ倣ヒ双方連署ノ書面ヲ以届出帳簿ノ訂正等ヲ受ケタル後之ヲ授受スヘシ
 但同業者ニ非ラサル者ハ賣渡スカ又ハ破解スルハ烙印削除等検査員ノ指揮ヲ受ヘ
 且甲乙兩郡區ニ交渉スルモノハ第六條ニ準シ検査員派出所ニ届出ヘシ
 第十八條 造酒搾リ器械ハ酒槽ノ樋口并男柱ノ孔蒸溜器械ハ兜釜等ニ封緘ヲ爲シ常ニ用
 エルヲ許サス故ニ使用或ハ洗滌セントスルハ第十三號書式ニ倣ヒ着手十日以前出願
 開封ヲ請ヘシ
 但使用等ヲ了シタルハ其旨届出ヘシ
 第十九條 封緘請書ハ第十四號雛形ノ如ク調製シ酒造検査員ヨリ下附スルヲ以封緘并ニ
 開披ヲ受ケル年月日及ヒ使用等ヲ詳シタル日數ヲ記入調印シ検査員ヘ差出ヘシ
 第四章 造石検査
 第二十條 造酒検査ニ係ル願届其他酒造ニ屬スル建物並諸器械増減等届書トモ検査員派
 出所ヘ差出ヘシ
 第二十一條 酒もど立ノ節ハ第十五號書式ニ倣ヒ釀造着手十日前検査方出願スヘシ
 但釀ハ槽入前本文ニ準シ出願スヘシ
 第二十二條 膠ハ仕込ノ分界ヲ爲シ其分界毎ニ搾リ揚ケ製酒ノ検査ヲ受ヘシ若シ分界シ
 難キ理由アルハ検査員ヘ申出指揮ヲ受ヘシ

營業

第二十三條 製酒検査ノ節石數取調帳ヲ製シ検査員ヨリ下付スヘキニ付第十六號書式ニ
 倣ヒ記入ノ上差出ヘシ
 第二十四條 造石検査ヲ受ケヘキ酒桶ハ桶口頭ヨリ一寸ヲ減シ側面記載ノ石數ヲ入置ヘ
 第二十五條 造石検査簿ハ第十七號書式ノ如ク酒造場毎ニ甲乙二帳ヲ製シもど釀製酒等
 検査ノ節検査員之ニ詳記シ見認印ヲ捺スヘシ故ニ營業者ハ其都度之ニ調印スヘシ
 但甲帳ハ検査員之ニテ携帶シ乙帳ハ營業者ヘ下付スルモノトス
 第二十六條 古酒并買入酒ト雖モ臨時点檢スヘシ故ニ當季製造ノ酒類ト判然區分ヲ立置
 ヘシ且買入酒ハ其石數及ヒ代價等ヲ詳記シタル仕切書又ハ送り狀等ヲ取置キ検査ヲ請
 但検査簿ノ新酒ト雖モ古酒及ヒ買入酒ヲ混和セントスルハ其都度届出検査ヲ受ケ
 第二十七條 検査既済未済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製セントスルハ更ニ變製酒ノ種目石
 數及ヒ其製造方法等詳記シタル書面ヲ以テ届出且變製セントスル酒類ハ前以テ検査ヲ
 受ケ製成ノ上再検査ヲ受ヘシ
 但非常ノ損害ニ罹リタル酒類并釀其他ノ酒類ニ變製セントスルハ本條ノ手續ニ據
 第二十八條 検査済之酒類及ヒ買入酒等ヲ粕漉ニスルハ其時々前以テ届出検査ヲ受ケ
 搾リ揚ケノ上ハ再検査ヲ受ヘシ
 但粕漉ニ依リ増石ノ分ハ造石稅ヲ納ムヘシ
 第二十九條 酒類ノ火入滓引等ハ造石検査ノ後之ヲ爲スヘシ
 第三十條 酒粕ハ検査以前ニ販賣スヘカラス

ヲ受ケ其石數ニ應シ稅則第二條ノ類別ニ據リ第三條ノ造石稅ヲ納ムヘシ

第四十七條 免許鑑札賣買讓與シ又ハ廢業ノ節未製成ノ酒類酒もトヲ營業者ニ賣渡スルハ双方運署ノ書面ヲ以届出檢査ヲ受ケ猶製成ノ上ハ再檢査ヲ受ケ該酒類ノ石數ニ應シ納稅スヘシ其營業者ニ非サル者ニ賣渡スルハ其酒類ニ係ル造石稅ヲ其節完納スヘシ

第四十八條 白酒味淋銘酒等ノ釀造元ニ用ユル爲メ釀造及ヒ蒸溜スル酒類ハ免稅タリト雖モ其儘販賣セントスルモノハ更ニ檢査ヲ受ケ該酒類ニ係ル造石稅ヲ納ムヘシ

第四十九條 未製成ノ酒類官ニ於テ公賣シタルト拂受タルモノハ都テ稅則ニ從ヒ檢査ヲ受ケ造石稅ヲ納ムヘシ

第八章 雜件

第五十條 酒造場一區域内ニ於テハ其親族並ニ同居人タリト雖モ酢及酒もトヲ販賣スルヲ得ス

第五十一條 營業人ハ每郡區ニ營業人ノ協議ヲ以其任ニ堪ユヘキ同業ノ者一名ヲ總代ニ撰ミ組合ヲ設ケ副惣代官私ニ對シ營業上ノ便宜ヲ計ラシムヘシ且惣代ノ事務ニ關スル諸入費ハ總テ同營業者ニテ支辨スヘシ

但住所氏名勘合印鑑本廳收稅課及檢査員派出所郡區役所ニ届出ヘシ

第五十二條 營業者ノ住所氏名ヲ記載シ實印ヲ捺シタル名簿ヲ製シ惣代ノ手許ニ備置且新規營業又ハ鑑札賣買讓渡願及ヒ廢業届ニ限總代ノ者連署スヘシ

第七章 處罰

第五十三條 此規則中第二十一條第二十二條第二十六條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十七條第三十八條第一項ニ違背シタルモノハ違

警罪ノ處分ヲ受ヘシ

第一號

酒造營業願

一酒造免許鑑札

(酒造場一區域内ニ地番號ニケ所以) 上アルキハ其番地ヲ記入スヘシ

但酒造場何國何郡區何町村何番地

右ハ今般酒造營業仕度候ニ付鑑札御下渡被下度尤稅金上納ノ義ハ勿論御規則上堅相守可申候依之同業者連署此段奉願候也

何國何郡區何町村何番地

願入

年月日

酒造營業ノ者

氏名印

氏名印 氏名印 氏名印 氏名印 氏名印 氏名印 氏名印

第二號

石川縣郡區長宛

酒造營業引續願

營業

〇七營

一酒造免許鑑札

壹葉

右ハ明治何年一期御免許相請候處今般引續營業仕度依之鑑札相添此段奉願候也

年月日

何國何郡區何町村何番地

戶長 氏名

印

第三號

石川縣郡區長宛

酒造免許鑑札賣買(讓與)ニ付書換願

何國何郡區何町村何番地

賣主 氏名

印

何國何郡區何町村何番地

買主 氏名

印

右ハ今般示談之上氏名ニ賣渡(或ハ讓與)致シ候間鑑札御書換被下度依之最前御下與之鑑札相添連署ヲ以奉願候也

年月日

右 氏名

印

惣代 氏名

印

戶長 氏名

印

第四號

石川縣郡區長宛

清酒造リ方法御届

白米

一元米何斗
此麴米何斗

元立ノ日ヨリ凡何日目ニテ掛添

一掛添米何斗

掛添ノ日ヨリ凡何日目ニテ中掛

此麴米何斗

一中掛添米何斗

中掛ノ日ヨリ凡何日目ニテ掛仕舞

水何斗

一掛仕舞米何斗

掛仕舞ヨリ凡何日目ニテ釀成

此麴米何斗

水何斗

掛米合何石何斗

麴米合何石何斗

水合何石何斗

醪何石何斗

此清酒何拾石

肉垂

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

一七營

營業

(釀造方ヲ異ニスル者ハ其法毎別ニ甲乙丙ト順次記載シ尤初項ヲ甲トシ列記スヘシ)

右清酒一酛造リ方法御届申上候以上

營業

第八號

一、三寸法堅巾曲尺三尺橫巾製酒種類ノ數ニ依リ適宜定ムヘシ
免許鑑札ノ番號

第何號

清酒 何石造
白酒 何石造

石川縣何郡區何町村何番地

名

第九號

酒造營業廢止届

一酒造免許鑑札

右營業罷在候處今般廢業候ニ付鑑札還納此段御届申上候也

何國何郡區何町村何番地

年月日

惣代

氏名

印

戶長

氏名

印

氏名

印

第十號

石川縣郡區長宛

四百七十四

七七營

營業

郡區役所押切印

酒桶瓶類容量調査簿

第十一號

調査簿甲乙ト押切ルモノトス

石川縣令宛

(輪替之節ハ第何號桶輪替ニ付云々ト記載スヘシ且丈量檢査ヲ受ケザル桶類
ハ該桶ノ名目ヲ一打ニ記載スヘシ)

酒桶新調ニ付御檢査願

口徑 何程
胴徑 何程
底徑 何程
深サ 何程
石數 何程

壹本

右ハ今般新調書面之通御座候間御檢査之上御檢印被下度此段奉願候已上

何國何郡區何町村何番地

年月日

戶長

氏名

印

氏名

印

四百七十五

用紙美濃紙

御請書

蒸溜器械請書モ本書式ニ倣ヒ別冊ニ製スヘシ

私所持之造酒搾リ器械左ノ箇所々々御封印相請候ニ付右器械使用之節ハ御成規之通其旨御届仕御解封可願上尤御解封ノ上ハ左ニ掲クル日數中ニ必使用 洗滌ヲ相了リ御届ノ上御再封相請可申候仍テ御封緘并ニ御解封ノ都度其年月日及 使用 洗滌 日數ヲ左ニ掲記シ御請印仕候也

明治何年何月何日

御封緘箇所

一酒槽樋口 壹ヶ所

一男柱孔

一ヶ所

氏名

印

御封緘年月日

御封印解年月日

器械

使用 洗滌 日數

①明治何年何月何日 ②明治何年何月何日

使用

全 明治何年何月何日ヨリ何日間

③明治何年何月何日 ④明治何年何月何日

洗滌

全 明治何年何月何日ヨリ何日間

第十五號

何酒もと立検査願

一 何斗甑 幾個

右ハ一期見込御届高ノ内書面ノ通來ル何日ヨリ着手仕度候間該日限御検査被下度此段願上候也

年月日

検査官員宛

第十六號

石數取調帳

一 清酒何程

内

何程

何程

内

何程

何郡區何町村何番地

氏名 印

前検査濟高

出酒高

現在高

第何號桶全

第何號端桶透キ何程

